
男女共同参画に関するアンケート結果
市 民



令和7年3月

倉 敷 市

目 次

◇ 調査の概要	1
◇ 回答者のプロフィール	3
◇ 調査結果の概要	14
◇ 調査結果	
1 男女平等意識（問１～４）	17
2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）（問５～９）	35
3 セクシュアル・ハラスメント（問１０、１１）	45
4 ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）（問１２～１８）	48
5 倉敷市の男女共同参画施策（問１９、２０）	56
6 性的マイノリティ（ＬＧＢＴ）（問２１～２３）	67
7 性別による生きづらさ（問２４、２５）	72
◇ 自由意見	75
◇ 調査票	107

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、倉敷市における男女共同参画に関する市民の意識、実態及びニーズ等を把握し、過去の意識調査と比較、検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けてのさまざまな施策を充実させるために活用するとともに、令和8年度を計画の初年度とする倉敷市男女共同参画基本計画を策定するための基礎資料とする。

2 調査の期間

令和6年8月16日～9月17日

3 調査の対象

18歳以上の住民基本台帳から無作為抽出した市民3,540人

(令和4年4月から成年年齢が引き下げられたことに伴い、今回のアンケートから18歳以上20歳未満も対象とした。)

4 調査方法

郵送配布、郵送回収または電子申請

5 調査項目

前頁「目次」のとおり

6 報告書の見方

- (1) グラフの中の「n」は、その項目における回答者を合計した実数値であり、割合(%)算出の基数となる。
- (2) 割合(%)については、小数点以下第2位を四捨五入した。四捨五入の結果により各割合の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問については、回答者数を基数として算出しているため、その合計は100%を超える場合がある。

7 回収数

1,001人(電子申請247件含む)(回収率28.3%)

8 回収結果

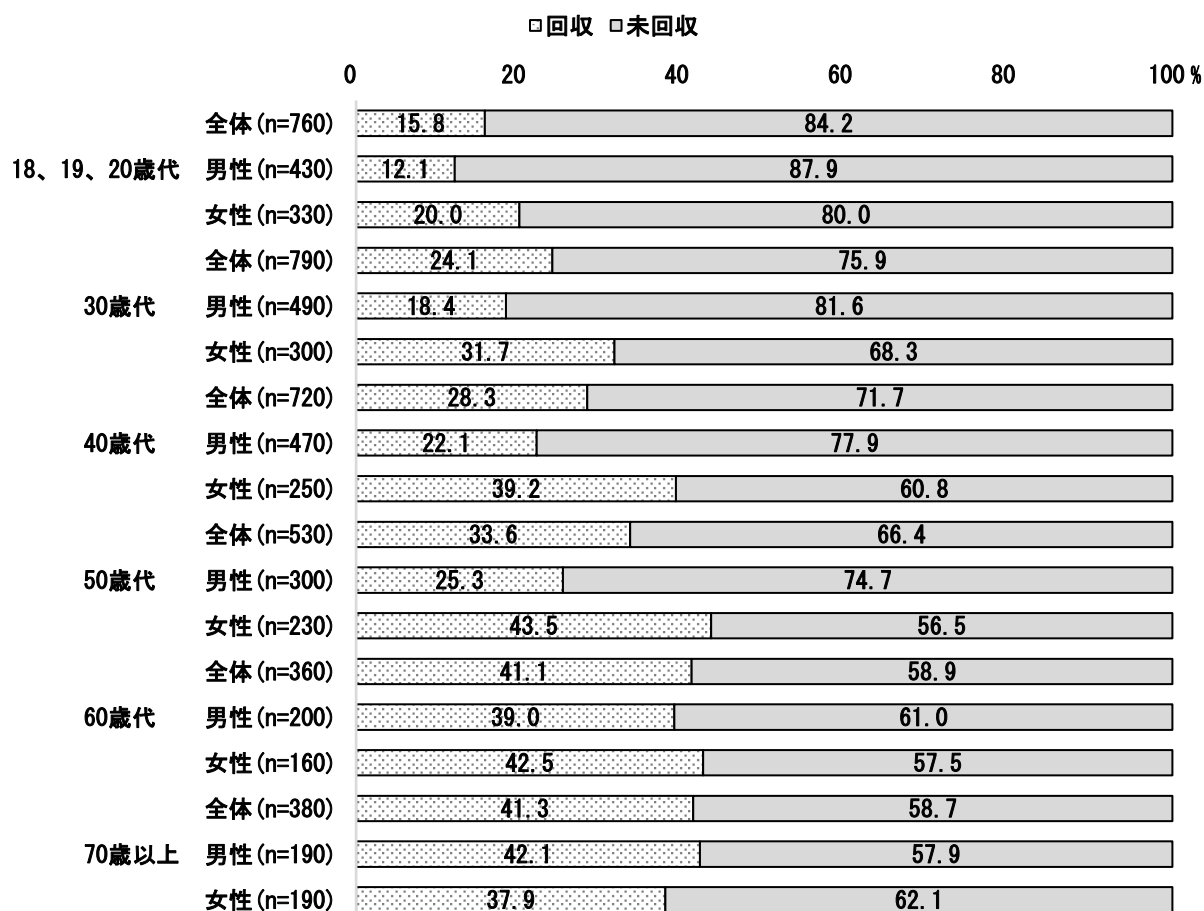
次頁のとおり

【男女年代別回収状況】

区分		18、19 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	総数
全体	依頼数	760	790	720	530	360	380		3,540
	回収数	120	190	204	178	148	157	4	1,001
	%	15.8%	24.1%	28.3%	33.6%	41.1%	41.3%		28.3%
男性	依頼数	430	490	470	300	200	190		2,080
	回収数	52	90	104	76	78	80	1	481
	%	12.1%	18.4%	22.1%	25.3%	39.0%	42.1%		23.1%
女性	依頼数	330	300	250	230	160	190		1,460
	回収数	66	95	98	100	68	72	1	500
	%	20.0%	31.7%	39.2%	43.5%	42.5%	37.9%		34.2%
不明	回収数							6	

令和5年市民アンケート（企画経営室実施）の回収率をもとに、各年代・性別の回収目標数を100として、依頼数を算出した。

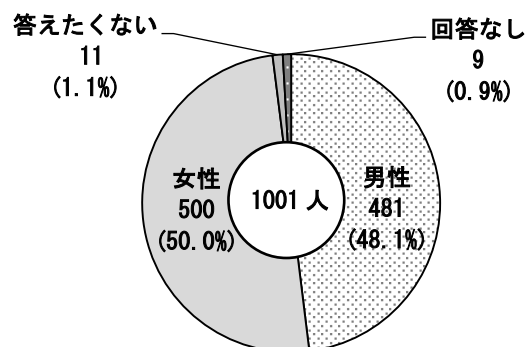
【年齢/性別 回収率】



回答者のプロフィール

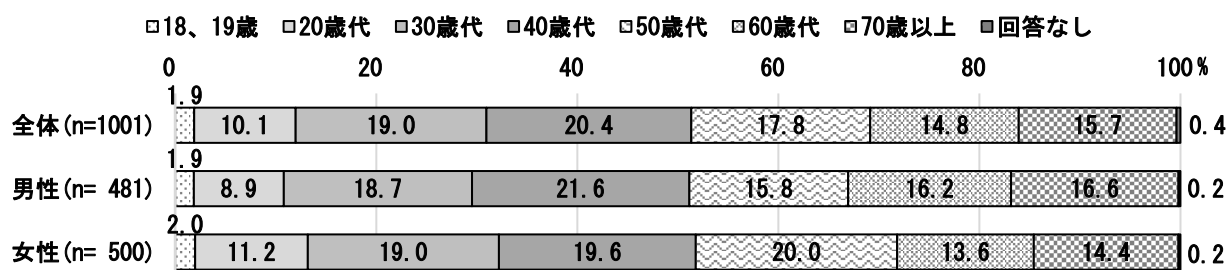
F 1 性別

【グラフF1-1】



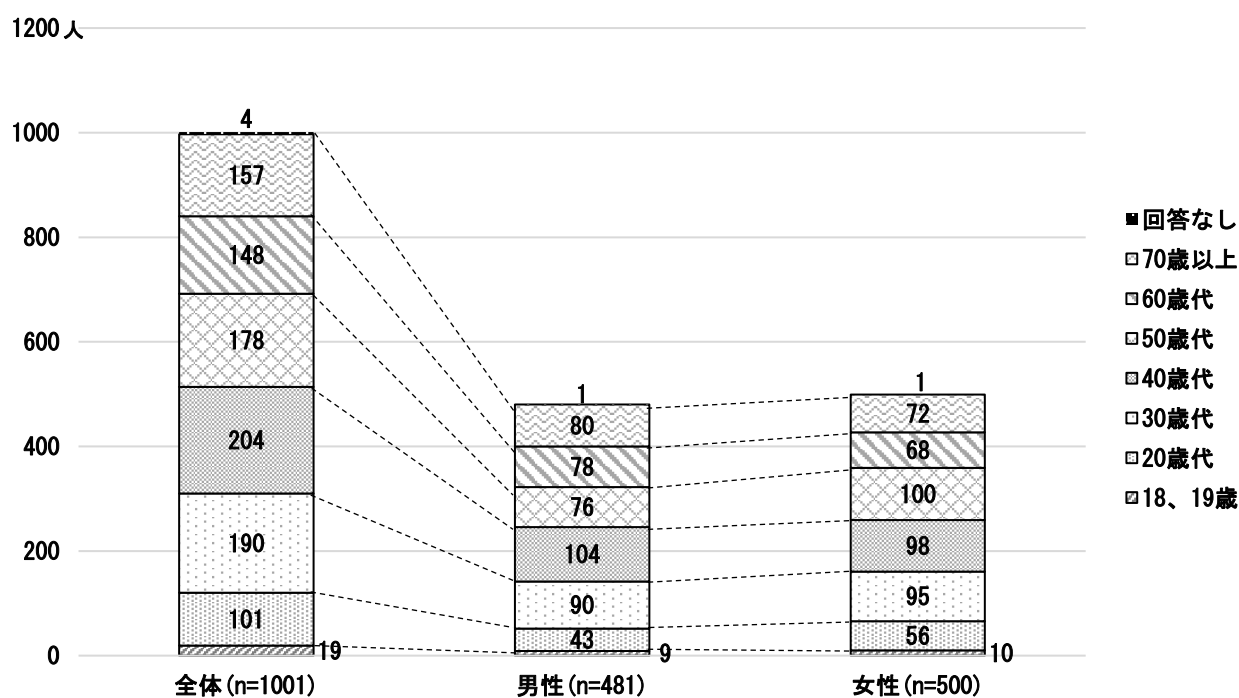
F 2 年齢（割合）

【グラフF2-1】



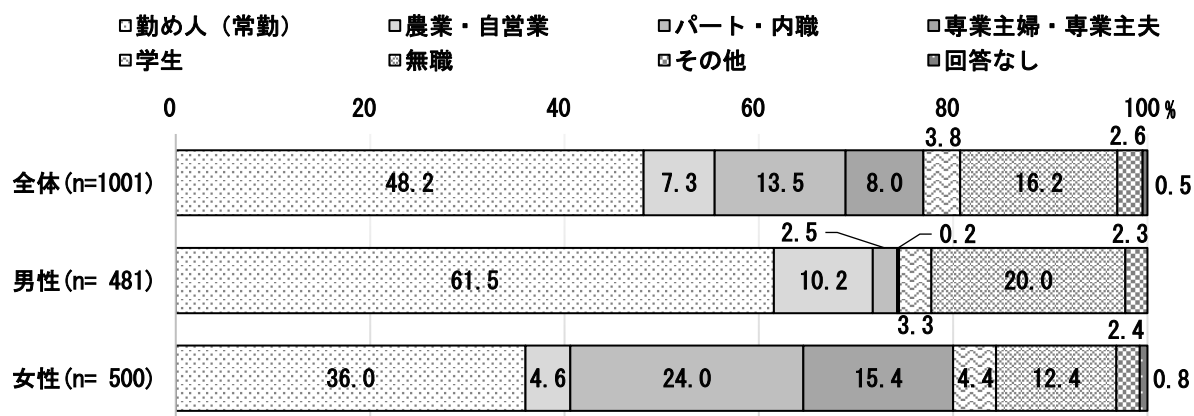
F 2 年齢（人数）

【グラフF2-2】

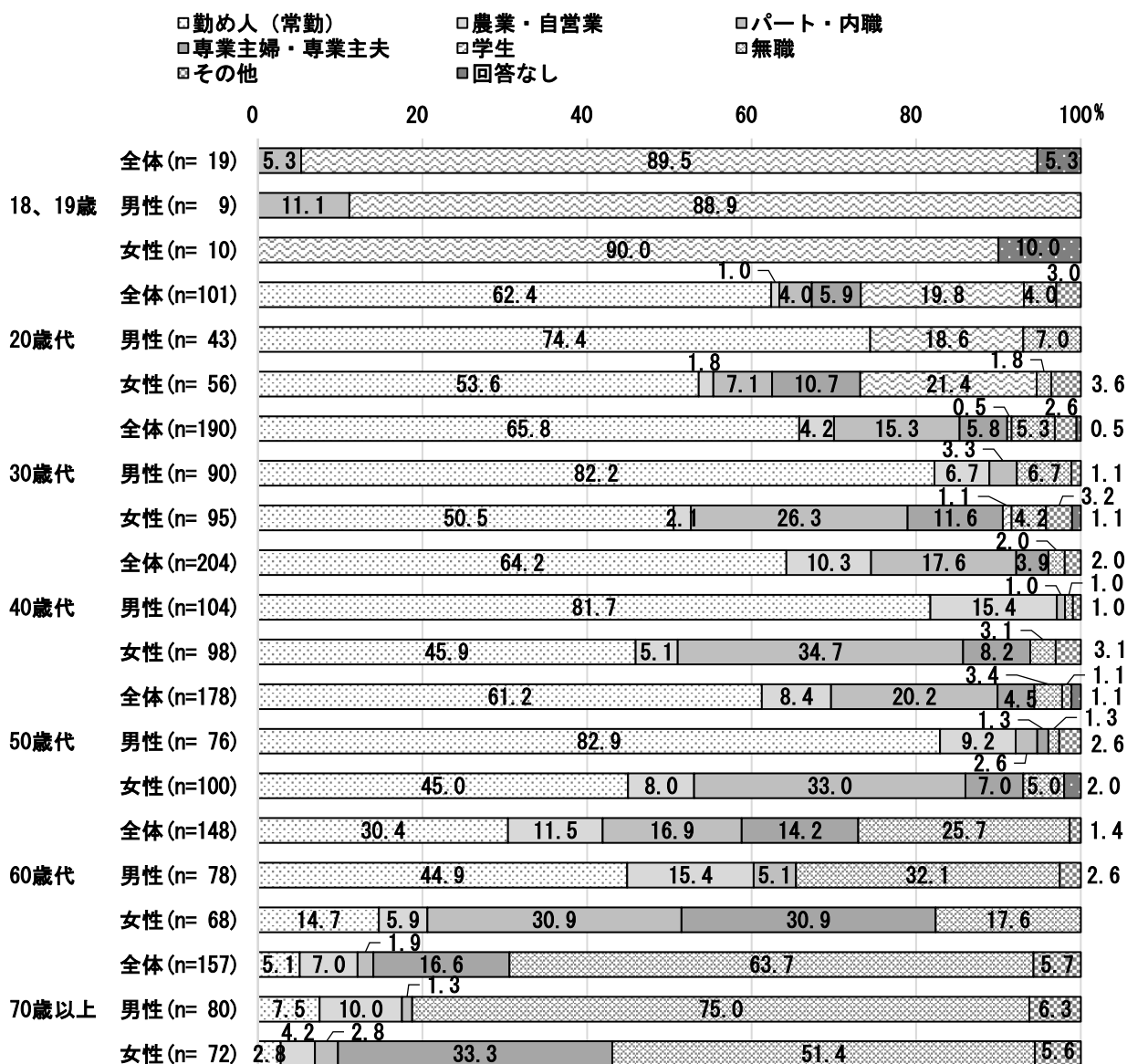


F 3 職業

全体【グラフF3-1】

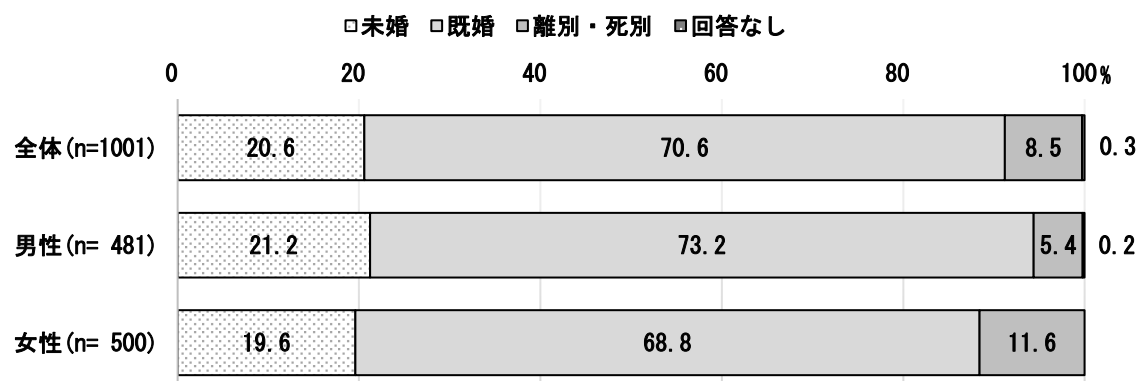


年代別【グラフF3-2】

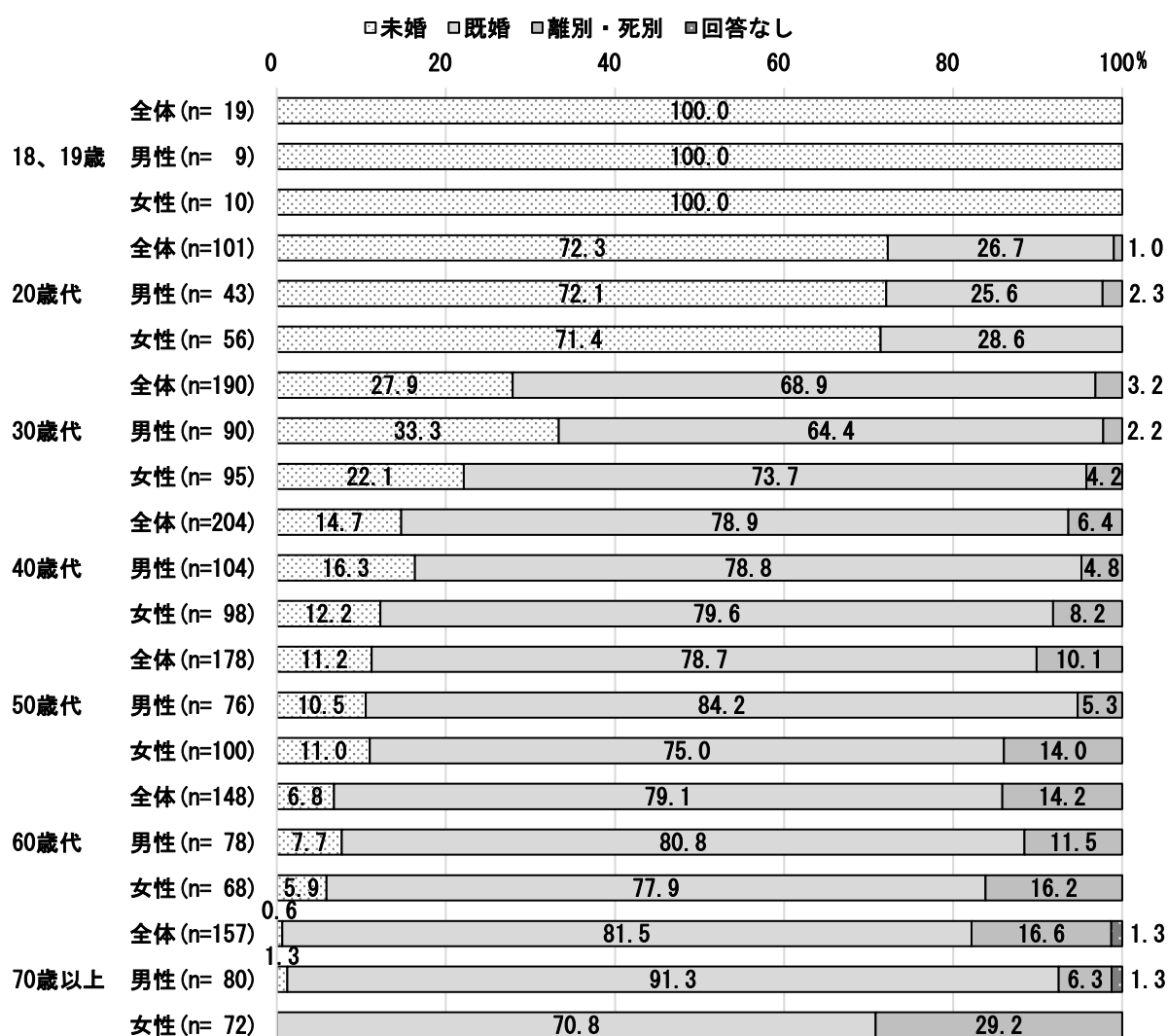


F 4 結婚の経験

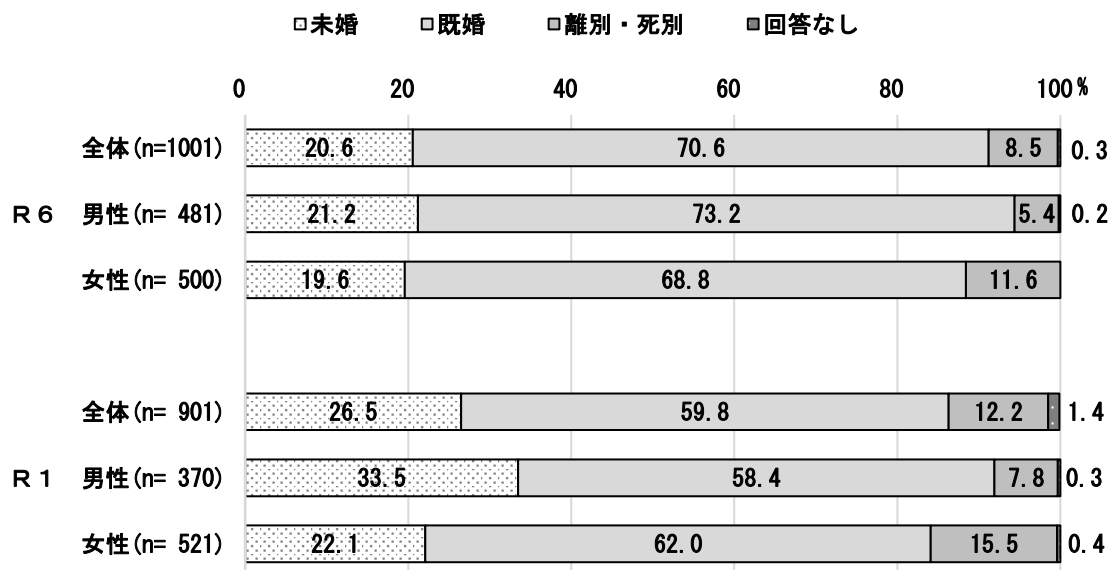
全体【グラフF4-1】



年代別【グラフF4-2】

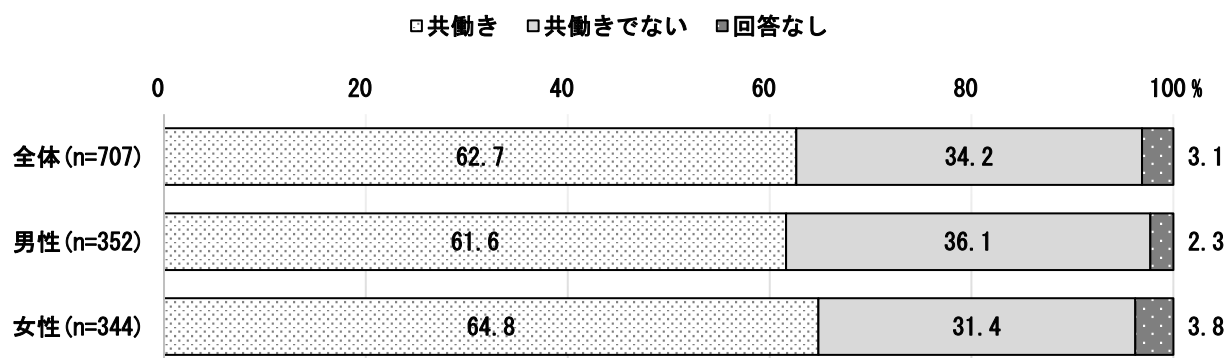


前回調査との比較【グラフF4-3】

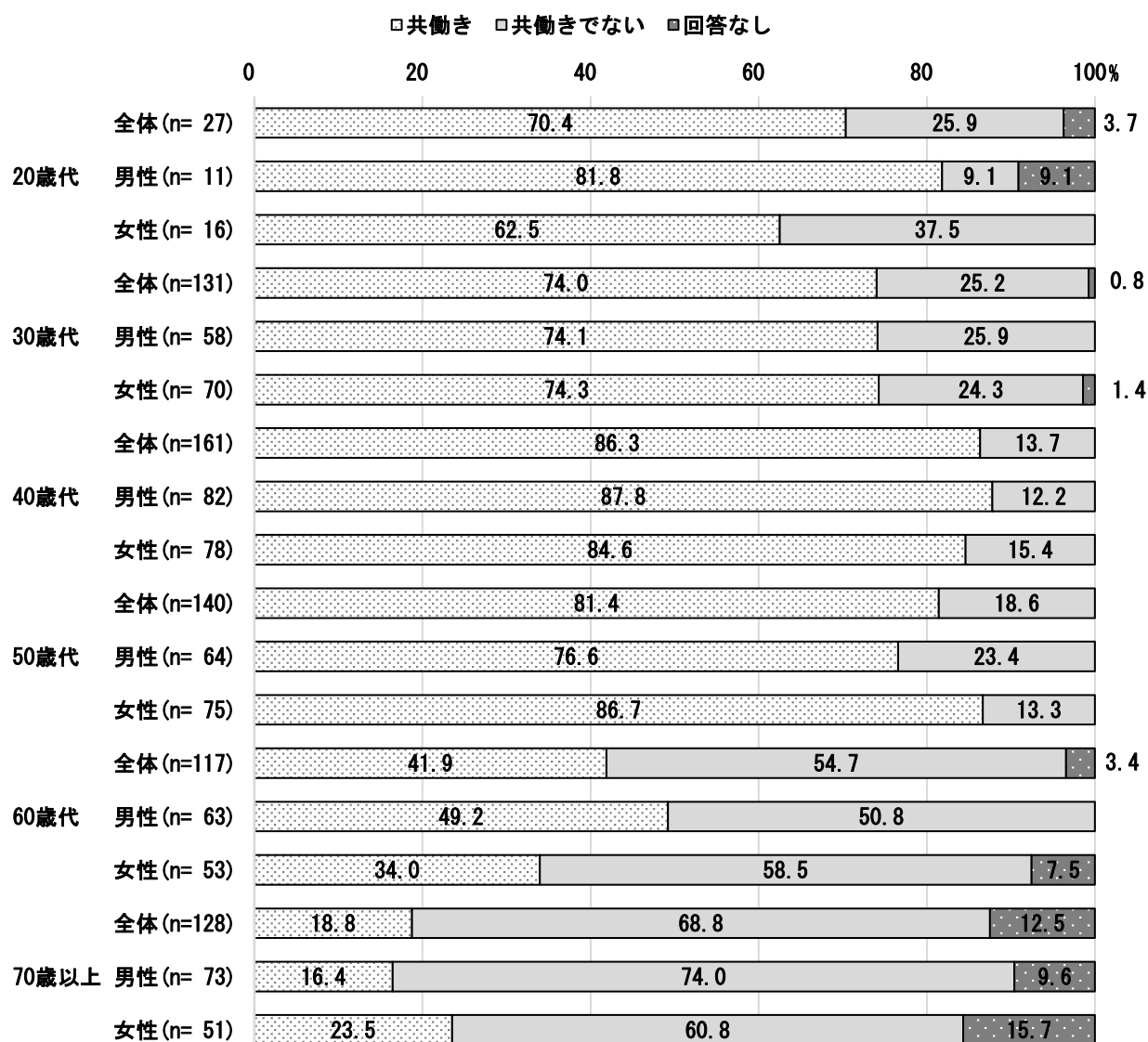


F 5 共働きの状況（既婚者のみ回答）

全体【グラフF5-1】

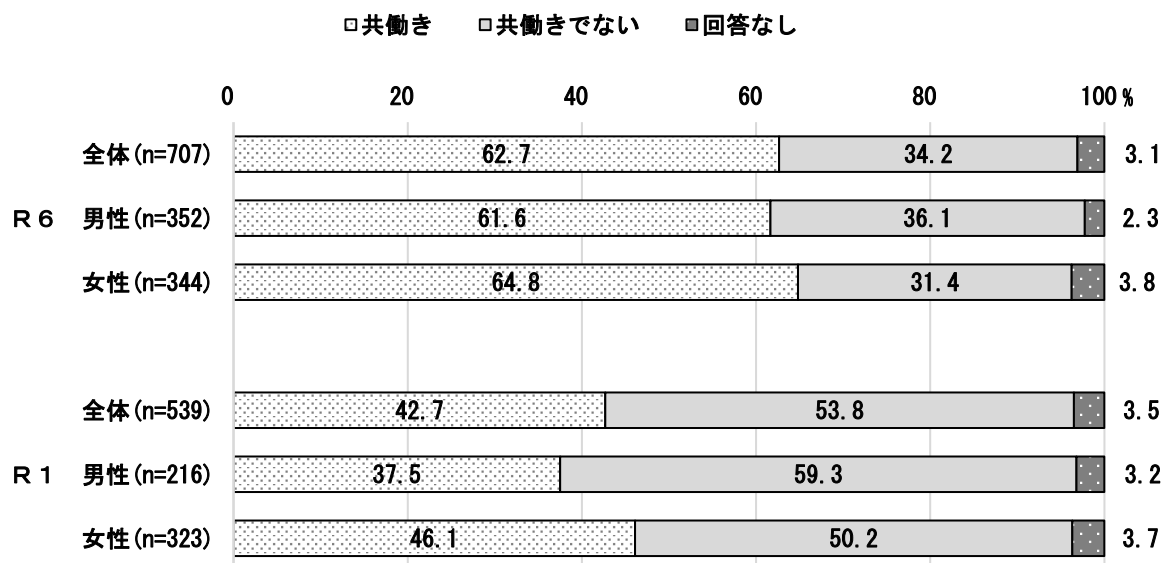


年代別【グラフF5-2】



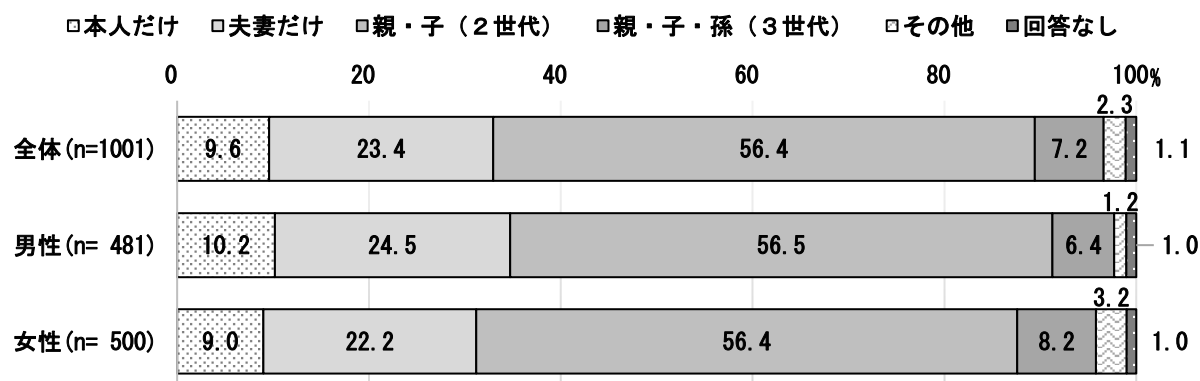
※18, 19 歳の回答者は全員未婚

前回調査との比較【グラフF5-3】

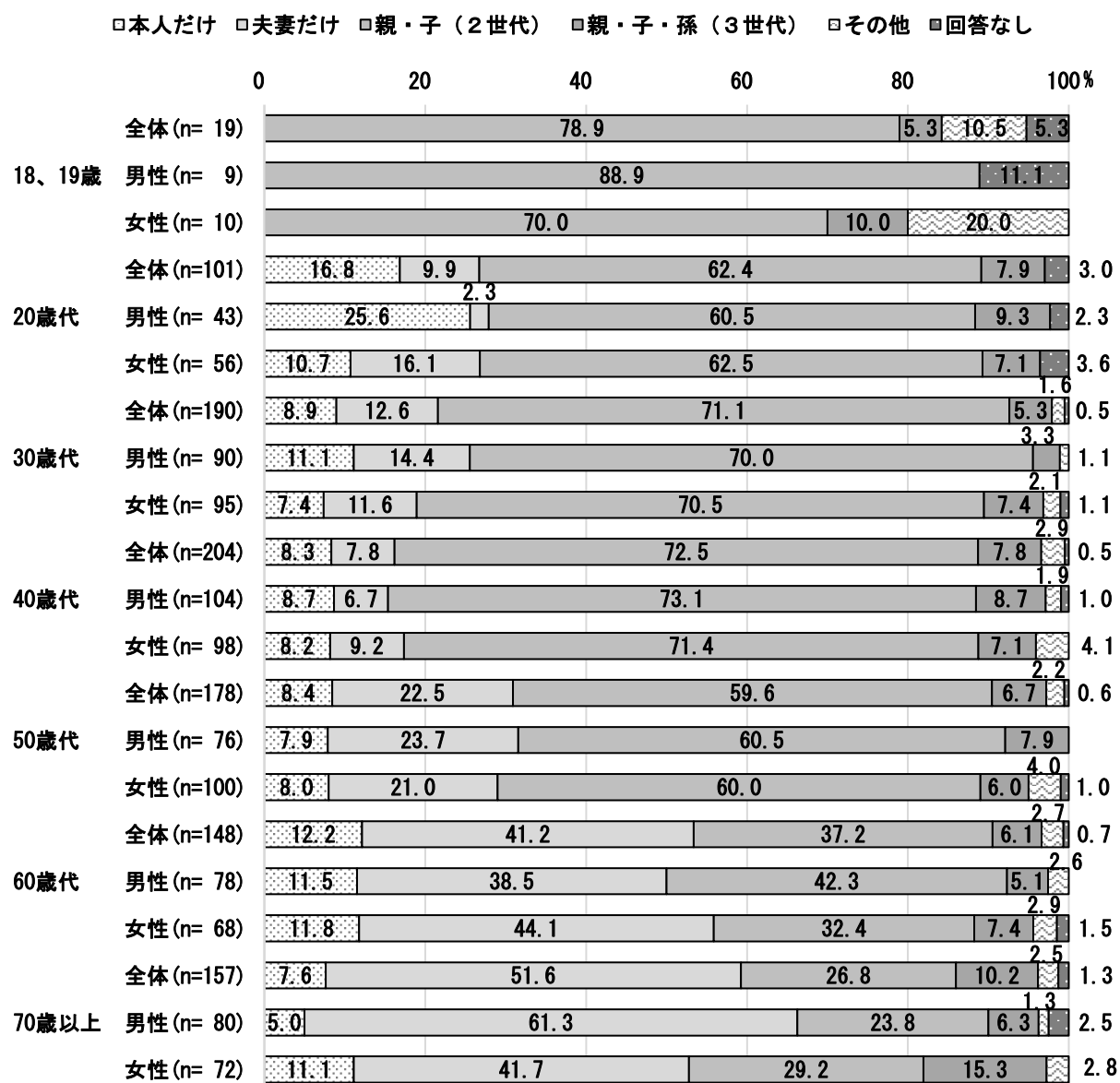


F 6 世帯構成

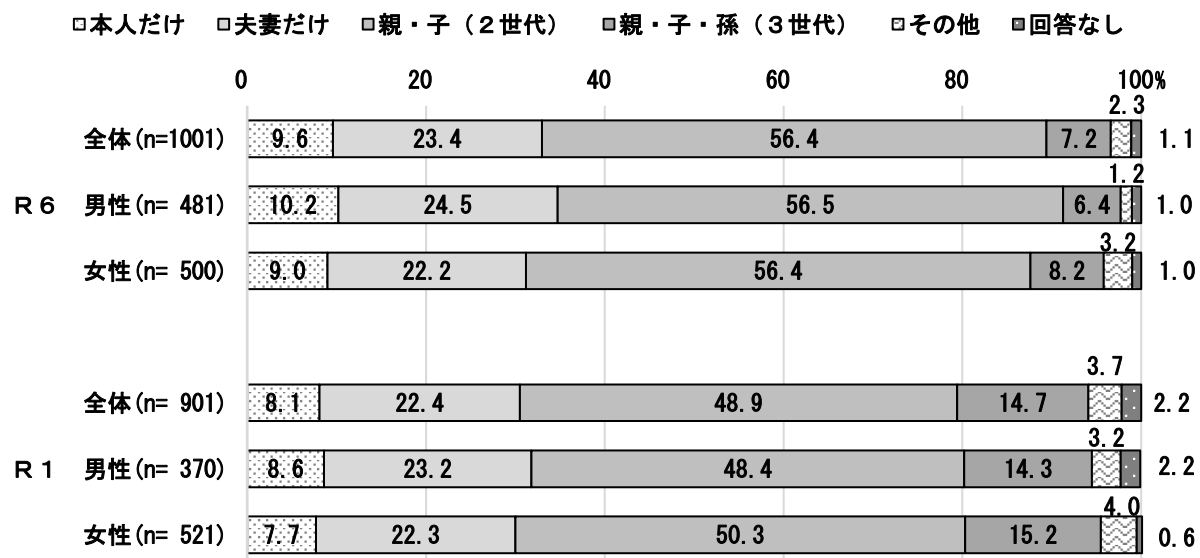
全体【グラフF6-1】



年代別【グラフF6-2】

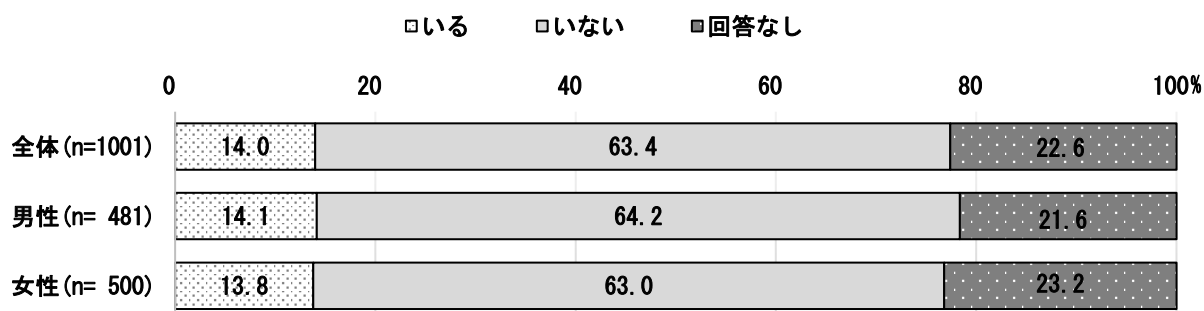


前回調査との比較【グラフF6-3】

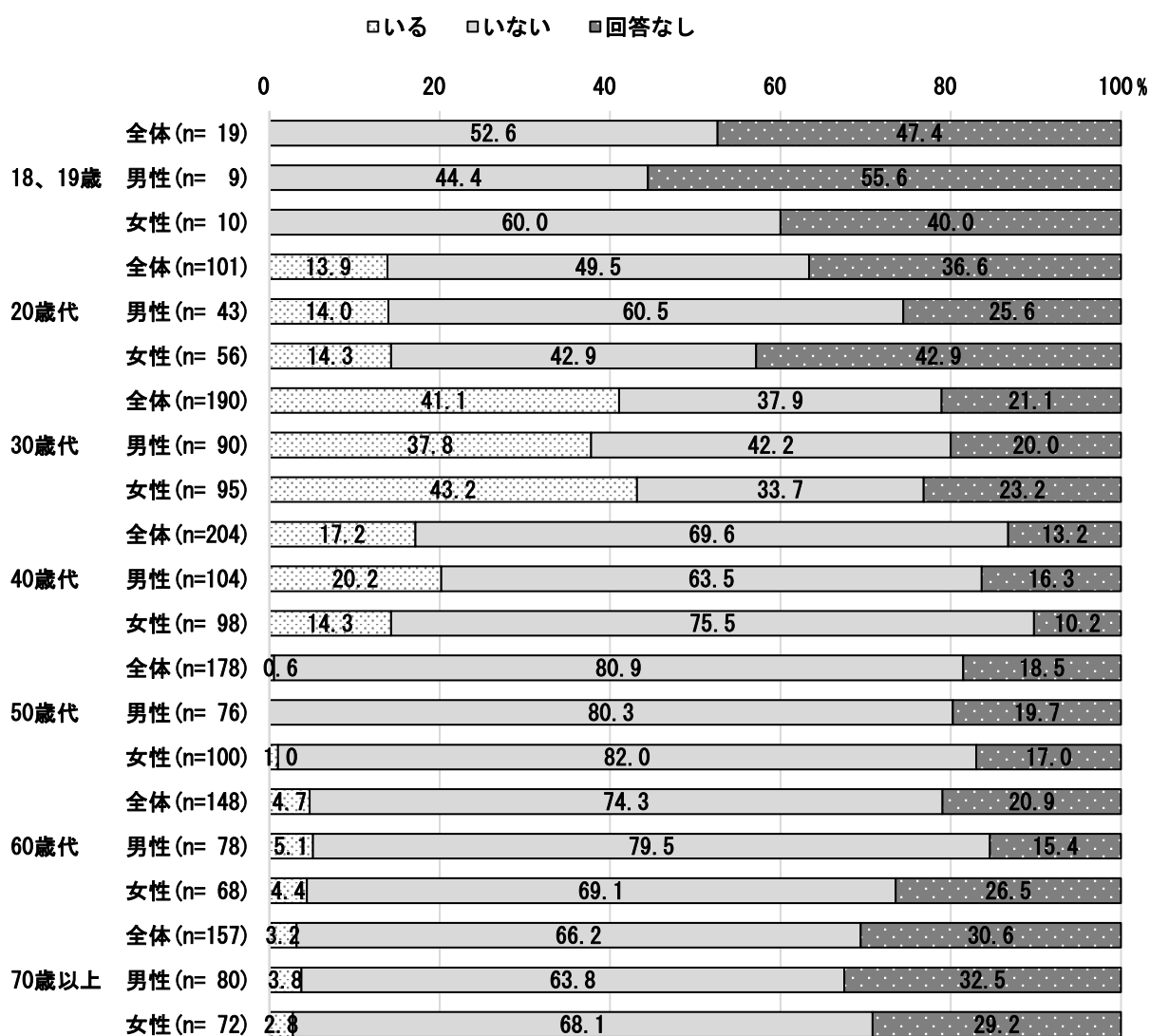


F 7 小学校入学前の子どもの有無

全体【グラフF7-1】

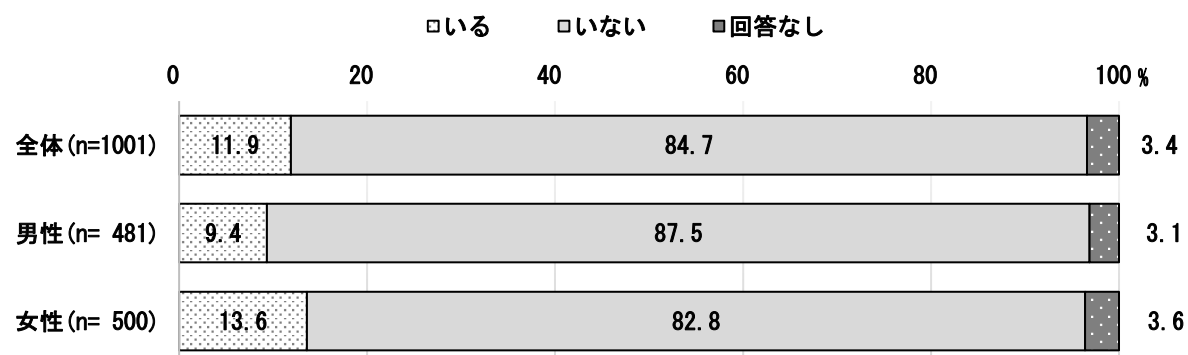


年代別【グラフF7-2】

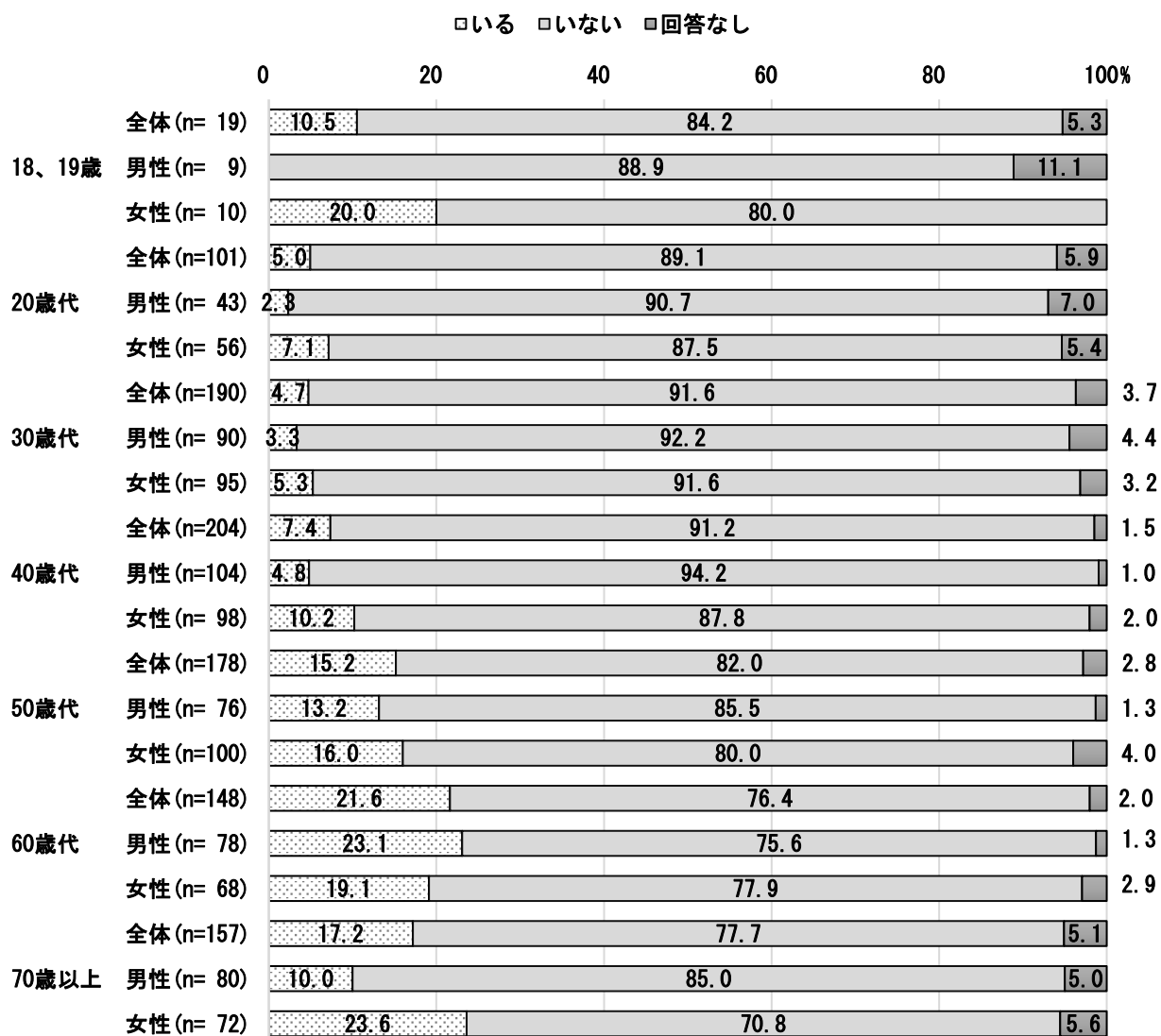


F 8 介護を必要とする人の有無

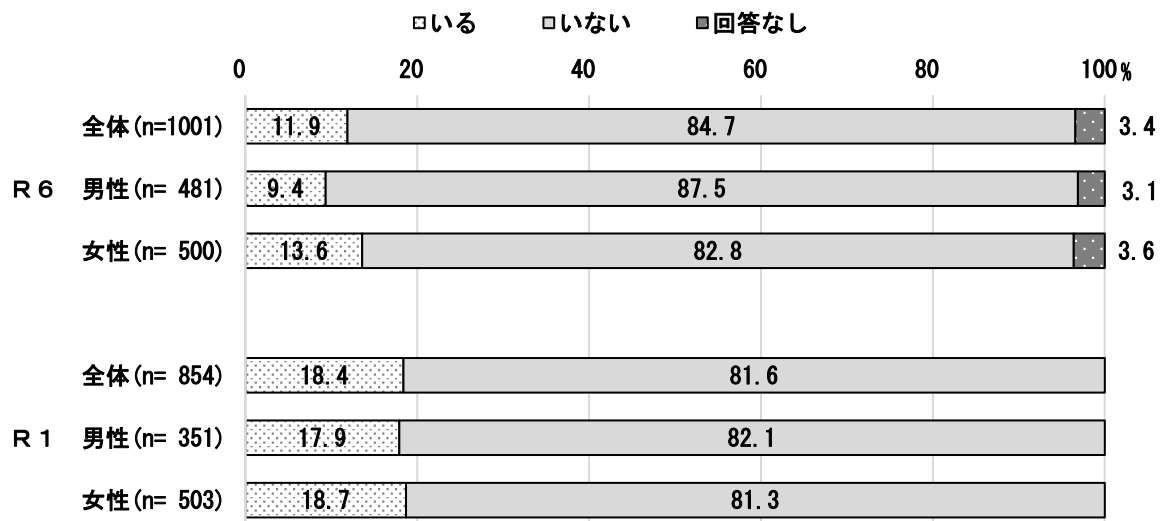
全体【グラフF8-1】



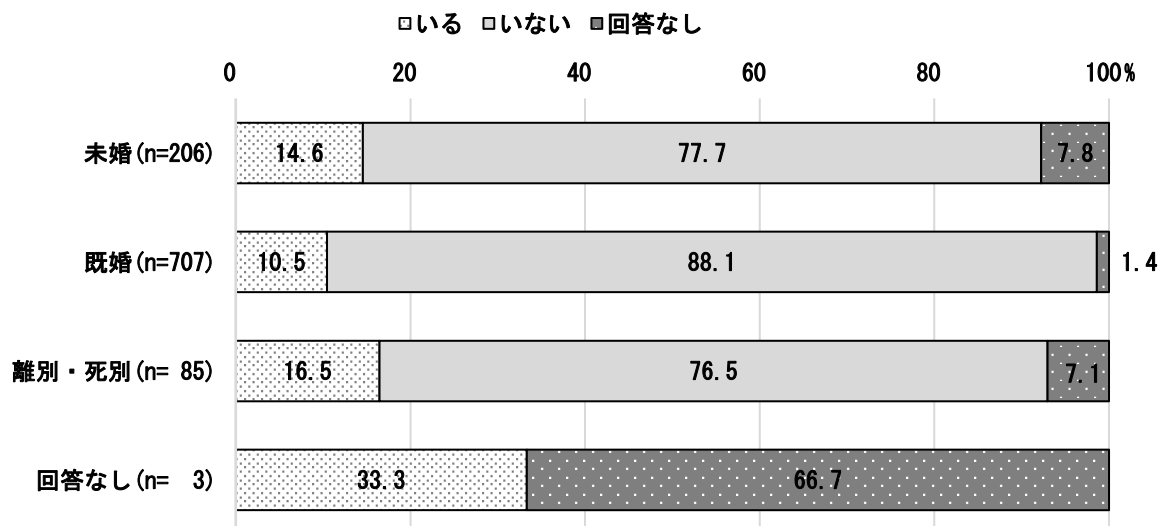
年代別【グラフF8-2】



前回調査との比較【グラフF8-3】



結婚の経験別【グラフF8-4】



調査結果の概要

1 男女平等意識（問1～問4）

家庭、職場、学校、地域社会、政治、慣習・しきたりの中で男女が平等になっているか尋ねた設問では、「平等になっている」と回答した人が最も多かったのは、全体では「家庭の中で」、次に「職場の中で」、「学校の中で」の順となった。男女別では、男性で最も多かったのは「家庭の中で」、次に「職場の中で」、「学校の中で」の順であり、女性で最も多かったのは「家庭の中で」、次に「学校の中で」、「職場の中で」の順であった。

一方、「平等になっている」と回答した人が最も少なかったのは「政治の中で」、次に「慣習・しきたり」であった。男女間の意識の差は「学校の中で」では小さかったが、他の項目では平等と感じている割合は女性の方が低かった。また、「女性が優位」という回答はどの項目においても1割未満であった。

さらに、項目別の経年的傾向として、「平等になっている」という回答は、前回調査（令和元年度）と比較してすべての項目で上昇しているものの、「地域社会の中で」「政治の中で」「慣習・しきたり」は1ポイント未満の緩やかな上昇にとどまっている。

固定的性別役割分担意識「男は仕事、女は家庭」という考え方について尋ねたところ、「同感する」と回答した人は、男性が11.2%（約9人に1人）、女性は4.6%（約22人に1人）であった。年代別では、30歳代男性、40歳代男性、70歳代男性は1割を超えていた。逆に「同感しない」と回答した人は全体の約半数であったが、女性が62.0%、男性が48.6%と男女間の意識の差が大きかった。

「同感する」理由としては、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いている」が最も多く、次に「夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく」であった。

これからは、どのような考え方で子どもを育てるのが望ましいかという問いに対しては、「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」が6割を超えて最も多く、次に「女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる」が約3割であった。年代別では、すべての年代で「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」が最も多く、5割以上であった。

2 ワーク・ライフ・バランス（※1）（仕事と生活の調和）（問5～問9）

一日の平均労働時間について尋ねたところ、男女ともに「8時間～10時間未満」が最も多かったが、男性は約半数であったのに対し、女性は約3割であった。

仕事をしていると回答した人（男性381人、女性369人）に、一日の家事・育児・介護に関わる時間について尋ねたところ、男性の20.7%が「していない」、24.9%が「30分未満」と回答していた。一方、女性は「1～3時間未満」が約4割で最も多く、「3～6時間未満」も約3割であった。

仕事、家庭、プライベートにおける希望する生活と現実の生活について尋ねたところ、希望する生活は「仕事と家庭とプライベートの調和」が全体の約半数を占めていた。しかし、現実には、男性は「仕事を優先」、女性は「仕事と家庭を優先」が最も多かった。

仕事、家庭、プライベートの調和を進めるために必要だと思うことについては、「労働時間

短縮や休日増加の推進」が最も多く、次に「働き方、仕事の進め方の見直し」でどちらも3割を超えていた。男女別では、男性は「働き方、仕事の進め方の見直し」が、女性は「労働時間短縮や休日増加の推進」が最も多かった。

3 セクシュアル・ハラスメント（※2）（セクハラ）（問10、11）

過去5年間における身近なところでのセクハラの有無について尋ねたところ、男女ともに6割以上が「ない」と回答していた。なお、「自分自身が受けたことがある」と回答したのは女性が10.6%、男性が2.9%であった。また、年代別では、20～50歳代の女性で1割以上が「自分自身が受けたことがある」と回答していた。

セクハラを受けたことがあると回答した人（男性14人、女性53人）に、セクハラの発生場所について尋ねたところ、「職場」が81.3%で最も多く、次に「学校」「地域活動」がどちらも5.3%であった。

4 ドメスティック・バイオレンス（※3）（DV）（問12～問18）

DVに関する相談窓口を知っているか尋ねたところ、男女ともに約半数が「知っている」と回答し、約半数が「知らない」と回答していた。年代別では、男女ともに30歳代が「知っている」割合が最も高かった。

過去5年間における身近なところでのDVについては、女性の6.4%（約15人に1人）、男性の2.5%（約40人に1人）が「自分自身が受けたことがある」と回答していた。令和元年度と比較して、全体で「見たり聞いたりしたことがある」が4.1ポイント減少し、「ない」が12.8ポイント増加した。

DVの問題についてどのような支援や施策が必要か尋ねたところ「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」「加害者への罰則の強化」「被害者の身の安全を確保できる場所（シェルター等）の提供」と回答した人が多かった。

DV被害を受けたことがあると回答した人（男性12人、女性32人）に、そのDVの内容を尋ねたところ、男女ともに「無視する、怒鳴る、大切なものを壊したり捨てたりするなどの行為」（精神的DV）が多かった。また、DV被害についてだれかに相談したか尋ねたところ、男性の25.0%、女性の37.5%が「相談した」と回答し、その相談先は「親族、友人・知人」が最も多かった。一方で、相談しなかった理由としては「自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかった」と思った」が最も多かった。

令和元年度と比較して、「相談した」と回答した人は全体で4.8ポイント、女性で2.8ポイント増加していた。男性は令和元年度0%であったが、今回は25.0%と4人に1人が「相談した」と回答していた。

5 倉敷市の男女共同参画施策（問19、20）

倉敷市の男女共同参画施策に関し、その実現状況を尋ねたところ、「実現している」と「ほぼ実現している」を合わせた割合が最も多かったのは、「性別にかかわらず、自由に職業を選べるようにすること」であった。一方で、「あまり実現していない」「実現していない」を合わせた割合が最も多かったのは、「男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること」であった。

男女共同参画の実現のために倉敷市が取り組むべき施策について尋ねたところ「介護の負

担を軽減するための制度やサービスの充実」「育児の支援を行うための制度や保育施設の充実」「学校における男女平等意識のための教育の充実」が必要と考えている人が多かった。

6 性的マイノリティ（※4）（LGBT）（問21～問23）

性的マイノリティまたはLGBTという言葉の意味について尋ねたところ、8割以上が「知っている」と回答していた。年代別では、70歳以上の女性の認知率が51.4%と最も低かったが、その他の年代では7割以上が「知っている」と回答していた。

倉敷市が性的マイノリティに対する取り組みを行っていることを知っているか尋ねたところ、令和元年度と比較して、全体で「知っている」と回答した人は、4.9ポイント増加し9.9%であった。

性的マイノリティの人権を守るために必要な取り組みを尋ねたところ、「学校教育現場での取り組み」が最も高く、次に「公的施設や窓口での不便解消」「相談窓口の設置」であった。

7 性別による生きづらさ（問24、25）

令和元年度までは質問の対象が男性のみであったが、今回は女性も対象とし、性別を理由に責任やつらさを感じることもあるか尋ねたところ、男女ともに約2割が責任やつらさを感じることもあると回答していた。年代別では、どの年代も責任や辛さを感じるものが「ある」よりも「ない」という回答が多かったが、40歳代女性や30歳代男性では「ある」という回答が3割を超えていた。

なお、男性については令和元年度と比較して、責任やつらさを感じるものが「ある」という回答が2割程度減少していた。

※1 ワーク・ライフ・バランス

働き方の見直しなどにより、個人の価値観に基づく多様な選択（仕事、家庭生活、地域活動、個人活動などさまざまな活動を自らの希望するバランスで行うことができる）が可能な社会をつくり、意欲をもって働きながら豊かさを実感して暮らせるようになること

※2 セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なうわさの流布などさまざまなものがある。一般に「セクハラ」と略して使われる。職場以外でも問題になっている。

※3 ドメスティック・バイオレンス

夫婦（恋人）間暴力のことで、パートナーからの暴力をいう。殴る、蹴るなどの身体的暴力だけでなく、言葉による精神的暴力、性的暴力などいろいろな形がある。一般に「DV」と略して使われる。

※4 性的マイノリティ・LGBT

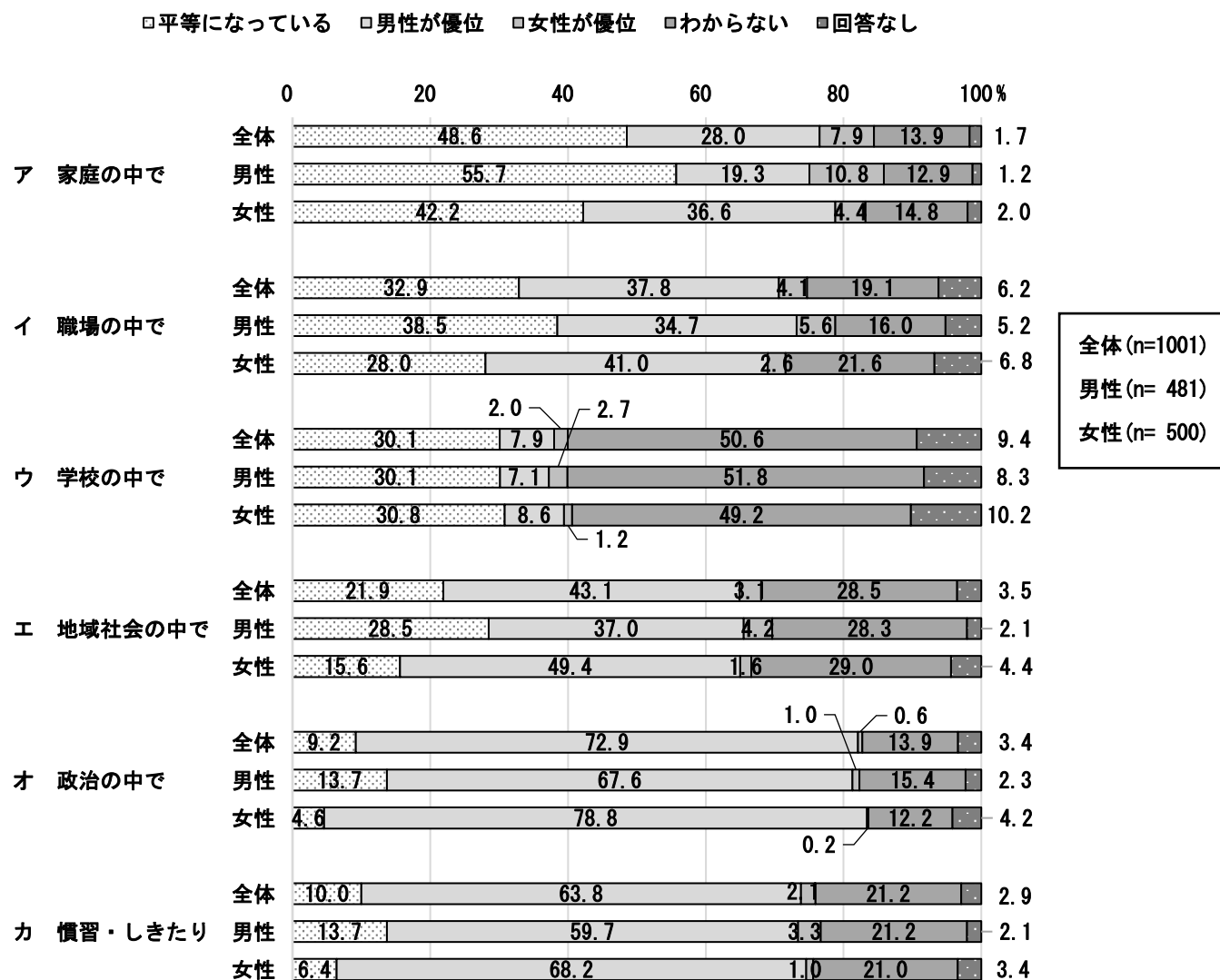
レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性別不合など心と体の性が一致しない人）などの総称

調査結果

1 男女平等意識（問1～4）

問1 ア～カの項目について、男女は平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

項目別【グラフ1-1】



＝ 「平等になっている」が最も多いのは『家庭の中で』、「男性が優位である」が最も多いのは『政治の中で』＝

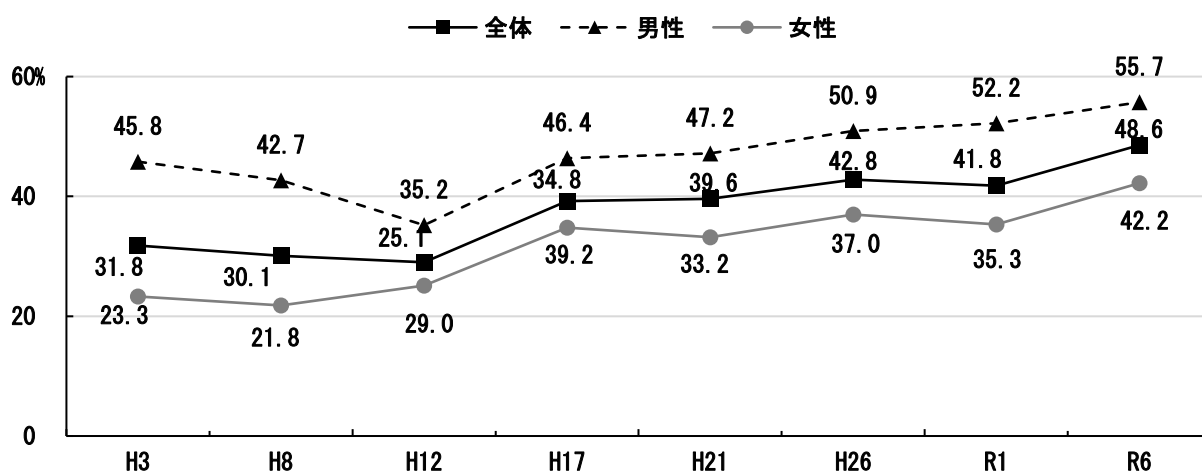
項目別で「平等になっている」と回答した人が、全体で最も多いのは『家庭の中で』48.6%、次に『職場の中で』32.9%、『学校の中で』30.1%、『地域社会の中で』21.9%となっている。「男性が優位」が最も多いのは『政治の中で』72.9%、次に『慣習・しきたり』63.8%となっている。「女性が優位」はどの項目も少ない。

男女別では、男性で「平等になっている」と回答した人が最も多いのは『家庭の中で』55.7%、次に『職場の中で』38.5%、『学校の中で』30.1%となっている。女性で「平等になっている」と回答した人が最も多いのは『家庭の中で』42.2%、次に『学校の中で』30.8%、『職場の中で』28.0%となっている。

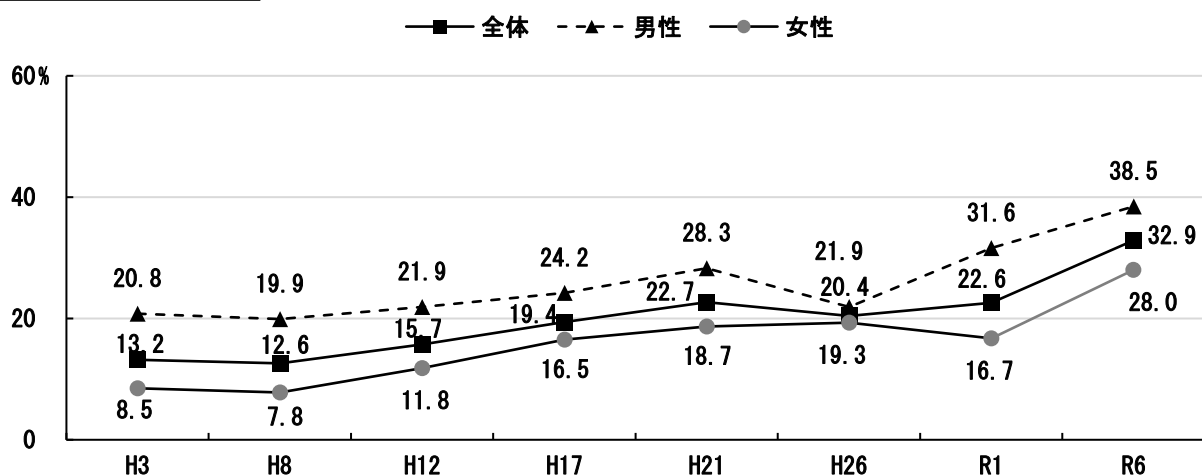
「平等になっている」と答えた人の
推移【グラフ1-2】

平成 3 年度	全体 (n= 957)	男性 (n=360)	女性 (n=597)
平成 8 年度	〃 (n= 997)	〃 (n=396)	〃 (n=601)
平成 12 年度	〃 (n= 566)	〃 (n=219)	〃 (n=347)
平成 17 年度	〃 (n= 884)	〃 (n=328)	〃 (n=554)
平成 21 年度	〃 (n=1039)	〃 (n=437)	〃 (n=596)
平成 26 年度	〃 (n= 923)	〃 (n=393)	〃 (n=519)
令和 元年度	〃 (n= 901)	〃 (n=370)	〃 (n=521)
令和 6 年度	〃 (n=1001)	〃 (n=481)	〃 (n=500)

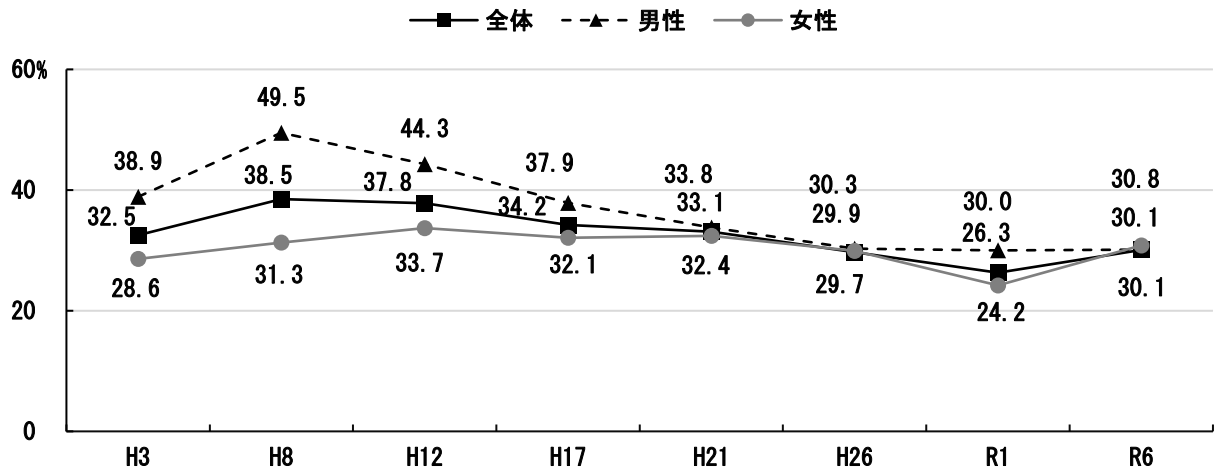
ア 家庭の中で



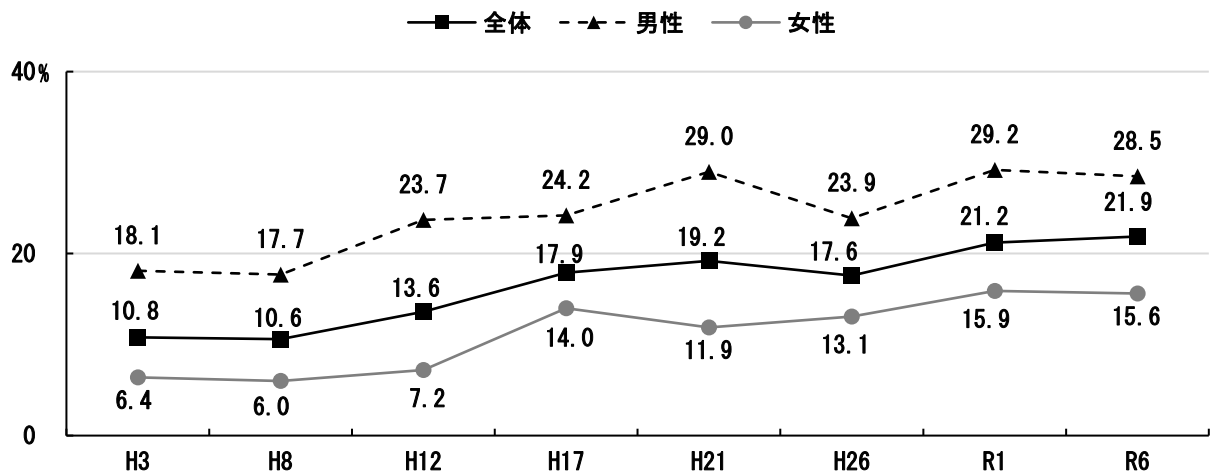
イ 職場の中で



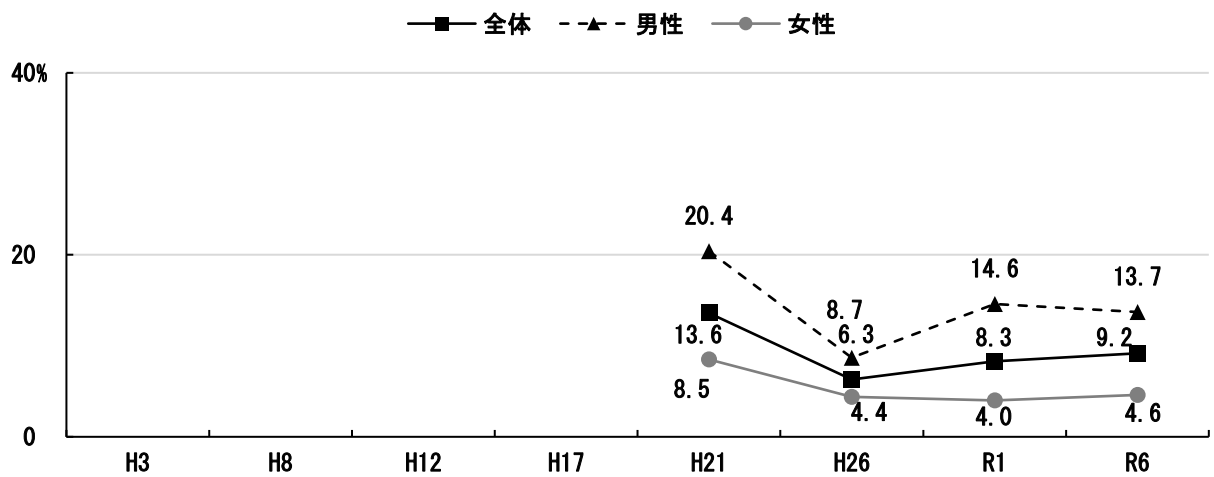
ウ 学校の中で



エ 地域社会の中で

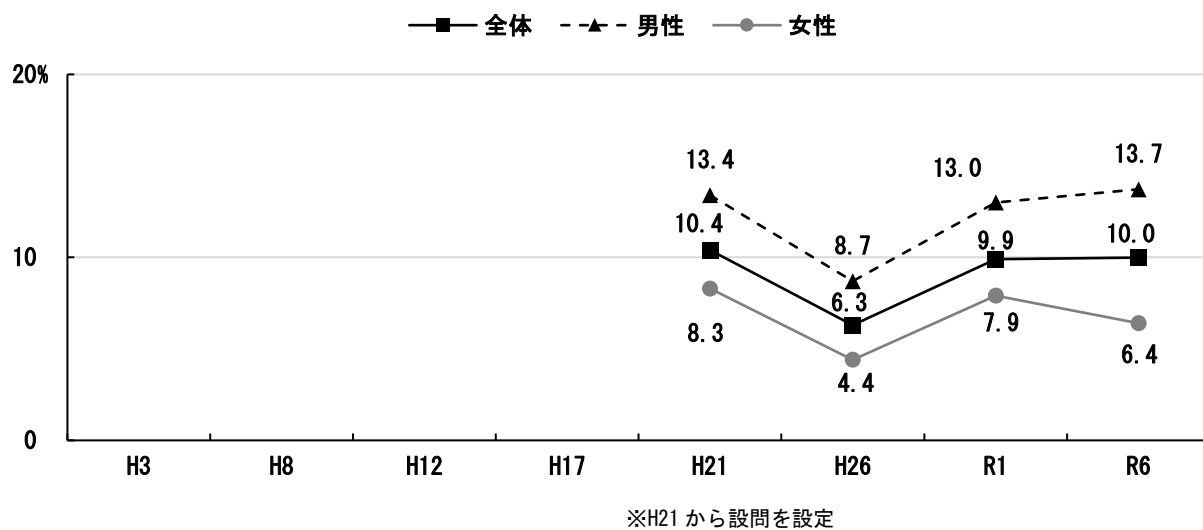


オ 政治の中で



※H21 から設問を設定

力 慣習・しきたり

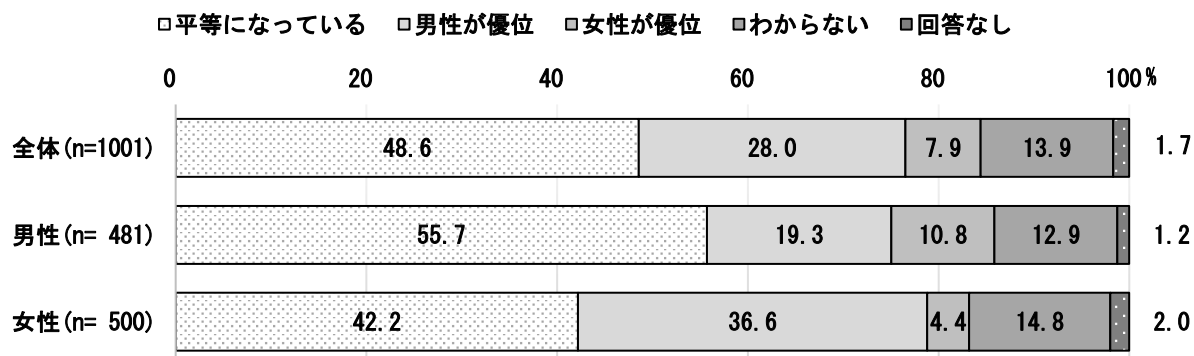


全体では「平等になっている」と答えた人は令和元年度と比較して、ア～カ全てにおいて上昇している。

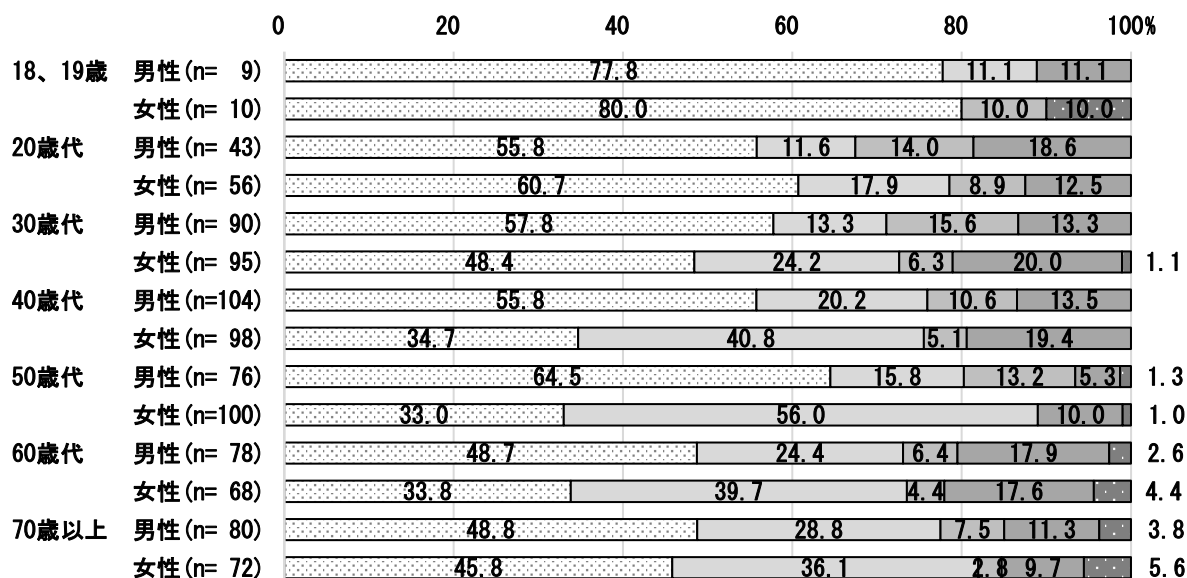
ただし「家庭の中で」は6.8ポイント、「職場の中で」は10.3ポイント、「学校の中で」は3.8ポイントと上昇しているが、「地域社会の中で」、「政治の中で」、「慣習・しきたり」は1ポイント未満の緩やかな上昇となっている。

ア 家庭の中で

全体【グラフ1-ア-1】



年代別【グラフ1-ア-2】



＝ 『家庭の中で』は、男性、女性ともに「平等になっている」が最も多い ＝

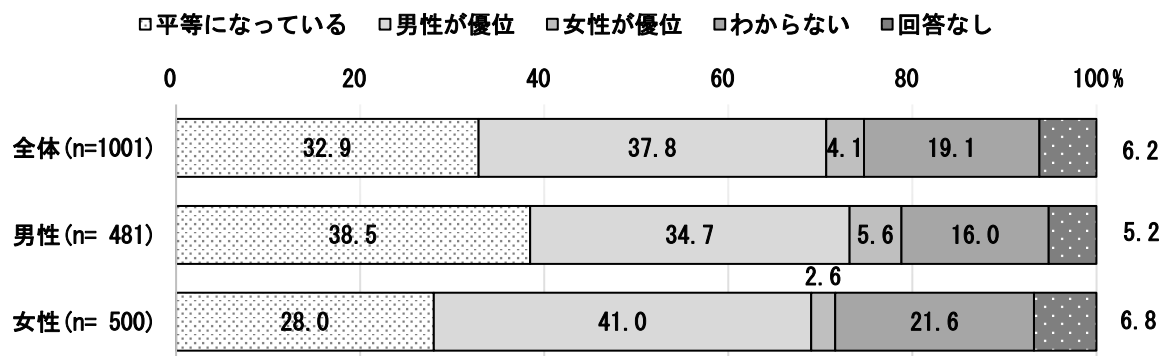
全体では「平等になっている」が48.6%と最も多く、次に「男性が優位」で28.0%となっている。「女性が優位」は7.9%と低い数値となっている。

男性、女性ともに「平等になっている」が最も多く男性55.7%、女性42.2%、次に「男性が優位」で男性19.3%、女性36.6%となっている。男性、女性ともに「女性が優位」は少なく、男性10.8%、女性4.4%となっている。

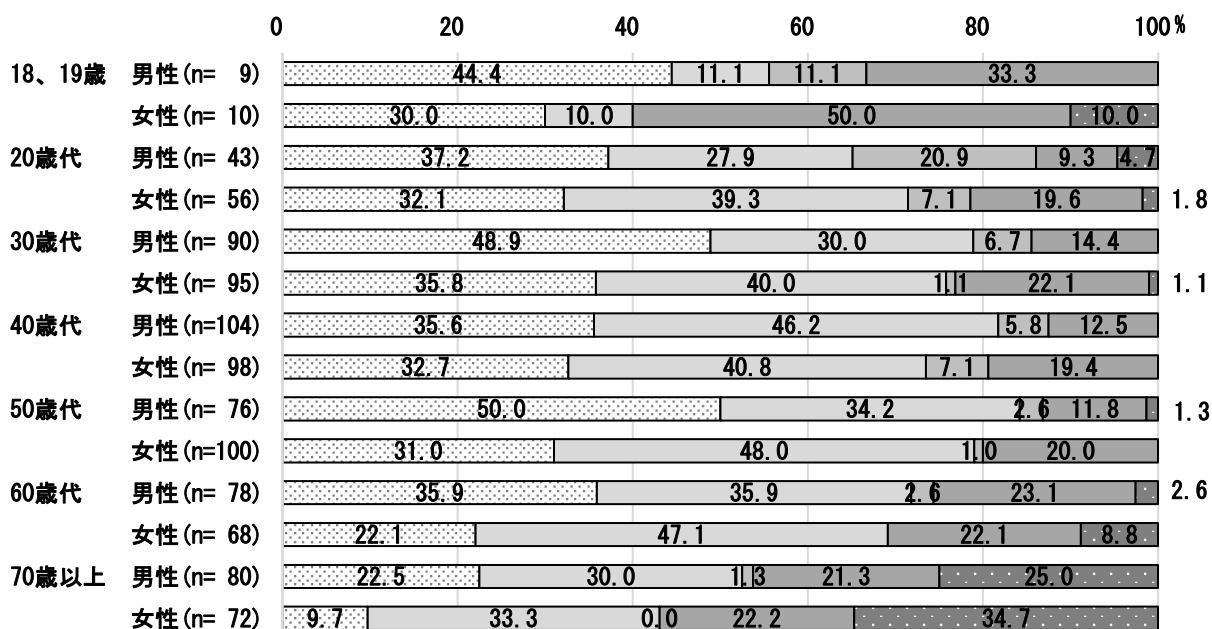
年代別では「平等になっている」が、どの年代においても、男性は4割、女性は3割を超えている。

イ 職場の中で

全体【グラフ1-イ-1】



年代別【グラフ1-イ-2】



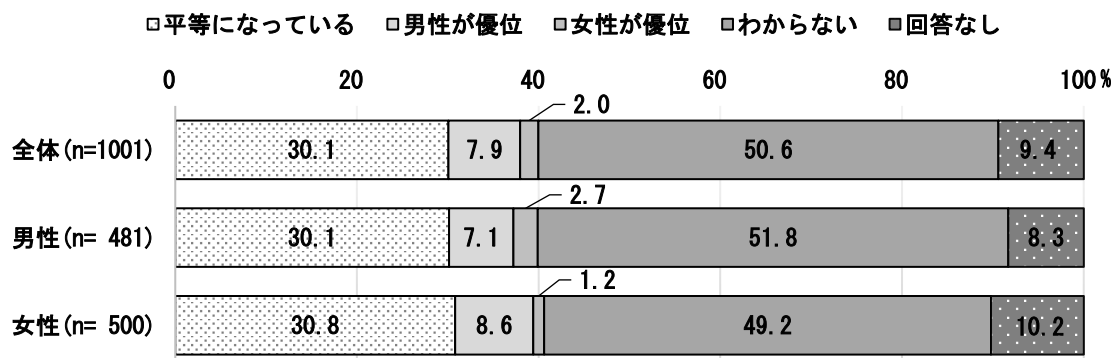
＝『職場の中で』は、男性は「平等になっている」、女性は「男性が優位」が最も多い＝
全体では「男性が優位」が37.8%と最も多く、次に「平等になっている」で32.9%となっている。「女性が優位」は4.1%と低い数値となっている。

男女別では、男性は「平等になっている」が38.5%で最も多く、次に「男性が優位」が34.7%となっている。女性は「男性が優位」が41.0%と最も多く、次に「平等になっている」が28.0%となっている。男性、女性ともに「女性が優位」は少なく、男性5.6%、女性2.6%となっている。

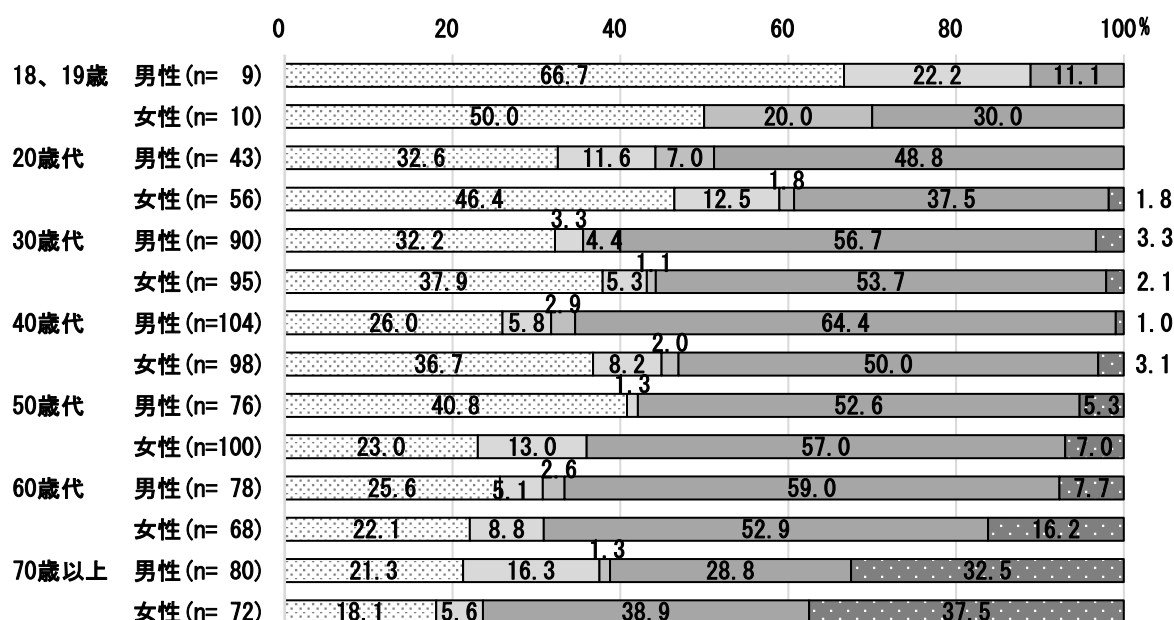
年代別では「平等になっている」が男性は60歳代以下の年代ですべて3割を超えており、特に50歳代は50.0%となっている。女性は50歳代以下の年代ですべて「平等になっている」が約3割となっている。

ウ 学校の中で

全体【グラフ1-ウ-1】



年代別【グラフ1-ウ-2】



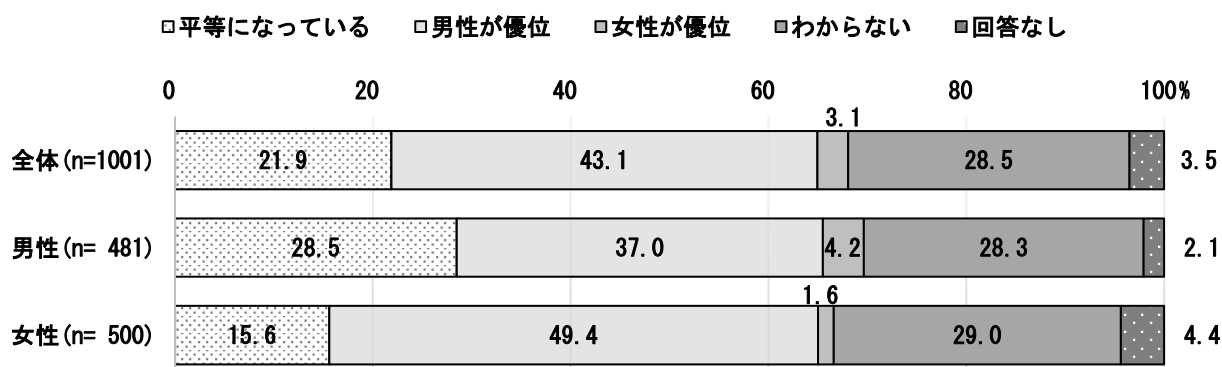
＝ 『学校の中で』で「平等になっている」約3割 ＝

全体では、男性、女性ともに「わからない」と回答した人が最も多くなっている。「平等になっている」と回答した人は、全体 30.1%、男性 30.1%、女性 30.8%となっている。「男性が優位」と答えた人は、全体 7.9%、男性 7.1%、女性 8.6%となっており、「女性が優位」は全体で 2.0%と低い数値となっている。

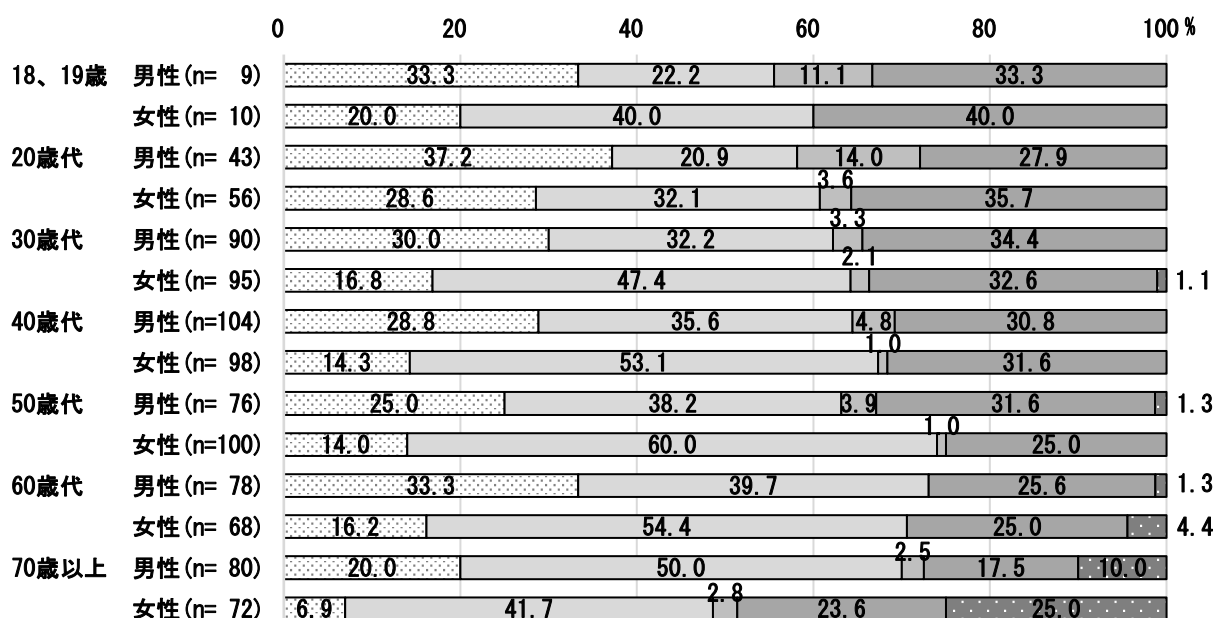
年代別では「平等になっている」と答えた人は、男性は 20 歳代、30 歳代、50 歳代で 3 割を超え、女性も 20～40 歳代で 3 割を超えている。「男性が優位」と回答した人は、男性は 70 歳以上が 16.3%、女性では 50 歳代が 13.0%となっている。「女性が優位」と回答した人は男性、女性ともにどの年代も非常に少なく、50 歳代では、男性、女性ともに 0%となっている。

エ 地域社会の中で

全体【グラフ1-エ-1】



年代別【グラフ1-エ-2】



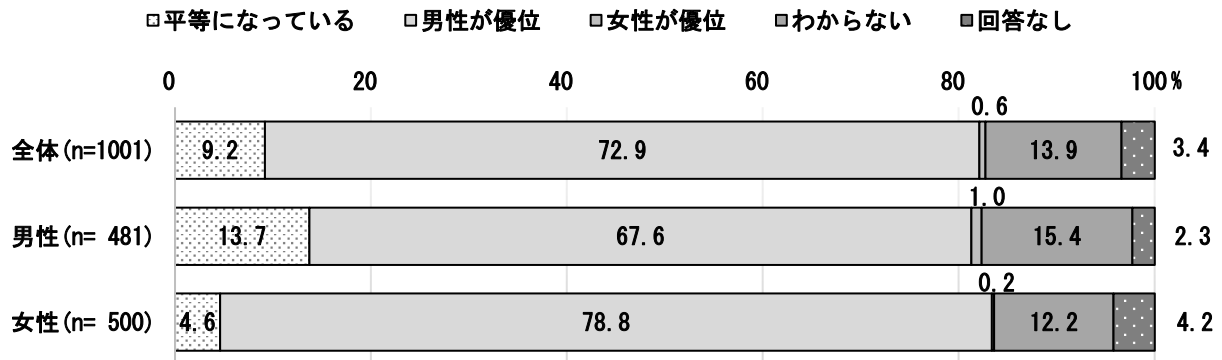
＝ 『地域社会の中で』で男性、女性ともに「男性が優位」が最も多い ＝

全体では、男性、女性ともに「男性が優位」が最も多く、全体 43.1%、男性 37.0%、女性 49.4%となっている。「平等になっている」は全体 21.9%、男性 28.5%、女性 15.6%となっている。「女性が優位」は全体で 3.1%となっており、低い数値となっている。

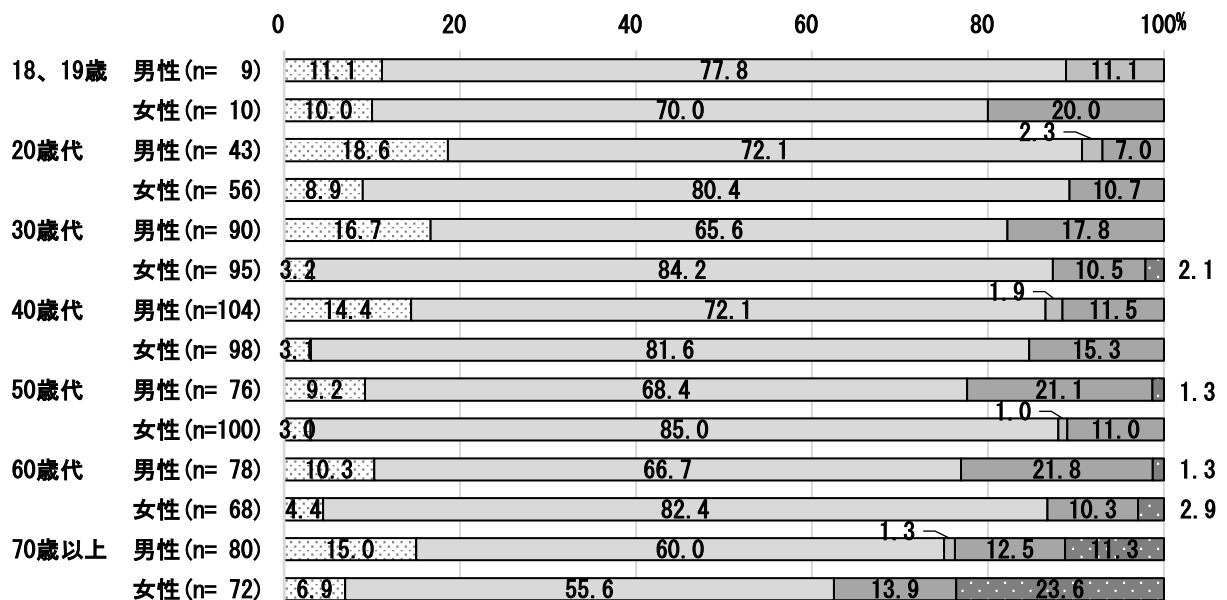
年代別では「平等になっている」が最も多いのは、20歳代男性で 37.2%となっている。女性はその年代においても「男性が優位」の比率が高く、50歳代では 60.0%となっている。男性、女性ともにどの年代も「女性が優位」は低い数値になっており、特に 60歳代では、男性、女性ともに 0%となっている。

オ 政治の中で

全体【グラフ1-オ-1】



年代別【グラフ1-オ-2】



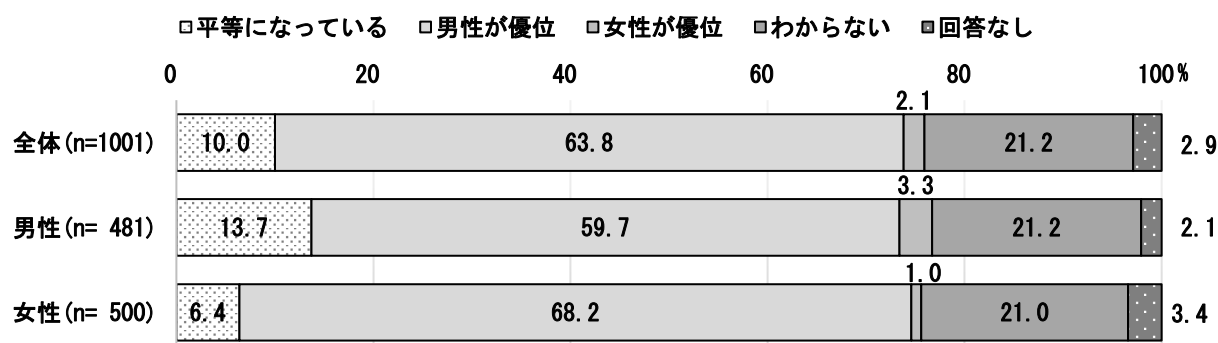
＝ 『政治の中で』で男性、女性ともに6割以上が「男性が優位」と回答 ＝

全体では、男性、女性ともに「男性が優位」と答えた人が最も多く、全体72.9%、男性67.6%、女性78.8%となっている。「平等になっている」は全体9.2%、男性13.7%、女性4.6%となっている。「女性が優位」は男性、女性ともに1%以下の低い数値となっている。

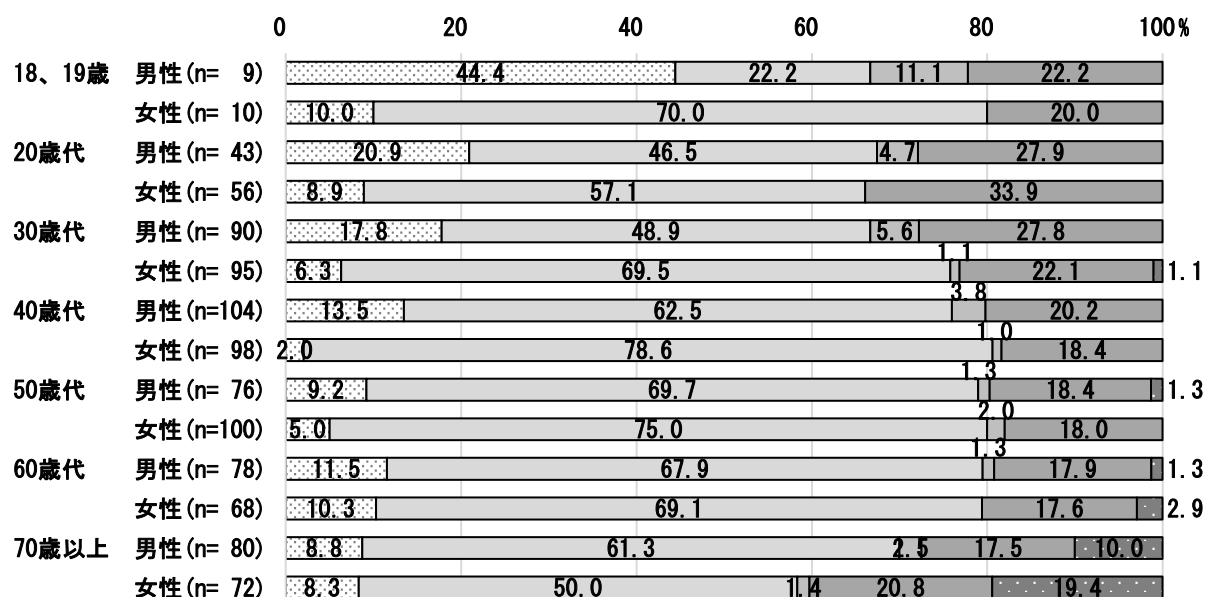
年代別では、男性、女性ともにすべての年代で「男性が優位」が最も多い。「平等になっている」は、すべての年代において男性の方が数値が高くなっている。「女性が優位」はどの年代も非常に低い数値であり、特に30歳代、60歳代においては、男性、女性ともに0%となっている。

カ 慣習・しきたり

全体【グラフ1-カー1】



年代別【グラフ1-カー2】



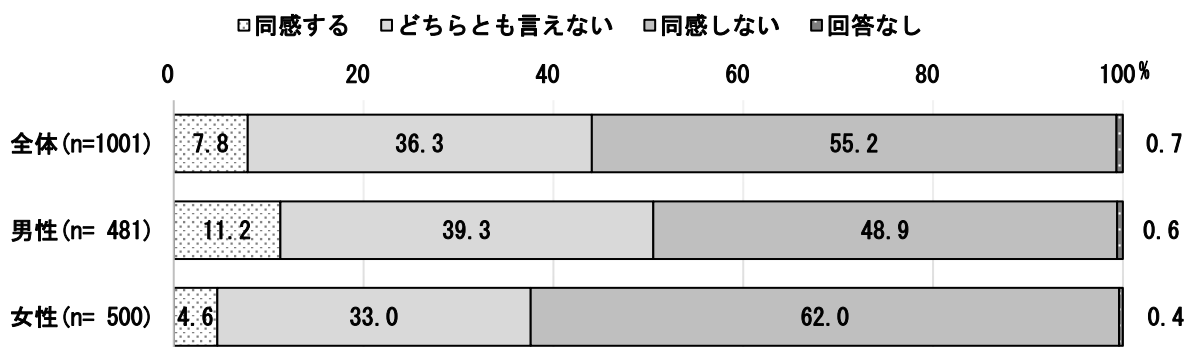
＝ 『慣習・しきたり』で男性、女性ともに5割以上が「男性が優位」と回答 ＝

全体では、男性、女性ともに「男性が優位」と答えた人が最も多く、全体 63.8%、男性 59.7%、女性 68.2%となっている。「平等になっている」は全体 10.0%、男性 13.7%、女性 6.4%となっている。「女性が優位」は男性 3.3%、女性 1.0%であり、ともに低い数値になっている。

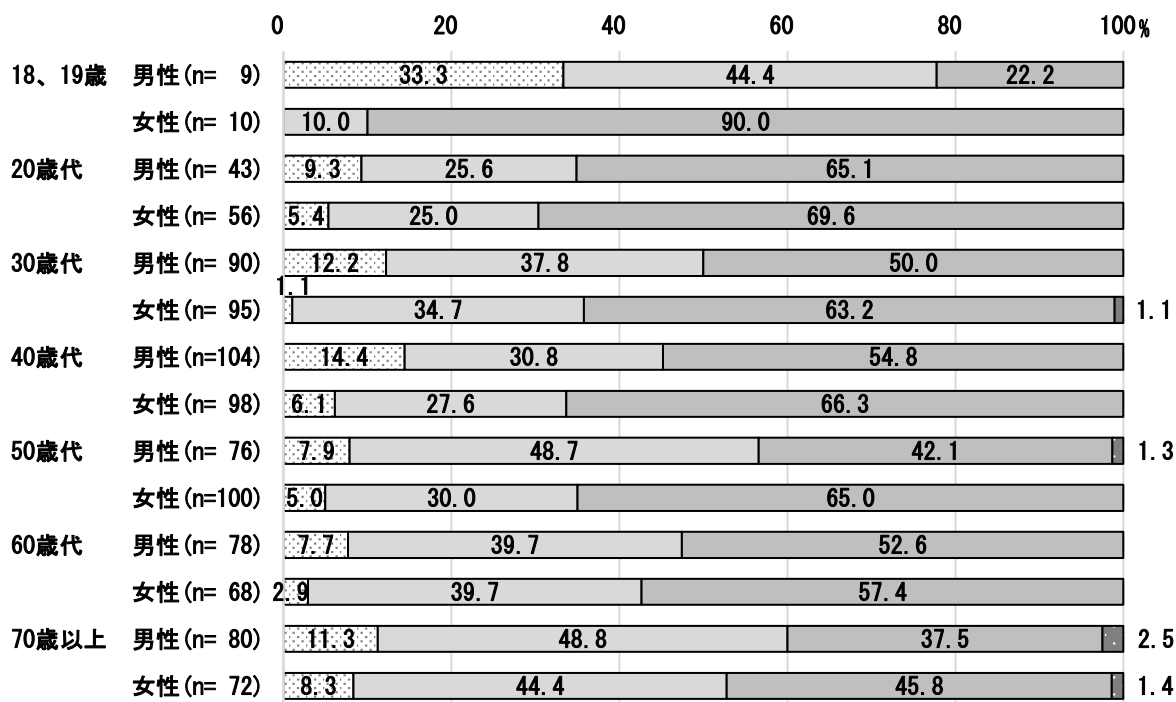
年代別では、男性、女性ともにどの年代においても「男性が優位」が最も多く、女性においてはすべての年代で5割を超えている。「平等になっている」は 20 歳代男性で最も多く 20.9%となっている。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

全体【グラフ2-1】



年代別【グラフ2-2】



＝ 「男は仕事、女は家庭」に同感しない層の拡大のなか、根強い固定的性別役割分担意識も ＝

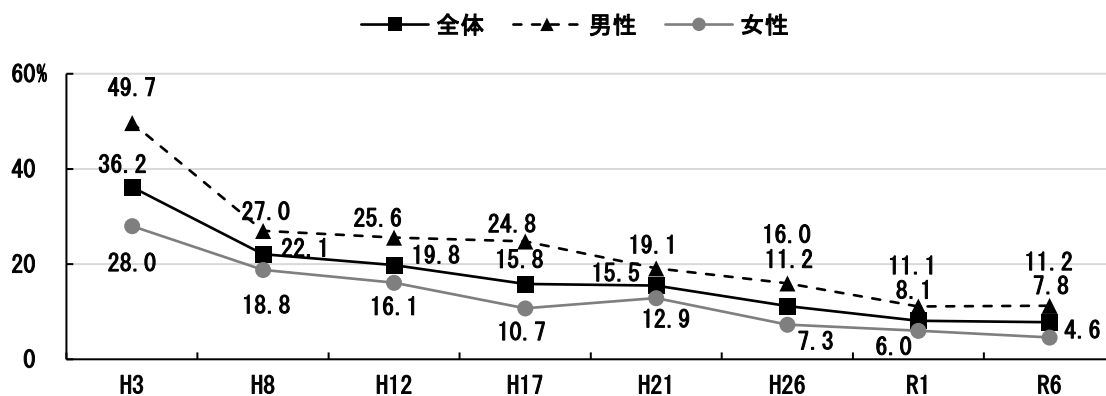
全体、女性は「同感しない」と答えた人が最も多く、全体 55.2%、男性 48.9%、女性 62.0%となっており、次に「どちらとも言えない」が全体 36.3%、男性 39.3%、女性 33.0%となっている。一方で「同感する」は全体 7.8%、男性 11.2%、女性 4.6%となっている。

年代別では「同感する」は 30 歳代男性、40 歳代男性、70 歳代男性で 1 割を超えている。

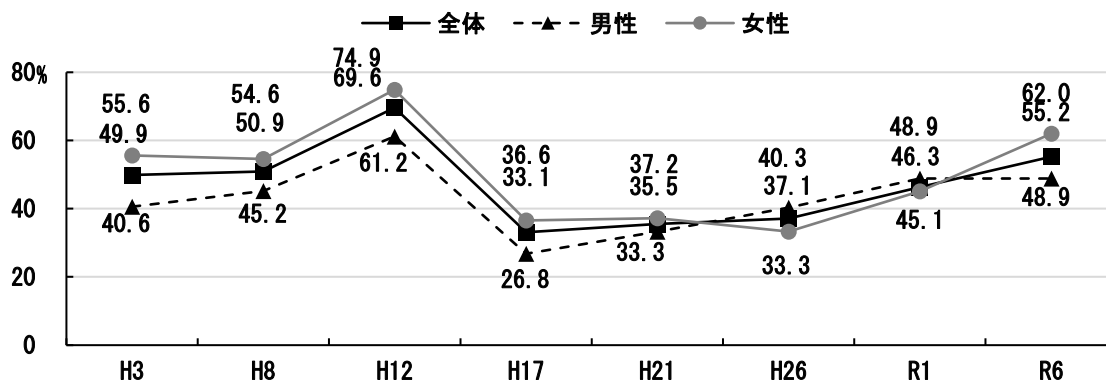
回答別の推移【グラフ2-3】

平成 3 年度	全体 (n= 957)	男性 (n=360)	女性 (n=597)
平成 8 年度	〃 (n= 997)	〃 (n=396)	〃 (n=601)
平成 12 年度	〃 (n= 566)	〃 (n=219)	〃 (n=347)
平成 17 年度	〃 (n= 884)	〃 (n=328)	〃 (n=554)
平成 21 年度	〃 (n=1039)	〃 (n=437)	〃 (n=596)
平成 26 年度	〃 (n= 923)	〃 (n=393)	〃 (n=519)
令和 元年度	〃 (n= 901)	〃 (n=370)	〃 (n=521)
令和 6 年度	〃 (n=1001)	〃 (n=481)	〃 (n=500)

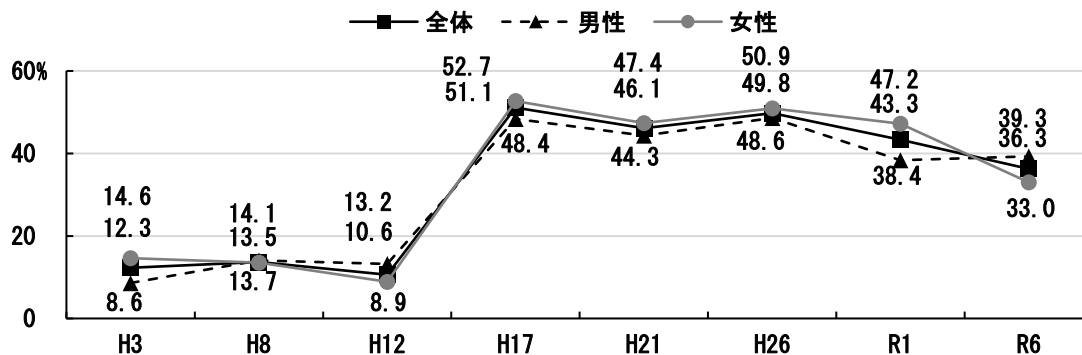
「同感する」と答えた人



「同感しない」と答えた人

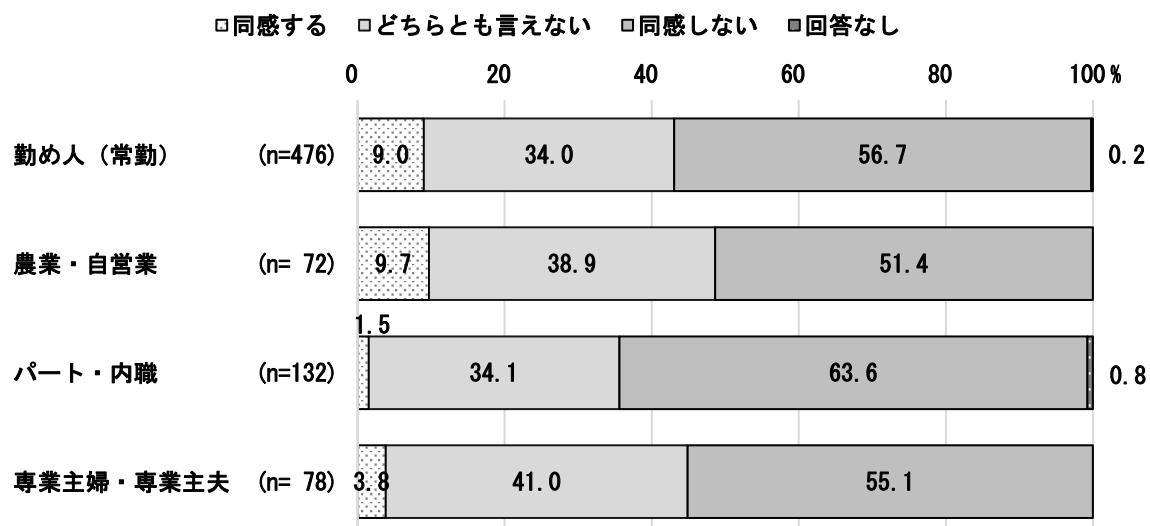


「わからない/どちらとも言えない」と答えた人



※H12までは「わからない」、H17からは「どちらとも言えない」で選択肢を設定している。

職業別：勤め人（常勤）、農業・自営業、パート・内職、専業主婦・専業主夫のみ比較【グラフ2-4】



5年ごとのアンケート結果で「同感する」と答えた人の推移をみると、令和元年度と比較して、女性は1.4ポイント下がって、全体と男性はほぼ横ばいになっている。平成3年度と比較すると、全体28.4ポイント、男性38.5ポイント、女性23.4ポイント下がっている。また「同感しない」の割合は令和元年度の数値（全体46.3%）と比較すると8.9ポイント増加している。

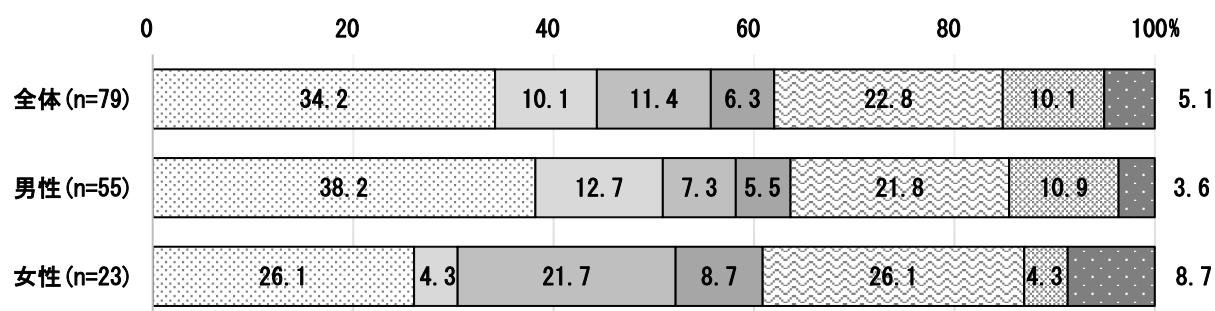
職業別では「同感する」と答えた人が最も多いのは、農業・自営業9.7%、次に勤め人（常勤）で9.0%となっている。一方で「同感しない」と答えた人が最も多いのは、パート・内職の63.6%となっている。

問2で「1 同感する」を選んだ方におたずねします

問3 同感する理由として、次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

全体【グラフ3-1】

- ☐ 男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いている
- ☐ 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任である
- ☐ 妻が働きに出ると、家事・育児・介護に差し支える
- ☐ 女性は仕事を持っても、不利な状況におかれる
- ☐ 夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく
- ☐ その他
- ☐ 回答なし

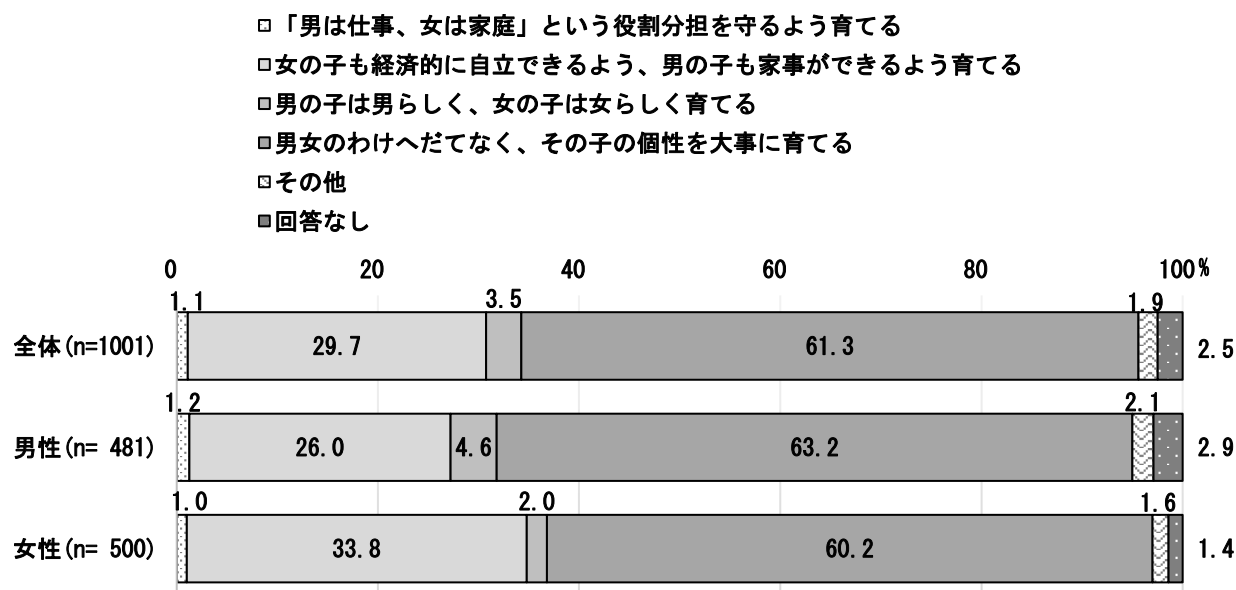


＝ 理由は「男は仕事、女は家事・育児・介護に向いている」と「夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく」が最も多い＝

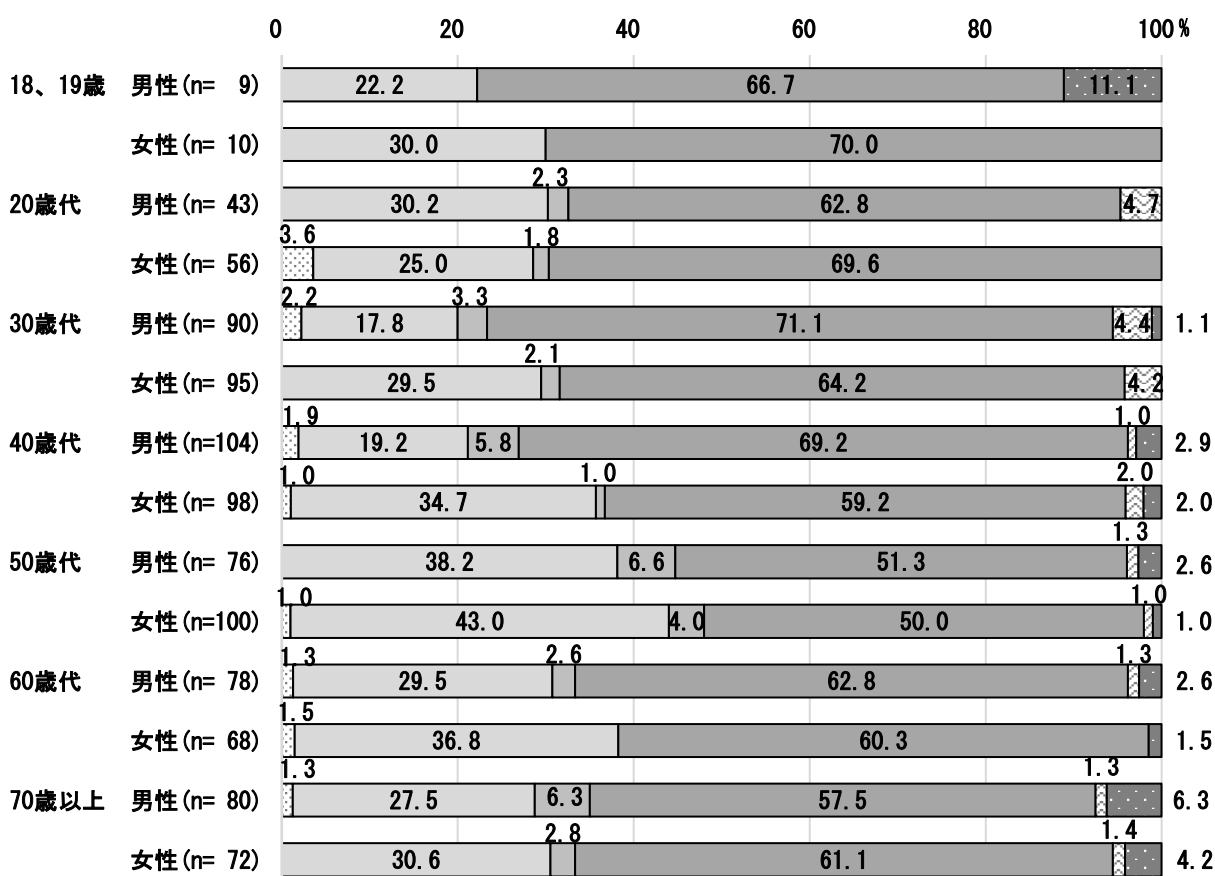
「男は仕事、女は家庭」に「同感する」と答えた人にその理由をたずねたところ、全体1位は「男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いている」で34.2%、男性1位も「男は仕事、女は家事・育児・介護に向いている」で38.2%となっている。女性1位は「男は仕事、女は家事・育児・介護に向いている」と「夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく」で26.1%（同率）となっている。全体2位は「夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく」で22.8%と男性2位も「夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく」で21.8%となっている。女性の3位は「妻が働きに出ると、家事・育児・介護に差し支える」で21.7%となっている。

問4 これからは、どのような考え方のもとで子どもを育てるのが望ましいと思いますか。
次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

全体【グラフ4-1】



年代別【グラフ4-2】



＝ 子どもは「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」が最多 ＝

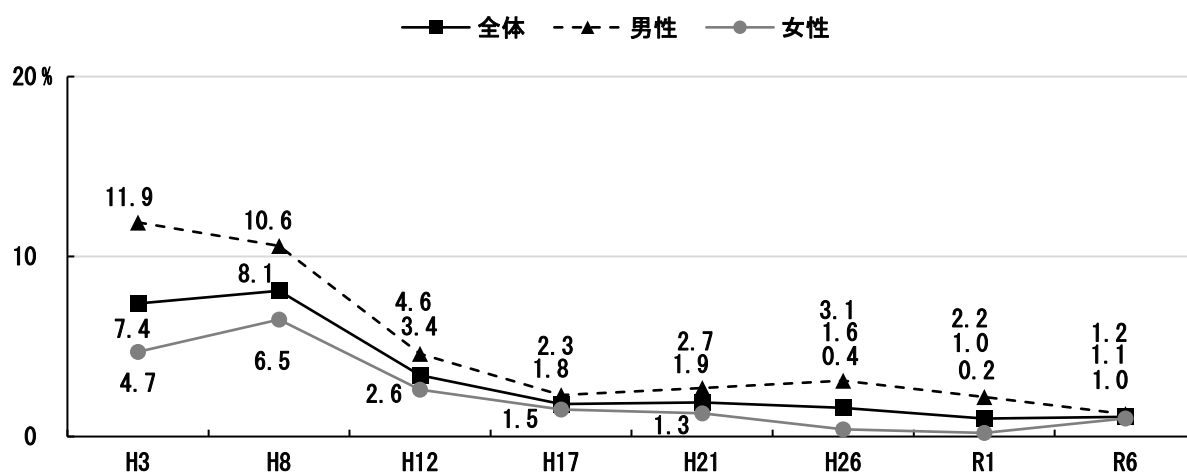
男性、女性ともに最も多かったのは「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」で、全体 61.3%、男性 63.2%、女性 60.2%、次に「女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる」が全体 29.7%、男性 26.0%、女性 33.8%となっている。「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は全体 3.5%、男性 4.6%、女性 2.0%となっている。『男は仕事、女は家庭』という役割分担を守るよう育てる」は全体で、男性、女性ともに 1%程度になっている。

年代別でみると、すべての年代で「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」が最も多く 5割以上となっている。

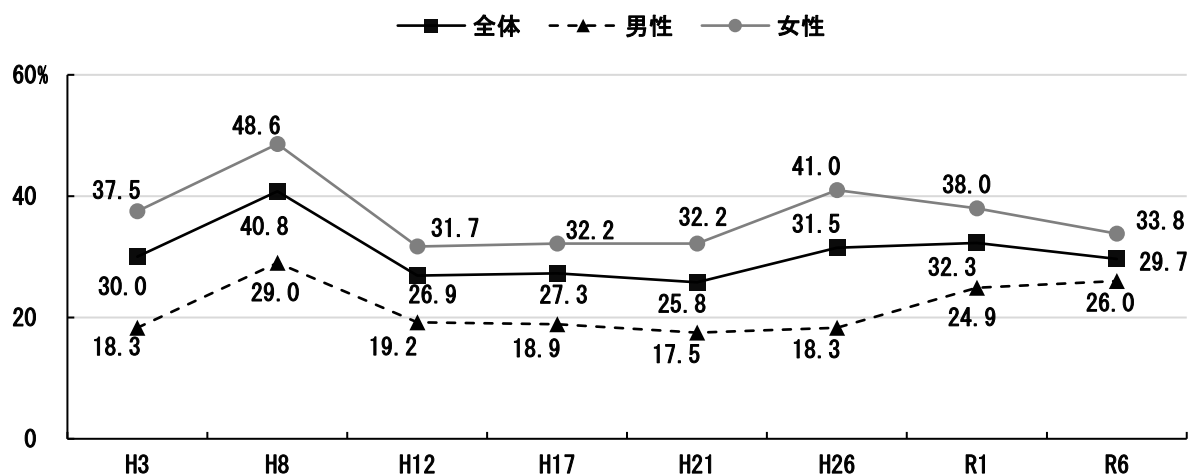
回答別の推移【グラフ4-3】

平成 3 年度	全体 (n= 957)	男性 (n=360)	女性 (n=597)
平成 8 年度	" (n= 997)	" (n=396)	" (n=601)
平成 1 2 年度	" (n= 566)	" (n=219)	" (n=347)
平成 1 7 年度	" (n= 884)	" (n=328)	" (n=554)
平成 2 1 年度	" (n=1039)	" (n=437)	" (n=596)
平成 2 6 年度	" (n= 923)	" (n=393)	" (n=519)
令和 元年度	" (n= 901)	" (n=370)	" (n=521)
令和 6 年度	" (n=1001)	" (n=481)	" (n=500)

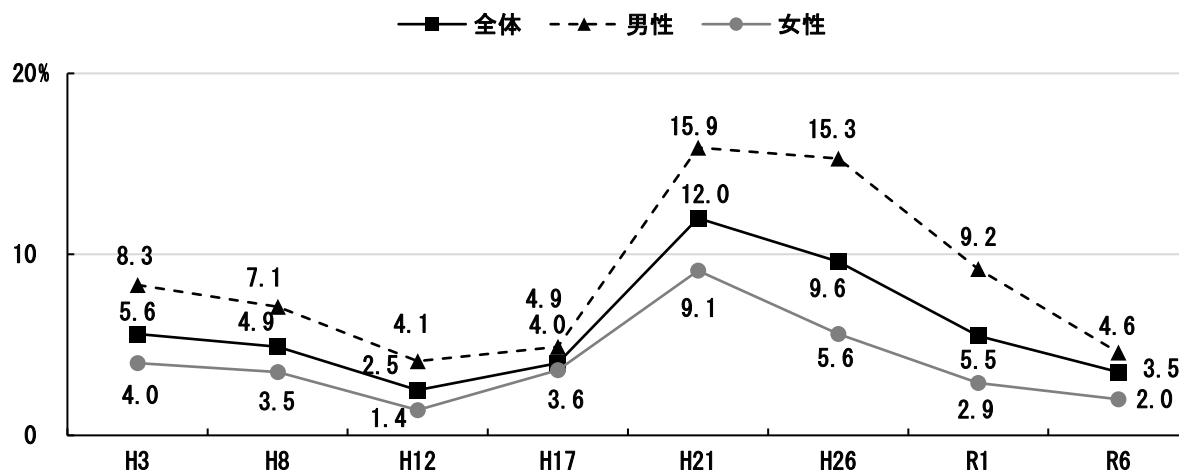
「男は仕事、女は家庭」という役割分担を守るよう育てる



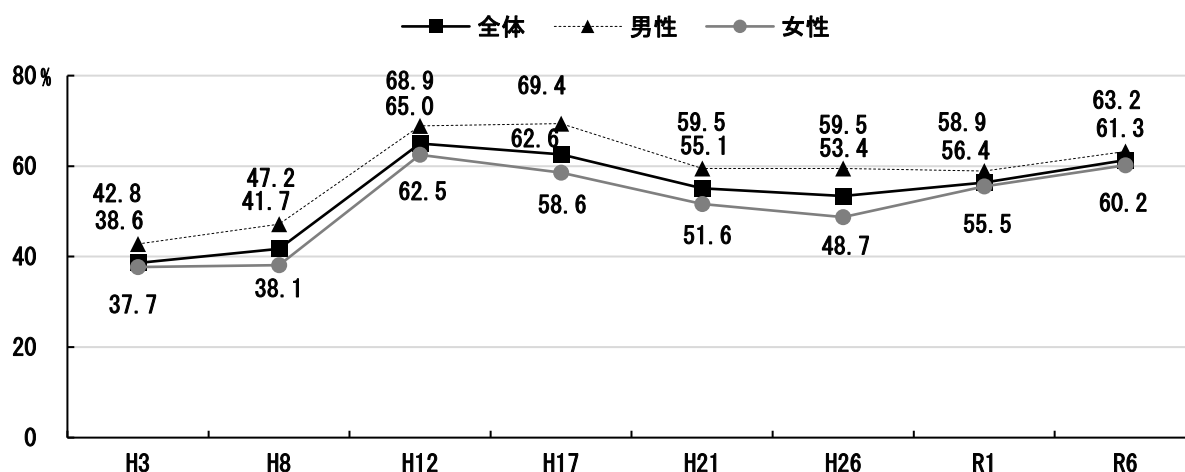
女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる



男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる



男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる



5年ごとのアンケート結果で項目別に推移をみると、『男は仕事、女は家庭』という役割分担を守るよう育てる」は、平成12年度以降はどの年度も1割以下の低い数値であるが、令和元年度より男性は1ポイント減少していて、全体は0.1ポイントと女性は0.8ポイント上昇している。

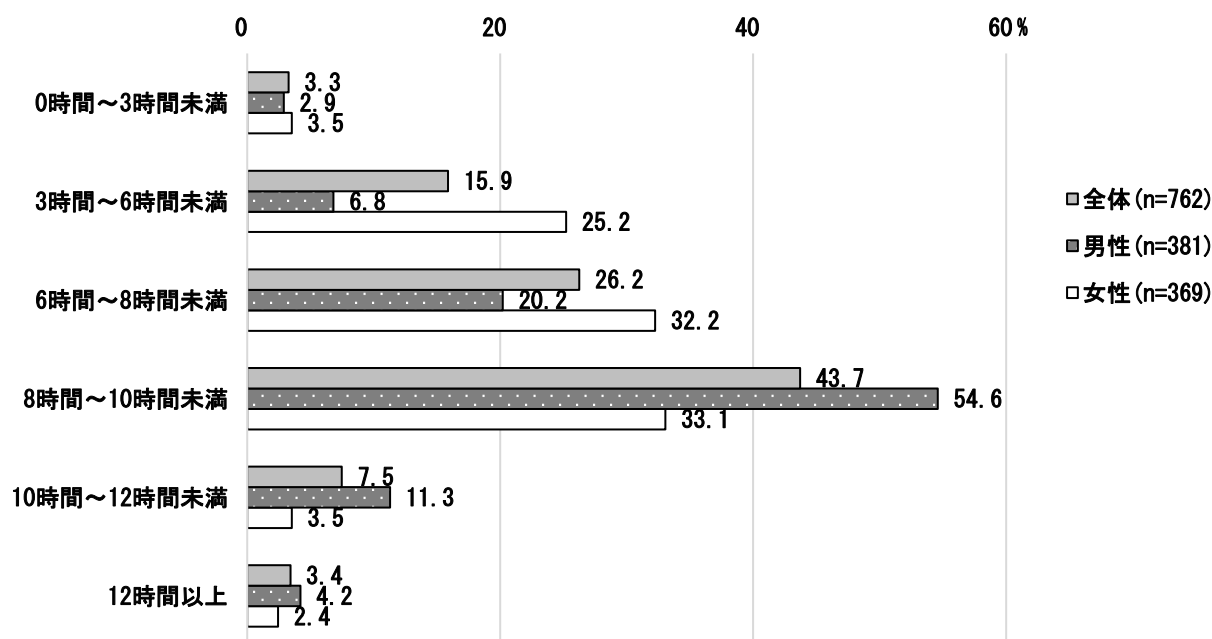
「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」は、平成21年度をピークに減少している。

「男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる」は、平成21年度から令和元年度まで横ばいの状態が続いていたが、今回の結果では4.9ポイント上昇している。

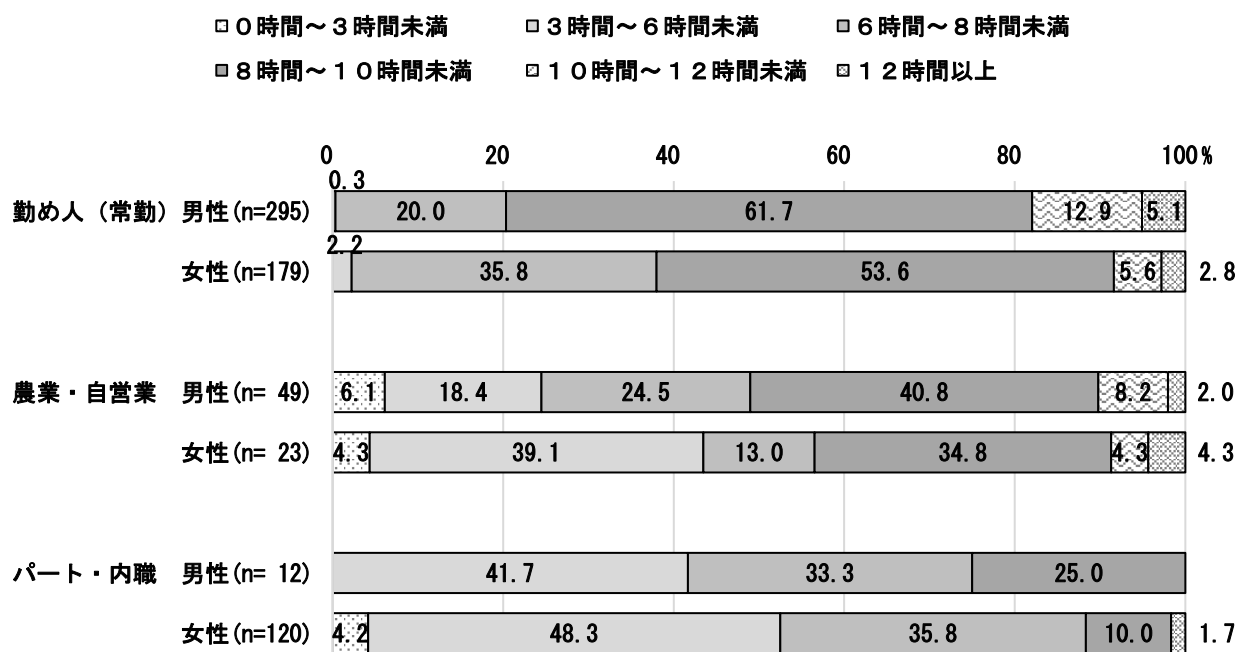
2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）（問5～9）

問5 あなたの一日平均の労働時間はどのくらいですか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

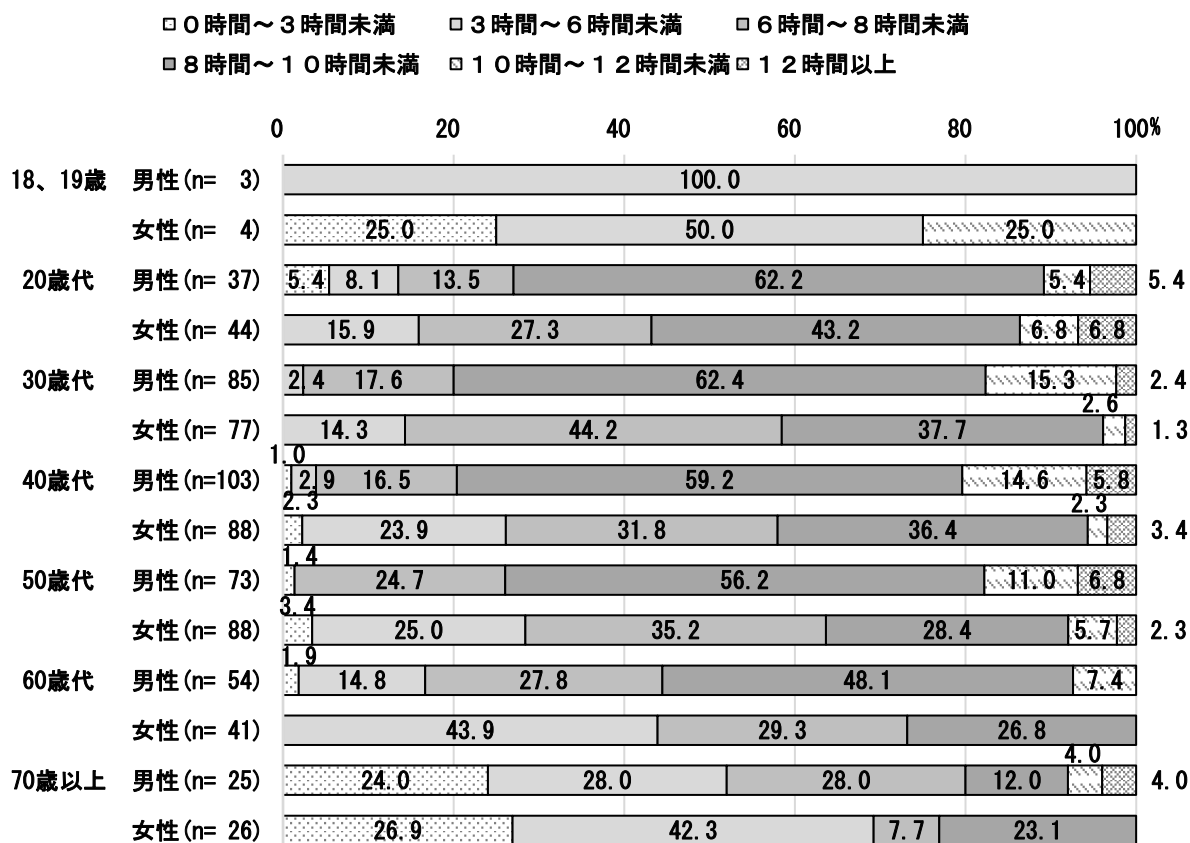
全体【グラフ5-1】



職業別：勤め人（常勤）、農業・自営業、パート・内職のみ比較 【グラフ5-2】



年代別【グラフ5-3】



＝ 男性、女性ともに「8時間～10時間未満」の労働時間の人が最多 ＝

全体で最も多いのは「8～10時間未満」で43.7%、次に「6～8時間未満」26.2%、「3～6時間未満」の15.9%となっている。

男女別では、男性は「8～10時間未満」が54.6%と最も多く、次に「6～8時間未満」が20.2%、「10～12時間未満」が11.3%となっている。女性は「8～10時間未満」が33.1%と最も多く、次に「6～8時間未満」が32.2%、「3～6時間未満」が25.2%となっている。男性は「10～12時間未満」の11.3%と「12時間以上」の4.2%を合わせると15.5%となり、男性の約6人に1人が1日10時間以上働いている。

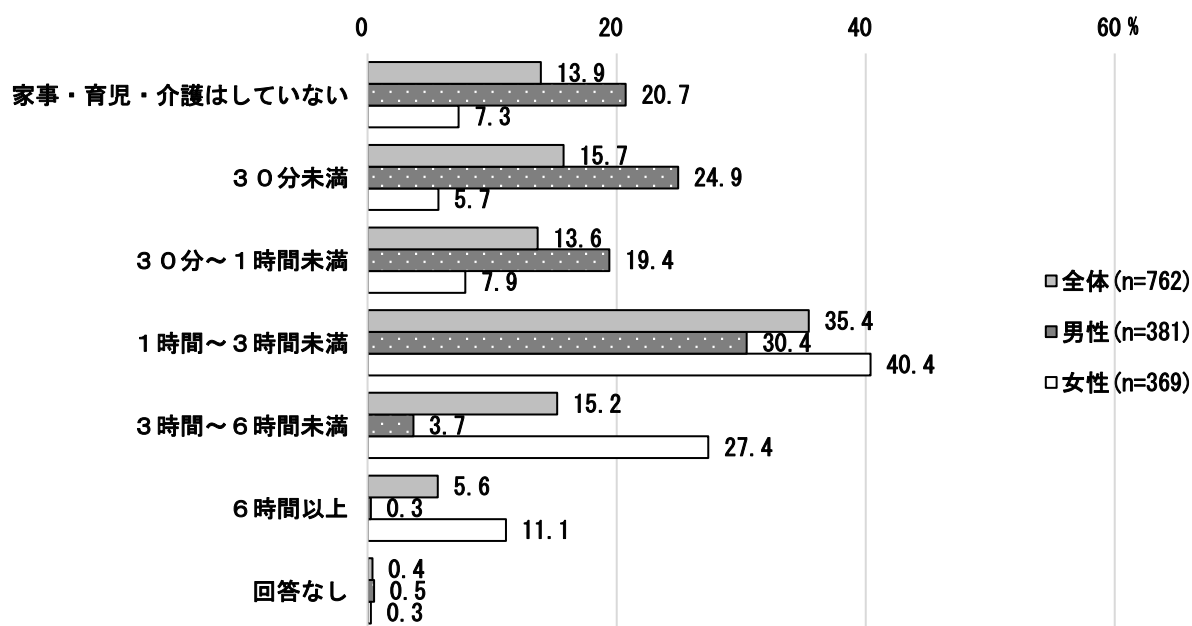
職業別では、勤め人（常勤）の男性は「10～12時間未満」の12.9%と「12時間以上」の5.1%を合わせると18.0%となっている。

年代別では、20～50歳代の男性の半数以上が「8時間～10時間未満」となっているのに対し、女性はいずれの年代においても半数を切っている。

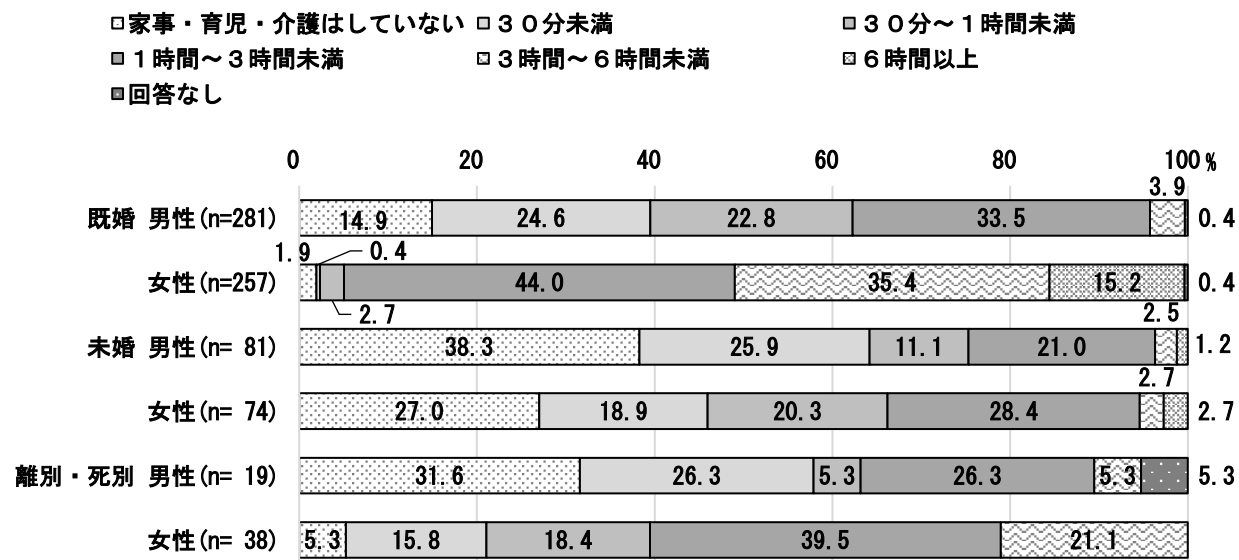
仕事をしている方におたずねします。

問6 あなたが一日（仕事をしている日）に家事・育児・介護に関わる時間はどのくらいですか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

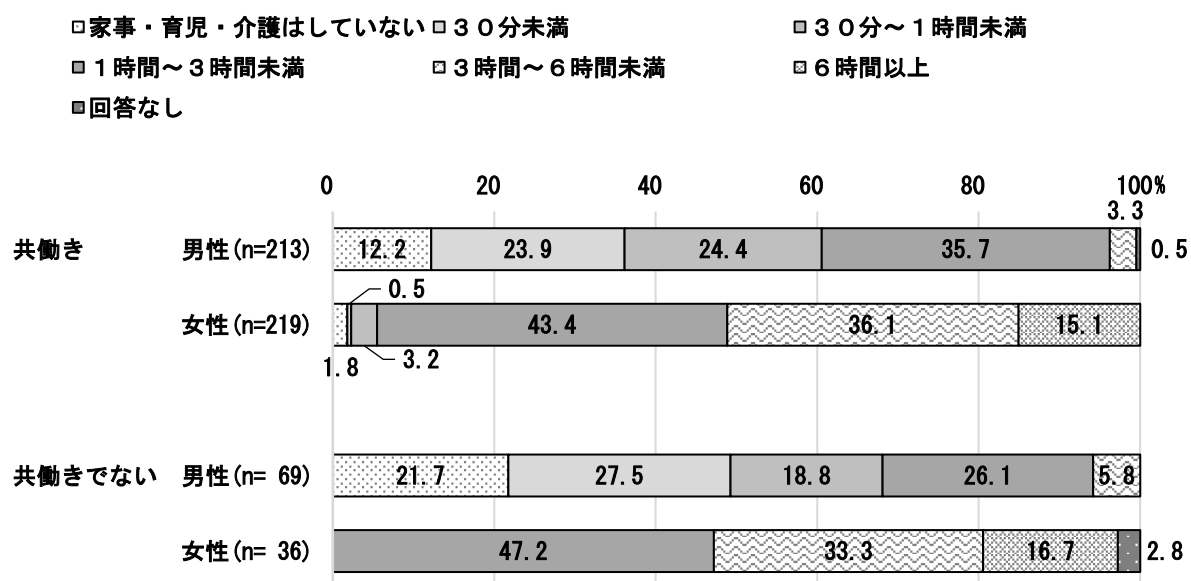
全体【グラフ6-1】



結婚の経験別【グラフ6-2】



共働き別【グラフ6-3】



＝ 仕事をしている男性は、「家事・育児・介護はしていない」と「0～30分未満」を合わせると4割超え ＝

全体で最も多いのは「1～3時間未満」で35.4%、次に「30分未満」の15.7%、「3～6時間未満」の15.2%となっている。

男女別では、男性は「1～3時間未満」が30.4%と最も多く、次に「30分未満」が24.9%となっている。女性は「1～3時間未満」が40.4%と最も多く、次に「3～6時間未満」が27.4%となっている。男性は「家事・育児・介護はしていない」が20.7%となっており、「30分未満」を合わせると45.6%となっている。

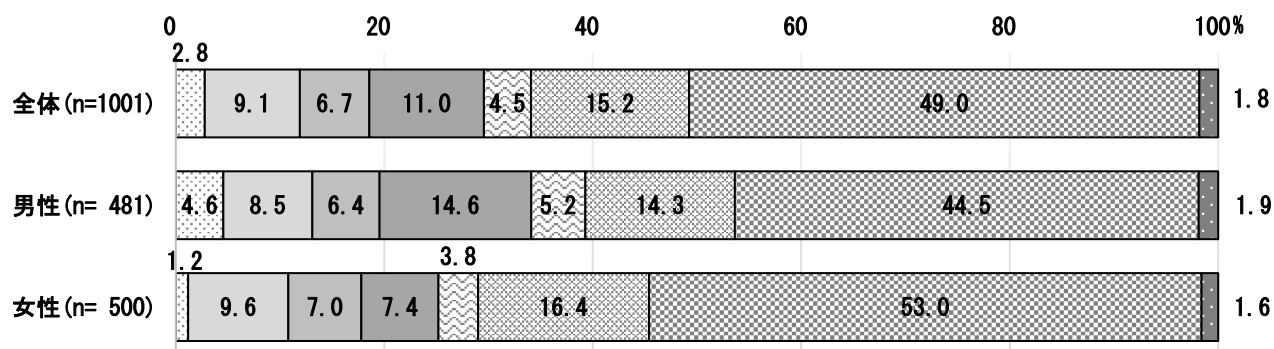
結婚の経験別では、既婚の男性、女性ともに3割以上が「1～3時間未満」と回答。また「3～6時間未満」と回答した女性が35.4%、「6時間以上」と回答した女性も15.2%となっている。

共働き別では、共働きの男性、女性ともに3割以上が「1～3時間未満」と回答。なお、共働きの女性は「1～3時間未満」が43.4%、共働きではない女性は「1～3時間未満」が47.2%で最も多く、共働き別での差異はあまりない結果となっている。

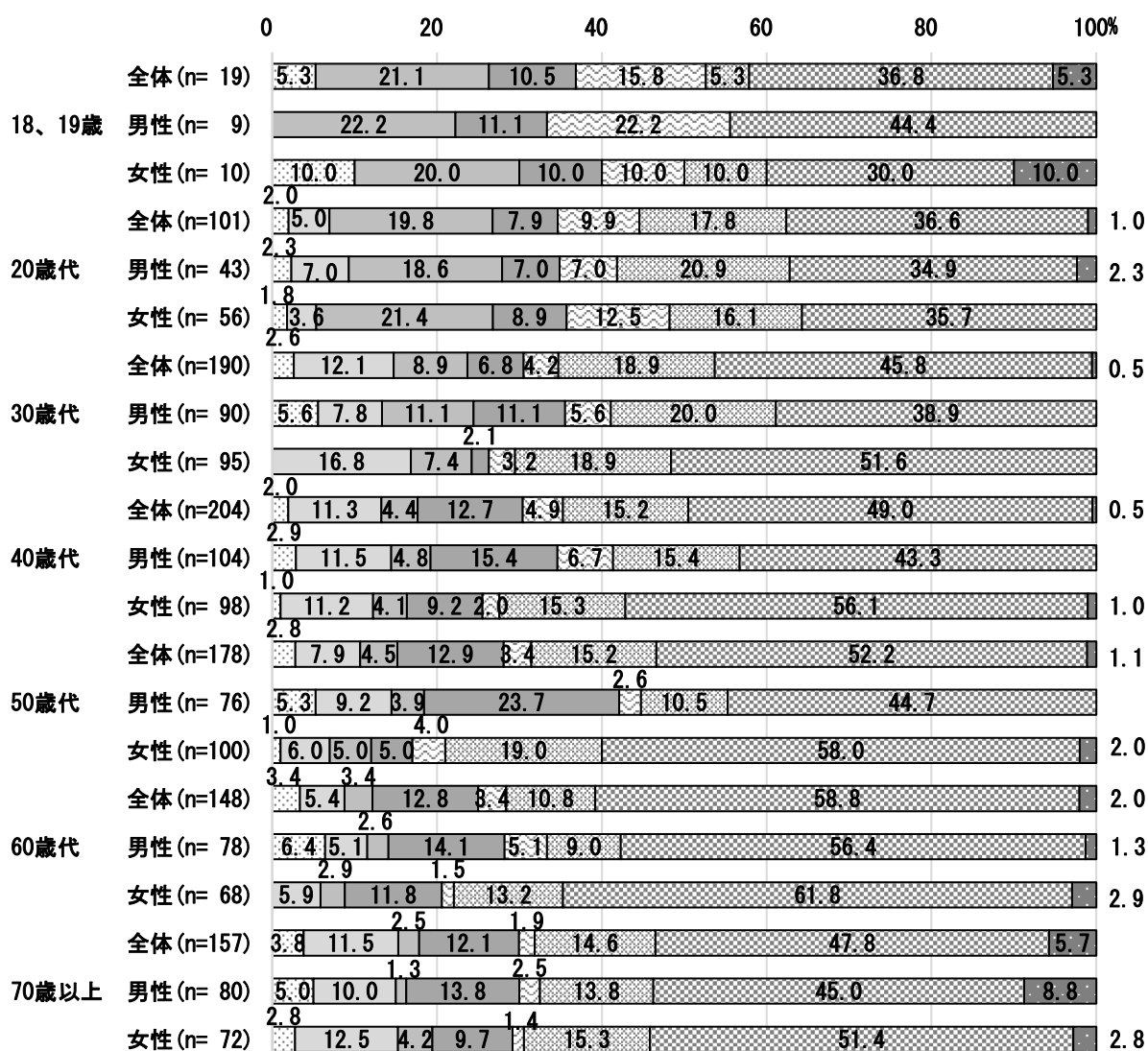
問7 仕事、家庭、プライベート（趣味・ボランティアなどの自分の自由な時間）において、次の中からあなたが望ましいと思う生活を1つ選んでください。

全体【グラフ7-1】

- ☐仕事を優先 ☐家庭を優先 ☐プライベートを優先
☐仕事と家庭を優先 ☐仕事とプライベートを優先 ☐家庭とプライベートを優先
☐仕事と家庭とプライベートの調和 ☐回答なし



年代別【グラフ7-2】



平成26年度及び令和元年度との比較【グラフF7-3】



＝ 希望は「仕事と家庭とプライベートを調和」が約半数 ＝

男性、女性ともに「仕事と家庭とプライベートの調和」が最も多く、全体 49.0%、男性 44.5%、女性 53.0%となっており、次に全体と女性では「家庭とプライベートを優先」、男性が「仕事と家庭を優先」となっている。

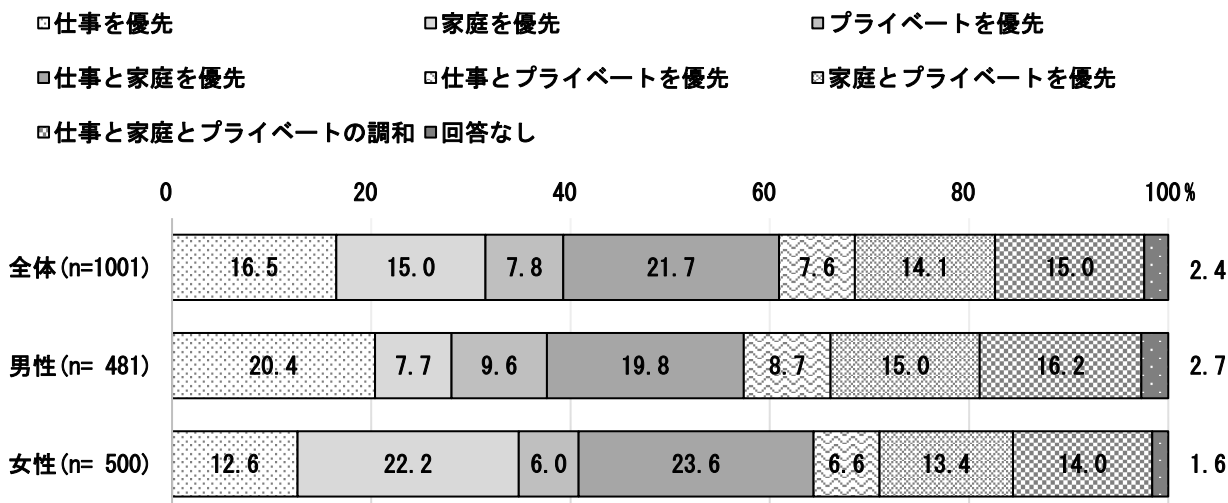
男性が仕事を優先する傾向が見られたほか、令和元年度と比較してプライベートを優先する志向の高まりがうかがえた。

年代別では、男性、女性ともにすべての年代で「仕事と家庭とプライベートの調和」が最も多くなっている。

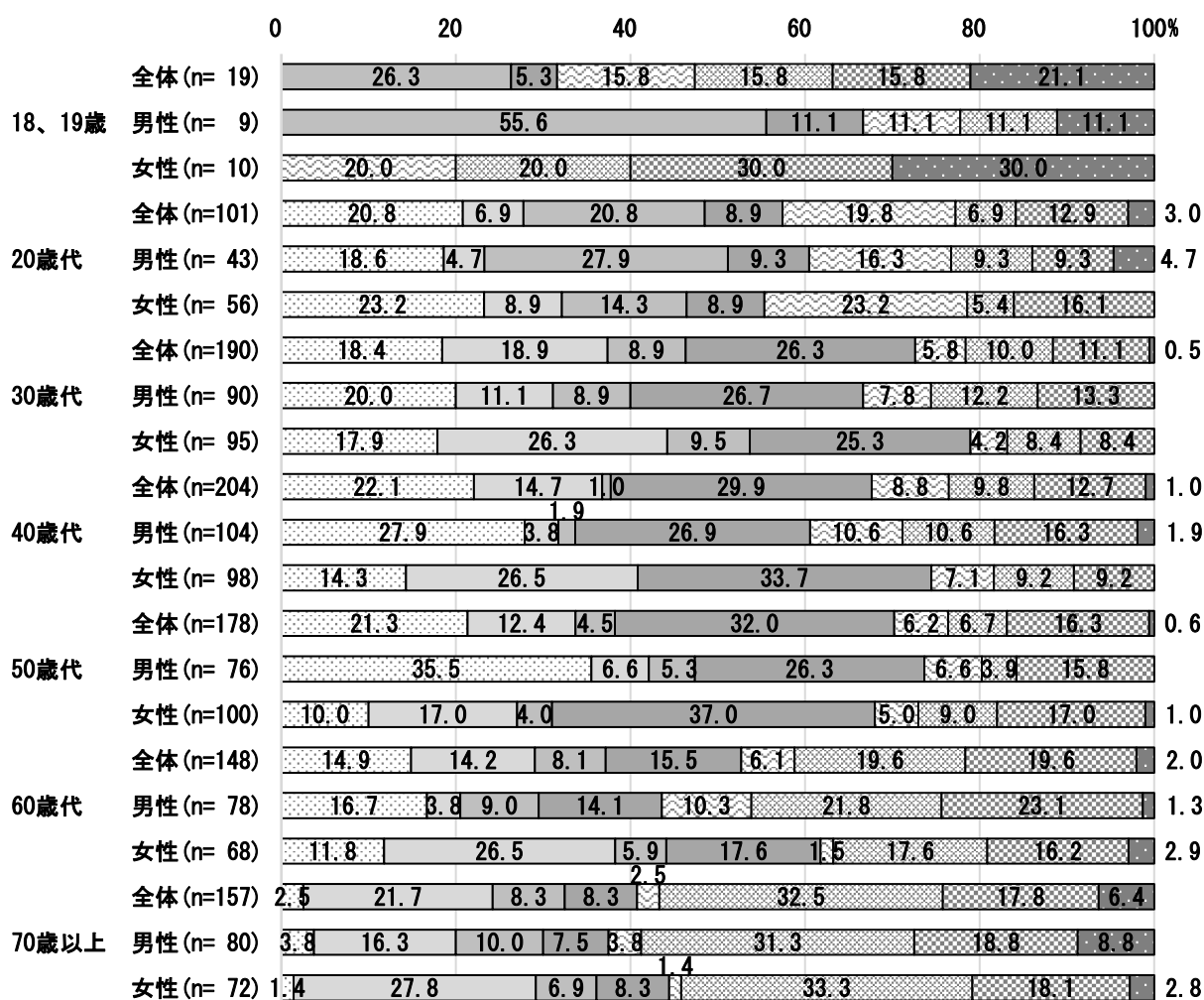
平成26年度と比較すると「仕事と家庭とプライベートの調和」が望ましいと思う割合が増えている。

問8 では、あなたの現在の生活はどうでしょうか。次の中から最も近いものを1つ選んでください。

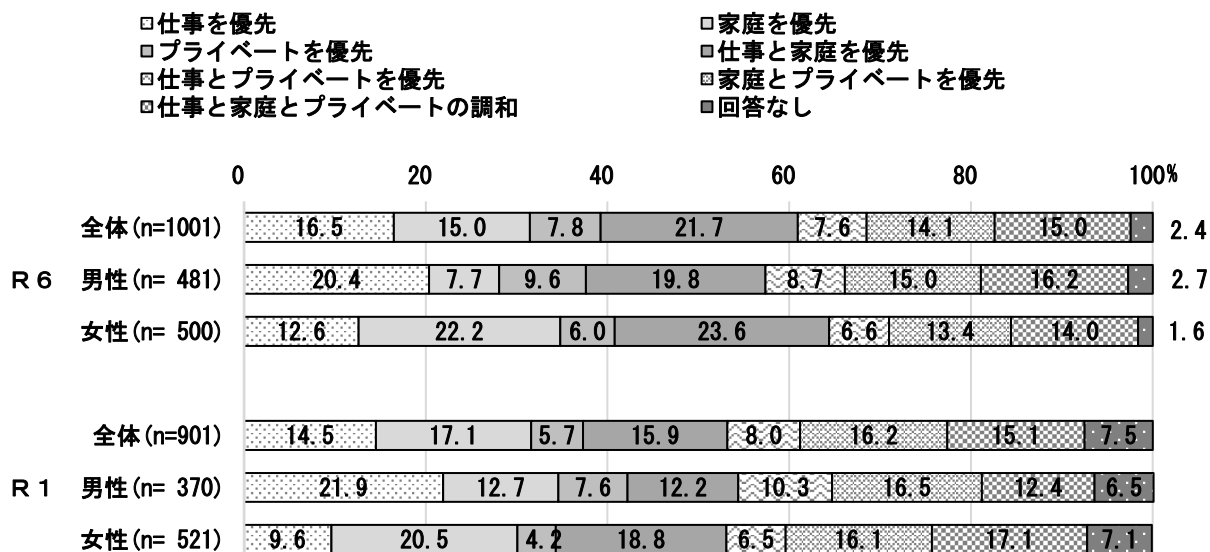
全体【グラフ8-1】



年代別【グラフ8-2】



前回調査との比較【グラフ8-3】



＝ 現実には、男性は「仕事を優先」、女性は「仕事と家庭を優先」が最も多い ＝

全体で最も多いのは「仕事と家庭を優先」で21.7%、次に「仕事を優先」で16.5%、「家庭を優先」と「仕事と家庭とプライベートの調和」は15.0%、「家庭とプライベートを優先」は14.1%となっている。

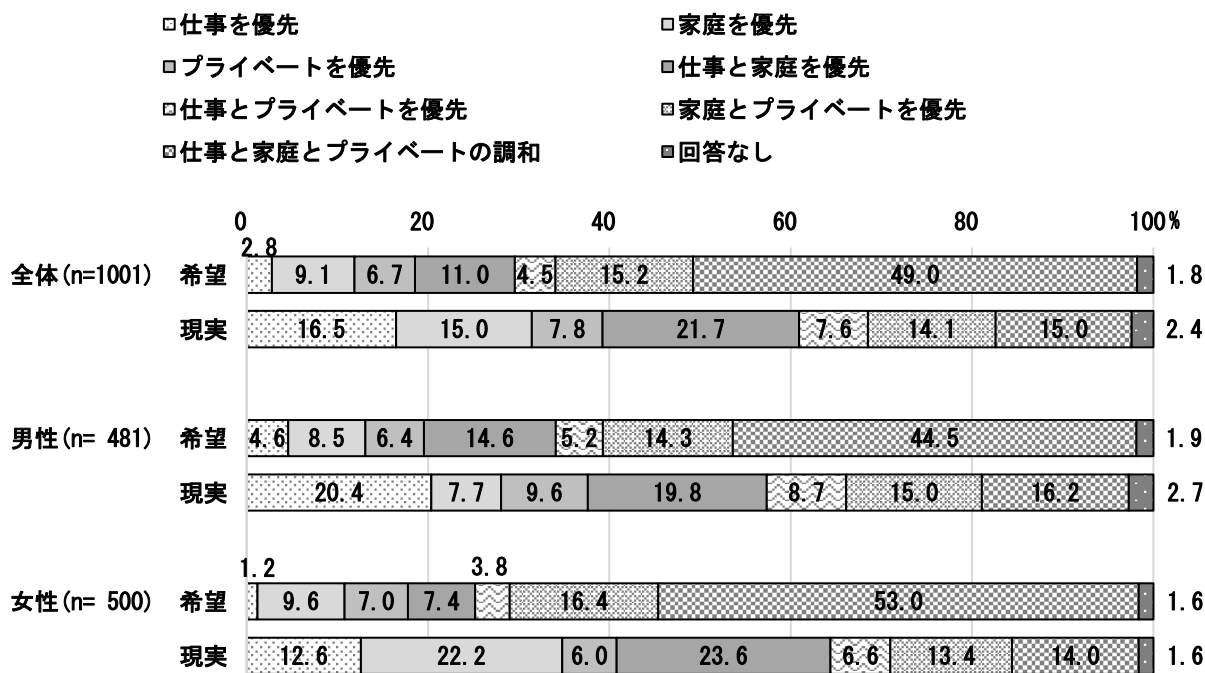
男女別では、男性は「仕事を優先」が20.4%と最も多く約5人に1人の割合となっており、次に「仕事と家庭を優先」の19.8%、「仕事と家庭とプライベートの調和」の16.2%となっている。女性は「仕事と家庭を優先」が23.6%と最も多く約4人に1人の割合となっており、次に「家庭を優先」の22.2%、「仕事と家庭とプライベートの調和」の14.0%となっている。

年代別では、男性において「仕事を優先」が、50歳代35.5%、40歳代27.9%、30歳代20.0%の順になっており、働き盛りといわれる壮年で数値が高くなっている。女性においては「仕事と家庭を優先」は、50歳代37.0%、40歳代33.7%、30歳代25.3%の順になっている。

令和元年度と比較すると「仕事を優先」は全体で2.0ポイント、女性で3.0ポイント増加しているが男性は1.5ポイント減少しているほか「仕事と家庭を優先」は全体で5.8ポイント上昇、男性で7.6ポイント上昇、女性で4.8ポイント上昇している。

仕事、家庭、プライベートの希望と現実の比較

全体【グラフ7-8-4】



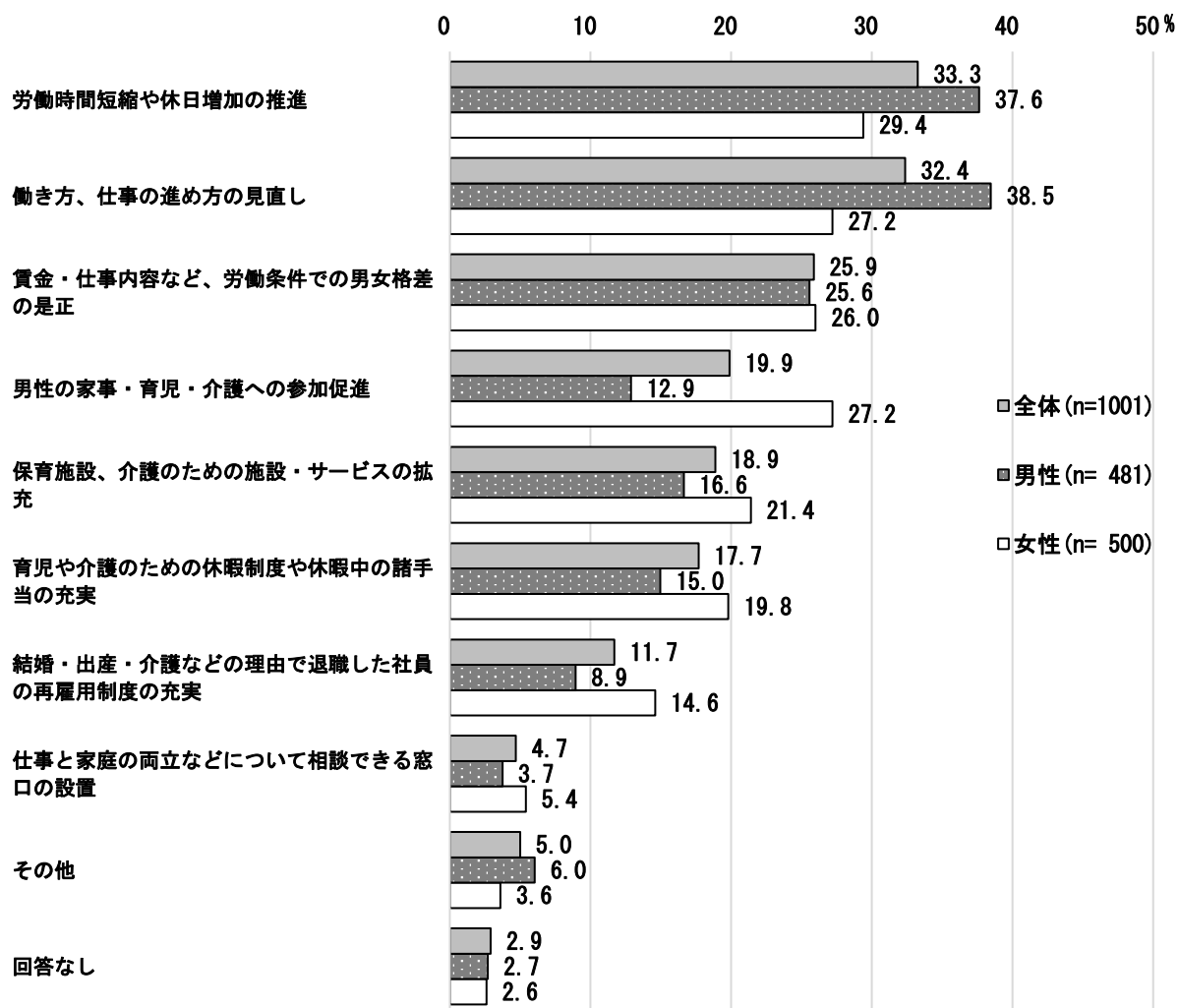
＝ 希望は「仕事と家庭とプライベートの調和」、現実には男性「仕事を優先」、女性「仕事と家庭を優先」 ＝

問7の望ましい生活と問8の現在の生活を比較すると、全体では「仕事と家庭とプライベートの調和」は希望が49.0%なのに対して現実には15.0%となっており、希望と現実で差が大きく表れている。男女別でも同様に差が大きく表れている。

また、男性は希望では「仕事を優先」が4.6%なのに対して現実には20.4%となっており差が表れている。女性も希望では「家庭を優先」と「仕事と家庭を優先」を合わせて17.0%なのに対して現実には45.8%となっており、希望と現実が乖離した結果となっている。

問9 仕事、家庭、プライベートの調和を進めるためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

全体【グラフ9-1】



＝ 「労働時間短縮や休日増加の推進」「働き方、仕事の進め方の見直し」が最多で3割超え

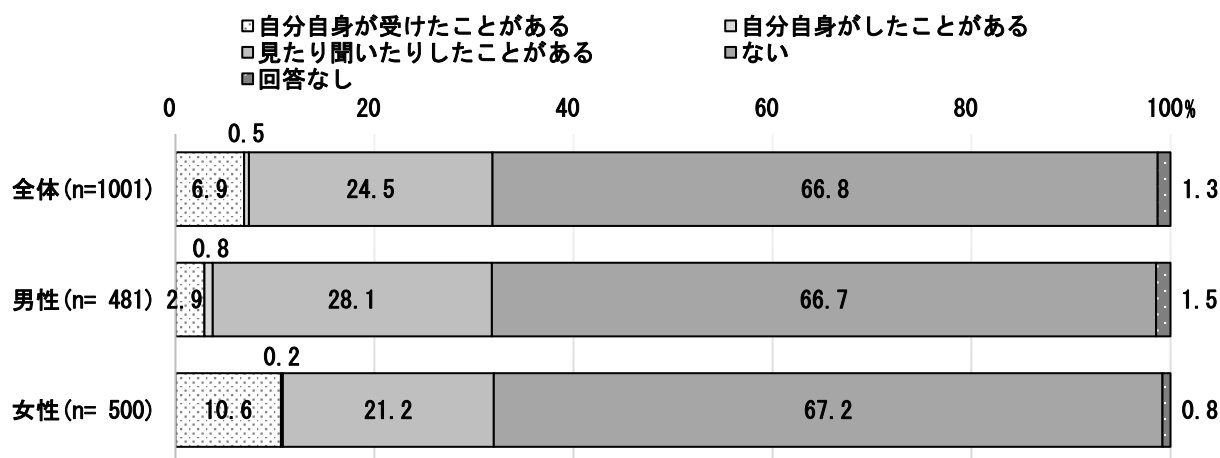
全体で最も多いのは「労働時間短縮や休日増加の推進」の33.3%、次に「働き方、仕事の進め方の見直し」の32.4%、「賃金・仕事内容など、労働条件での男女格差の是正」の25.9%となっている。

男女別では、男性で最も多いのは「働き方、仕事の進め方の見直し」の38.5%、次に「労働時間短縮や休日増加の推進」の37.6%、「賃金・仕事内容など、労働条件での男女格差の是正」の25.6%となっている。女性で最も多いのは「労働時間短縮や休日増加の推進」の29.4%、次に「働き方、仕事の進め方の見直し」と「男性の家事・育児・介護への参加促進」がともに27.2%となっている。

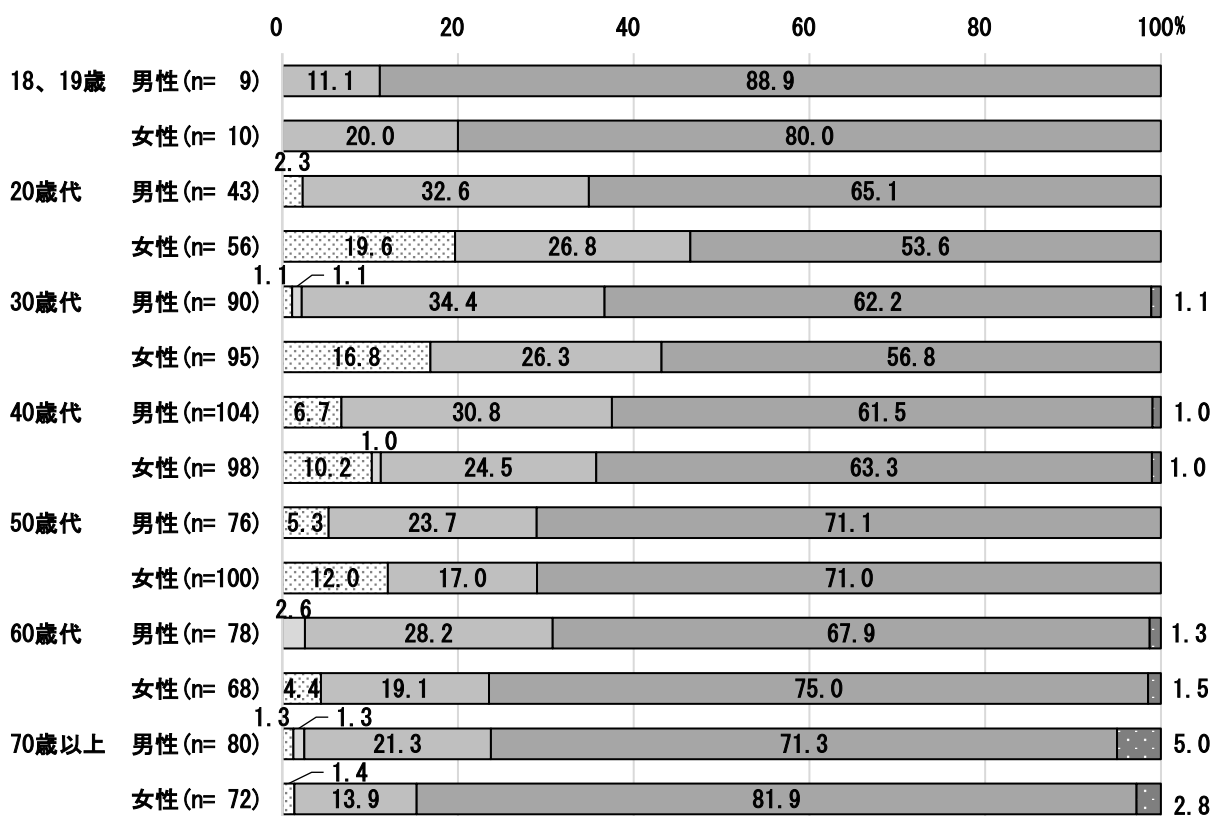
3 セクシュアル・ハラスメント（問10、11）

問10 過去5年間であなたの身近なところ（職場・地域・学校）に、セクハラがありましたか。次の中から1つ選んでください。

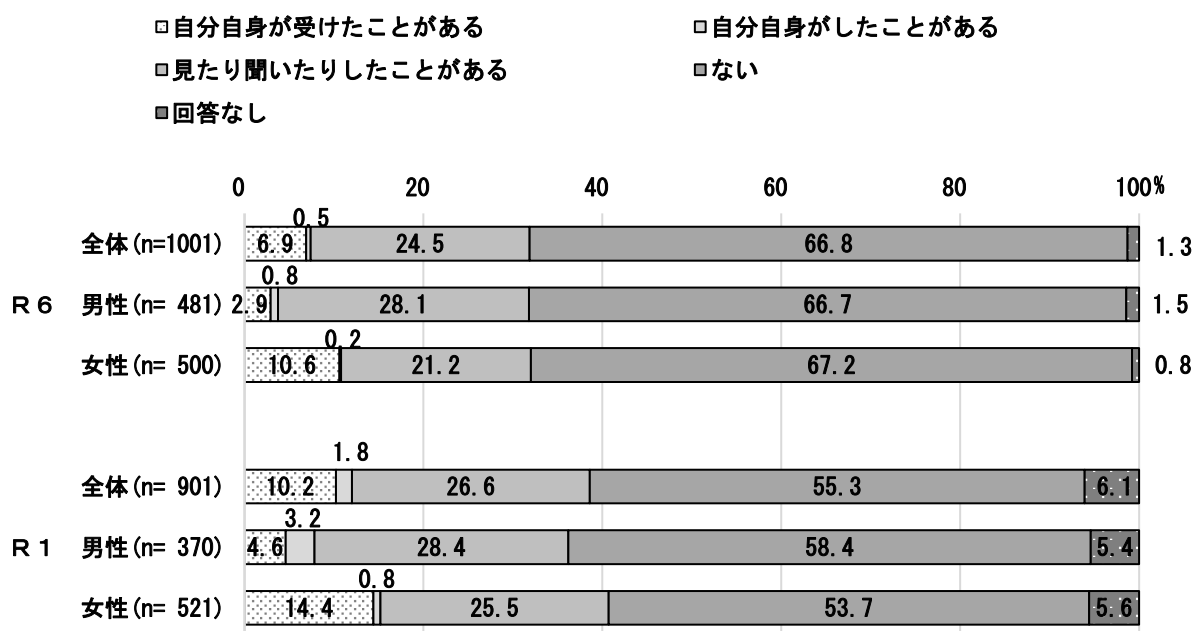
全体【グラフ10-1】



年代別【グラフ10-2】



前回調査との比較【グラフ10-3】



＝ 約6割以上の方が「セクハラを受けたことがない」 ＝

全体では「ない」が66.8%、「見たりきいたりしたことがある」が24.5%で「自分自身が受けたことがある」が6.9%となっている。

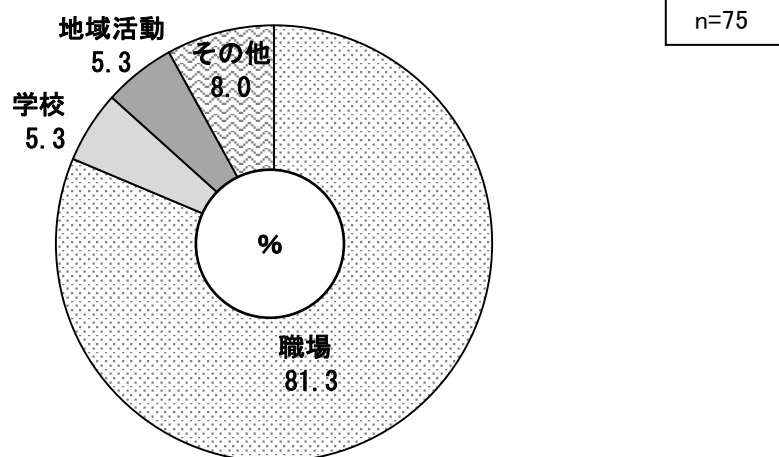
男女別とも、6割以上が「ない」と答えているが、女性10.6%、男性2.9%が「自分自身が受けたことがある」と答えている。

年代別では、20～50歳代の女性で1割以上が「自分自身が受けたことがある」と回答している。

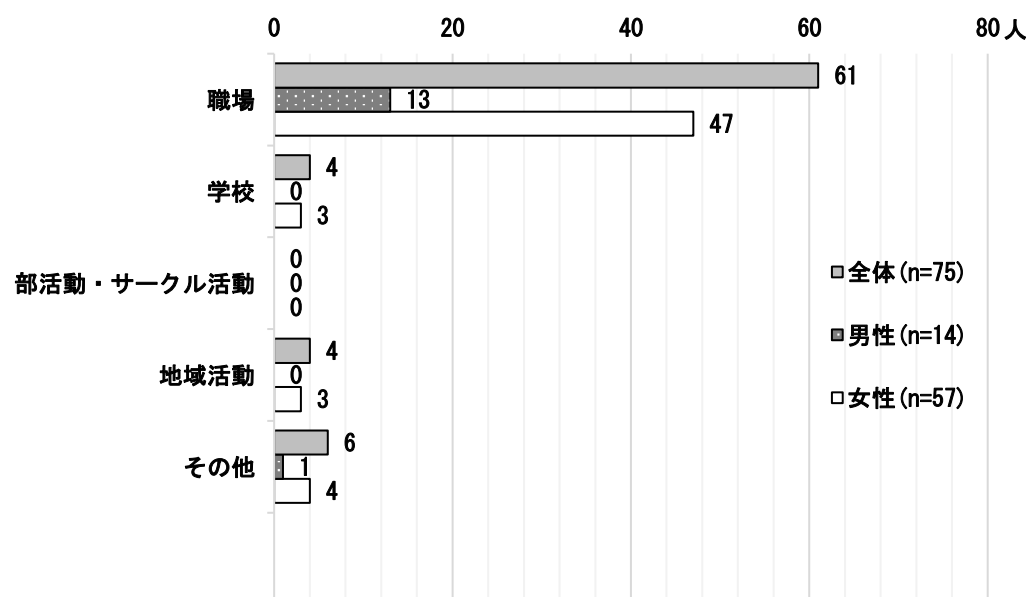
問１０で「１ 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。

問１１ どこでそのようなことがありましたか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

全体【グラフ11-1】



男女別【グラフ11-2】



＝ 「職場」で受けた人が８割以上 ＝

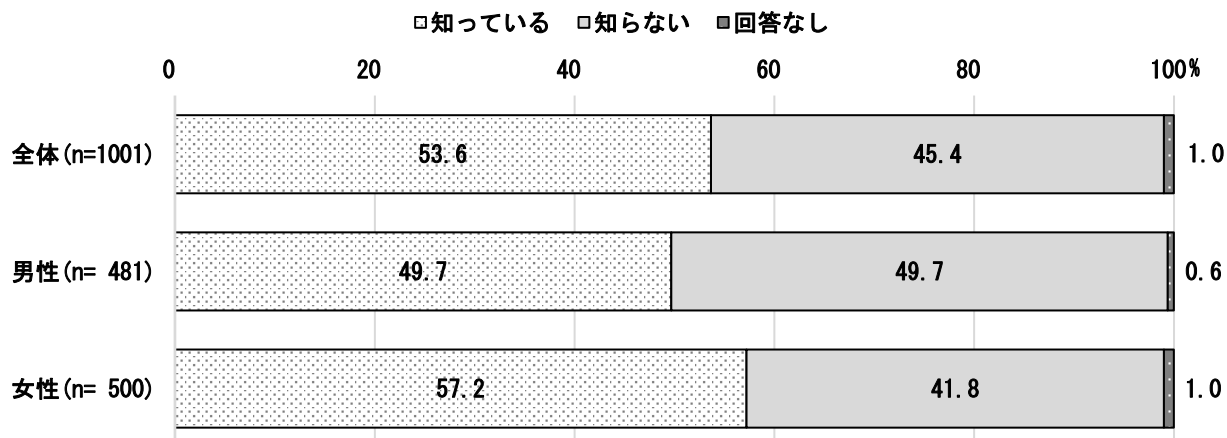
全体では「職場」が81.3%、次に「学校」「地域活動」が5.3%となっている。

男性、女性ともに最も多いのは「職場」で、次に「学校」「地域活動」となっている。

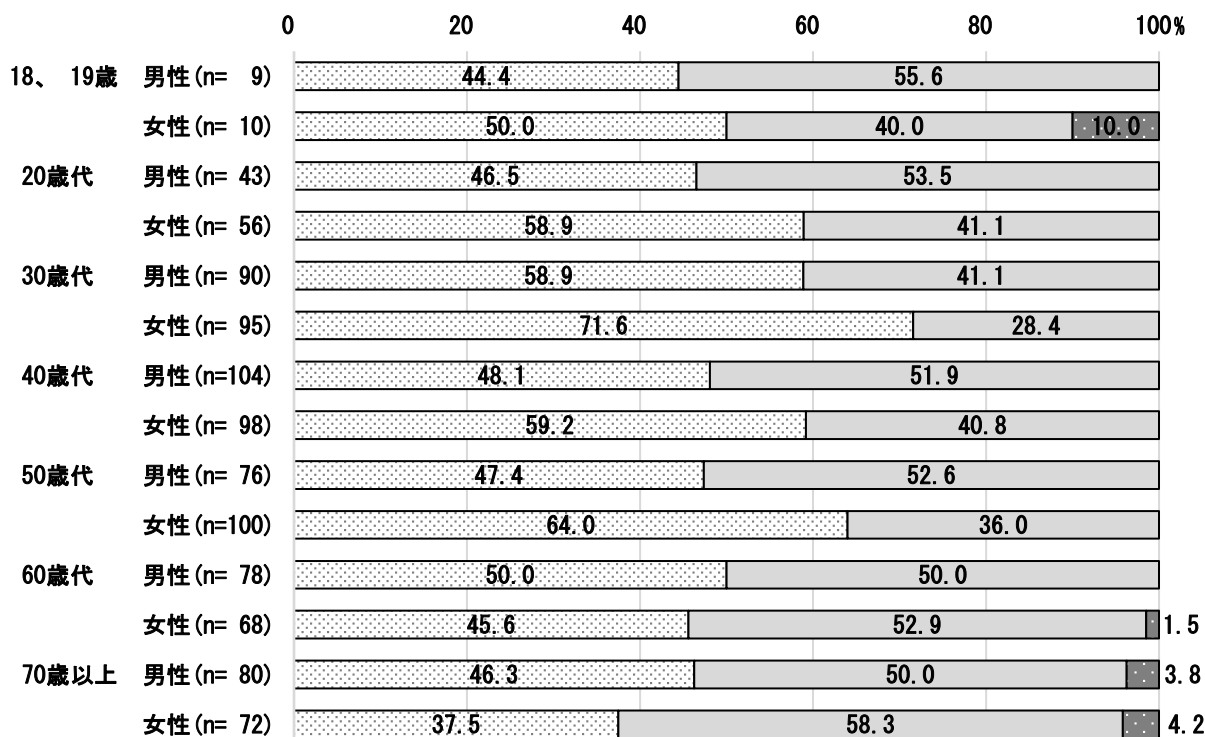
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）（問１２～１８）

問１２ DVに関する相談窓口を知っていますか。

全体【グラフ12-1】



年代別【グラフ12-2】



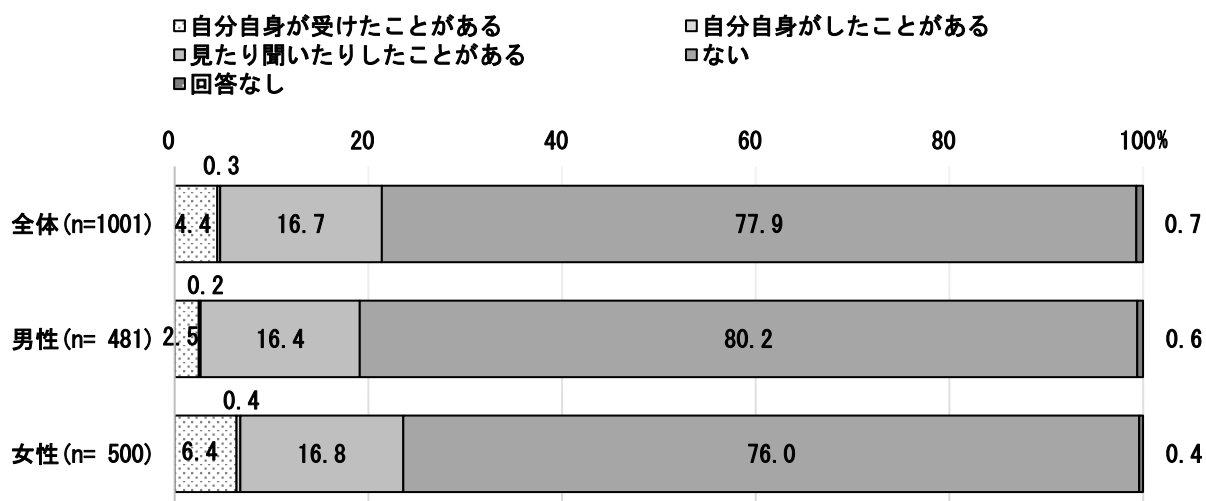
＝ 約半数の人が、相談窓口を「知っている」 ＝

全体では「知っている」が53.6%、「知らない」が45.4%となっている。

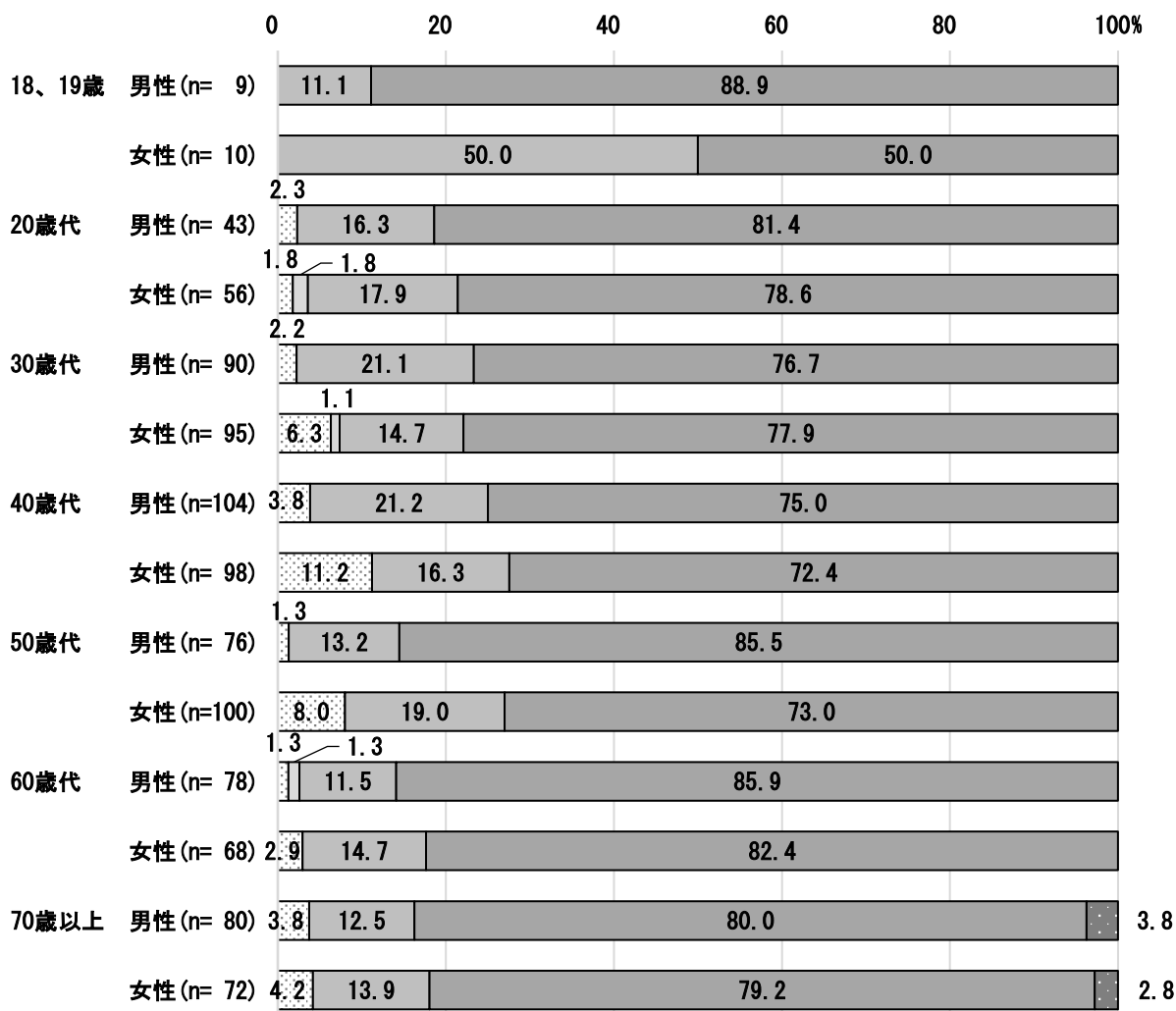
年代別では、男性は「知っている」と回答した人は30歳代が58.9%と最も多く、次に60歳代50.0%、40歳代48.1%、50歳代47.4%の順になっている。女性は30歳代71.6%が最も多く、次に50歳代64.0%、40歳代59.2%、20歳代58.9%となっている。

問 13 過去5年間であなたの身近なところにDVがありましたか。次の中から1つ選んでください。

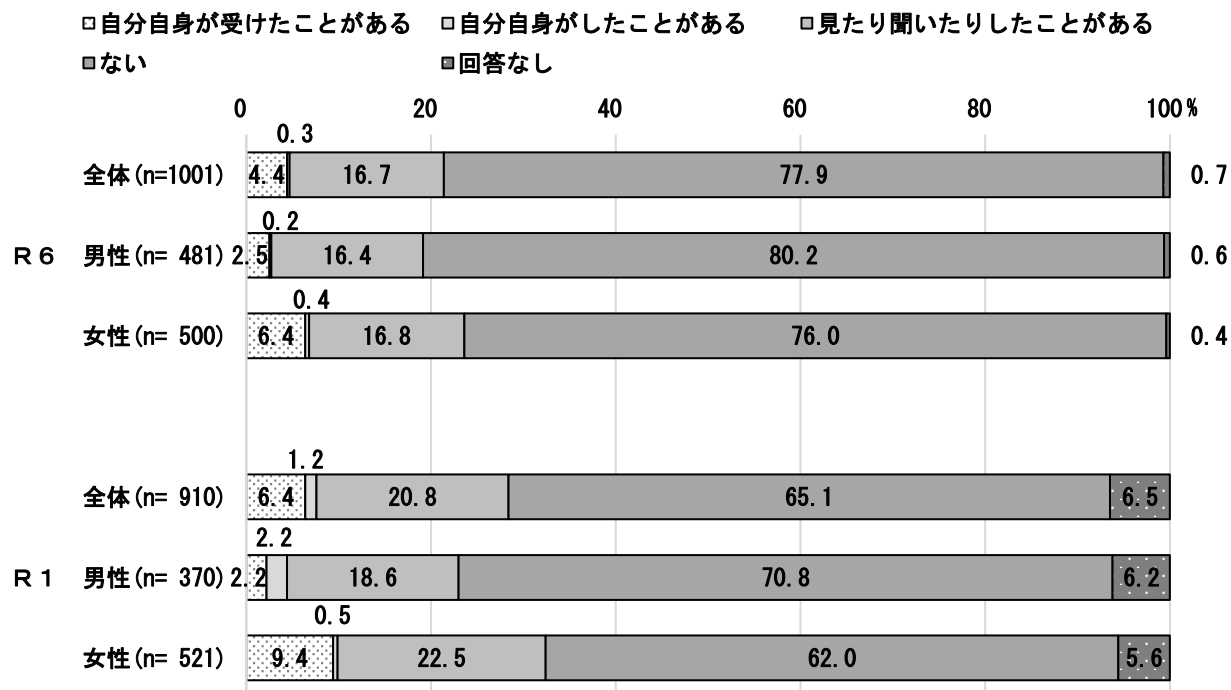
全体【グラフ13-1】



年代別【グラフ13-2】



前回調査との比較【グラフ13-3】



＝ 6人に1人は「見たり聞いたりしたことがある」 ＝

全体では「ない」と答えた人が 77.9%、「見たり聞いたりしたことがある」と答えた人が 16.7%で、「自分自身が受けたことがある」と答えた人が 4.4%となっている。

男性、女性ともに「ない」と答えた人が7割以上だが、女性では 6.4%が、男性では 2.5%が「自分自身が受けたことがある」と答えている。

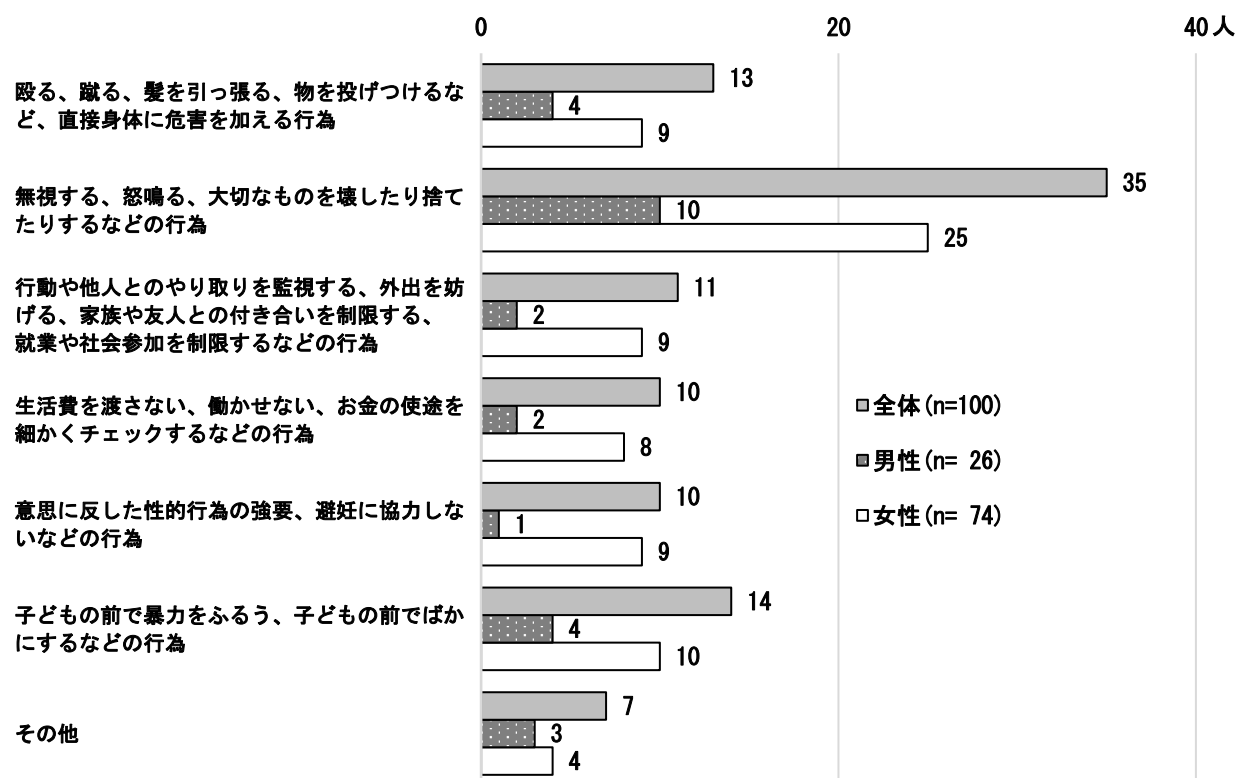
年代別では「自分自身が受けたことがある」と答えた人は、20歳代以上のどの年代にも存在しているが、40歳代女性が 11.2%と最も高くなっている。

令和元年度との比較では、全体で「見たり聞いたりしたことがある」が 4.1ポイント減少し、「ない」が 12.8ポイント上昇している。

問 1 3 で「1 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。

問 1 4 それはどのようなものでしたか。当てはまるものをすべて選んでください。

全体【グラフ 14-1】



＝ 精神的DVが最多、身体的DVも1割以上 ＝

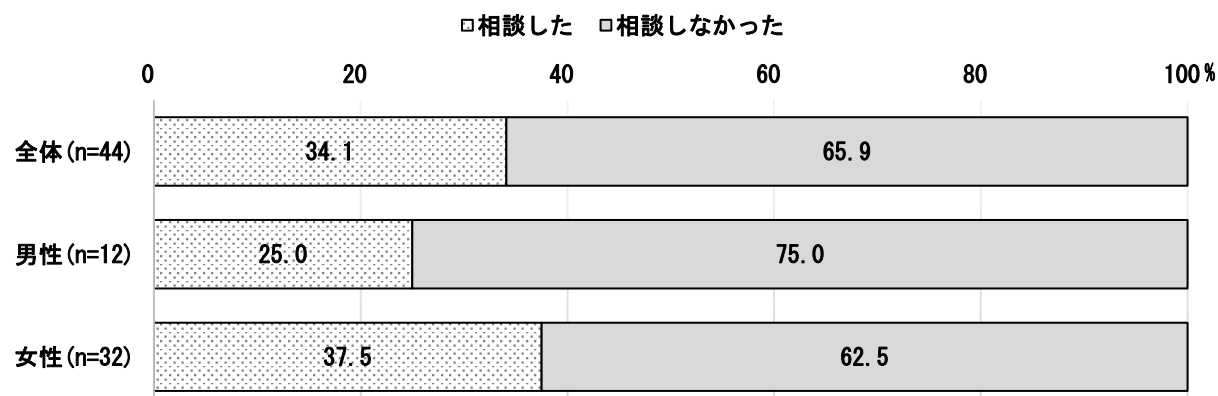
女性では「無視する、怒鳴る、大切なものを壊したり捨てたりするなどの行為（精神的DV）」が最多で25人、次に「子どもの前で暴力をふるう、子どもの前でばかにするなどの子供の行為（面前DV）」が10人、「殴る、蹴る、髪を引っ張る、物を投げつけるなど、直接身体に危害を加える行為（身体的DV）」や「行動や他人とのやり取りを監視する、外出を妨げる、家族や友人との付き合いを制限する、就職や社会参加を制限するなどの行為（社会的DV）」、「意思に反した性的行為の強要、避妊に協力しないなどの更衣（性的DV）」がそれぞれ9人となっている。

男性においても「無視する、怒鳴る、大切なものを壊したり捨てたりするなどの行為（精神的DV）」が最多で10人となっている。

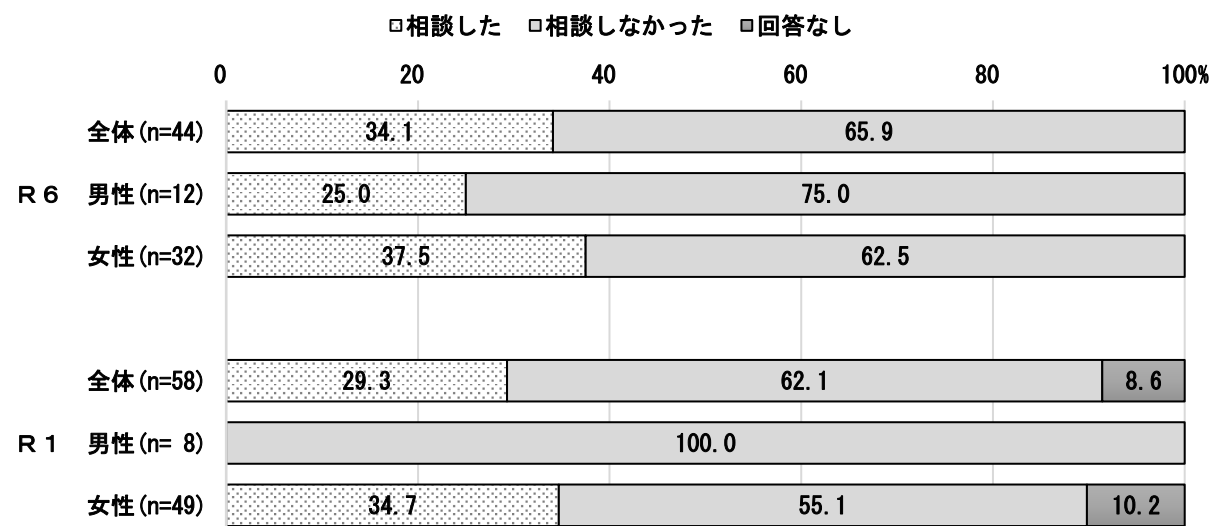
問 1 3 で「1 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。

問 1 5 だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

全体【グラフ 15-1】



前回調査との比較【グラフ 15-2】



＝ 約 3 割の人が、「相談した」と回答 ＝

全体では「相談した」と答えた人は 34.1%、「相談しなかった」と答えた人は 65.9%となっている。

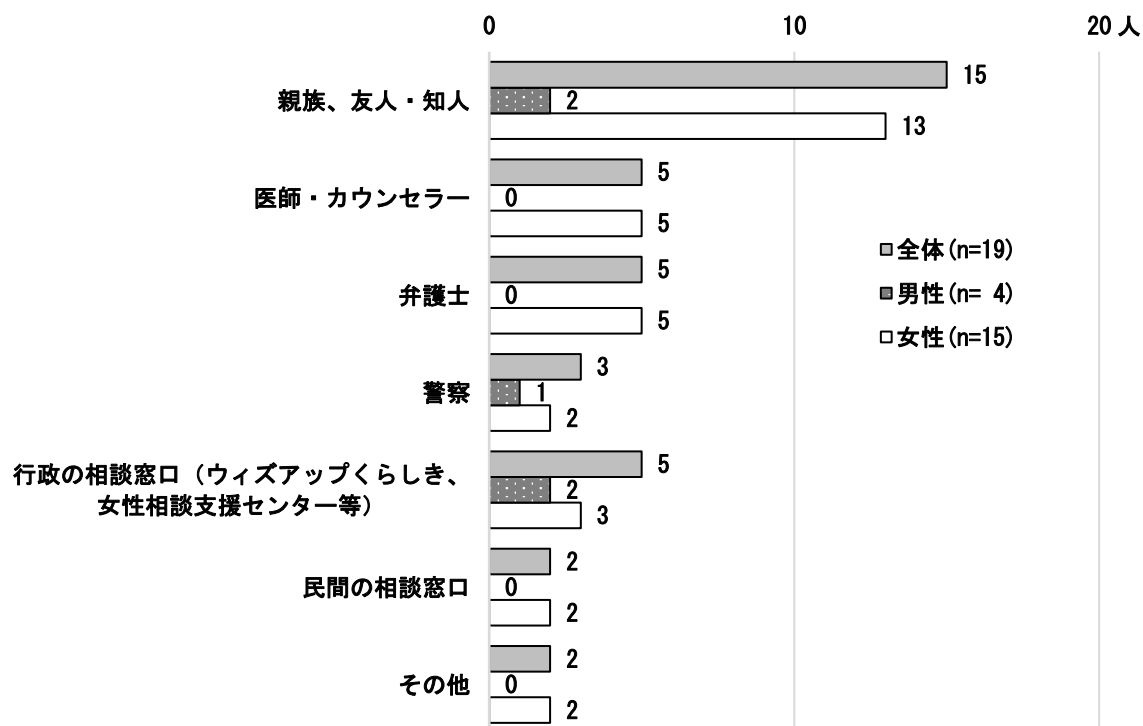
男女別では「相談した」と答えた男性は 25.0%、女性は 37.5%となっており、男性の方が低い傾向がある。

令和元年度と比較すると「相談した」は全体で 4.8 ポイント、女性で 2.8 ポイント増加している。男性は令和元年度 0%であったが、今回は 25.0%となっており、4 人に 1 人が「相談した」と回答している。

問 15 で「1 相談した」を選んだ方におたずねします。

問 16 あなたが相談した先について、次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

項目別【グラフ 16-1】



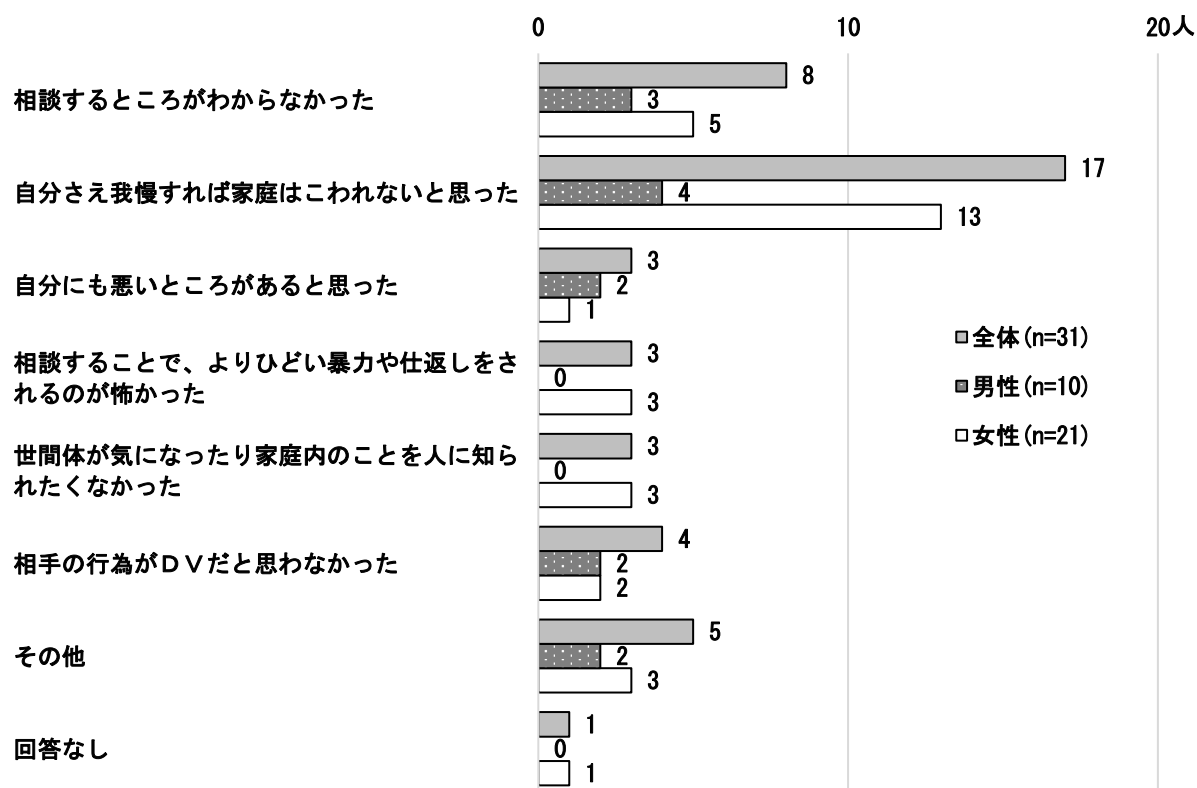
＝ 親族や友人・知人など、身近な人に相談 ＝

身近な人に相談した人が多く「親族、友人・知人」と答えた人が 15 人、次に「医師・カウンセラー」、「弁護士」、「行政の相談窓口」がそれぞれ 5 人となっている。

問 15 で「2 相談しなかった」を選んだ方におたずねします。

問 17 相談しなかった理由は何ですか。次の中から当てはまるものを2つまで選んでください。

全体【グラフ 17-1】

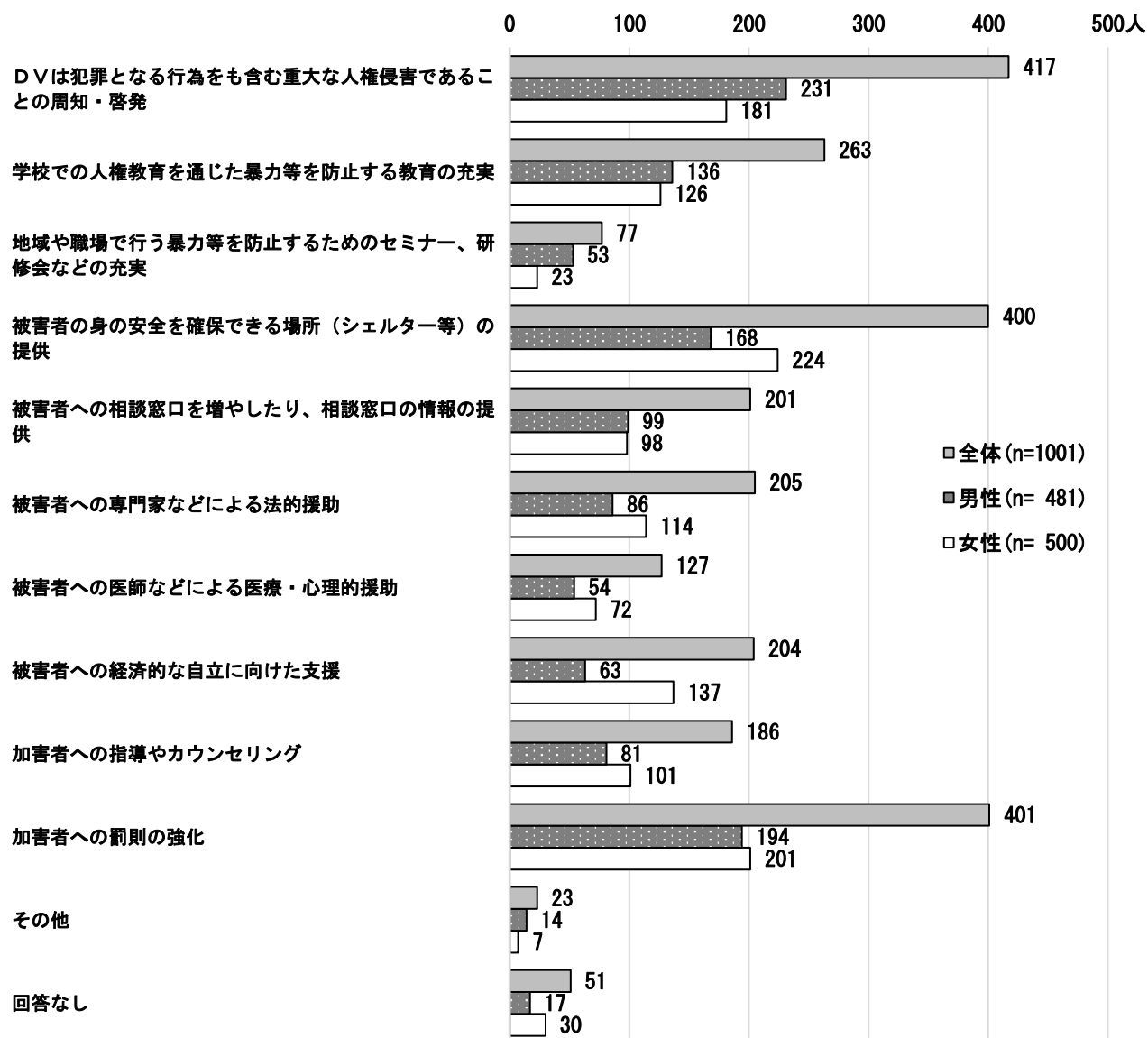


＝ 相談しなかった理由は「自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかった」が最多 ＝

全体では、男性、女性ともに「自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかった」と答えた人が最も多く、全体 17 人、男性 4 人、女性 13 人となっている。次に「相談するところがわからなかった」が多く、全体 8 人、男性 3 人、女性 5 人となっている。

問 18 DVの問題について、どのような支援や対策が必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

全体【グラフ 18-1】



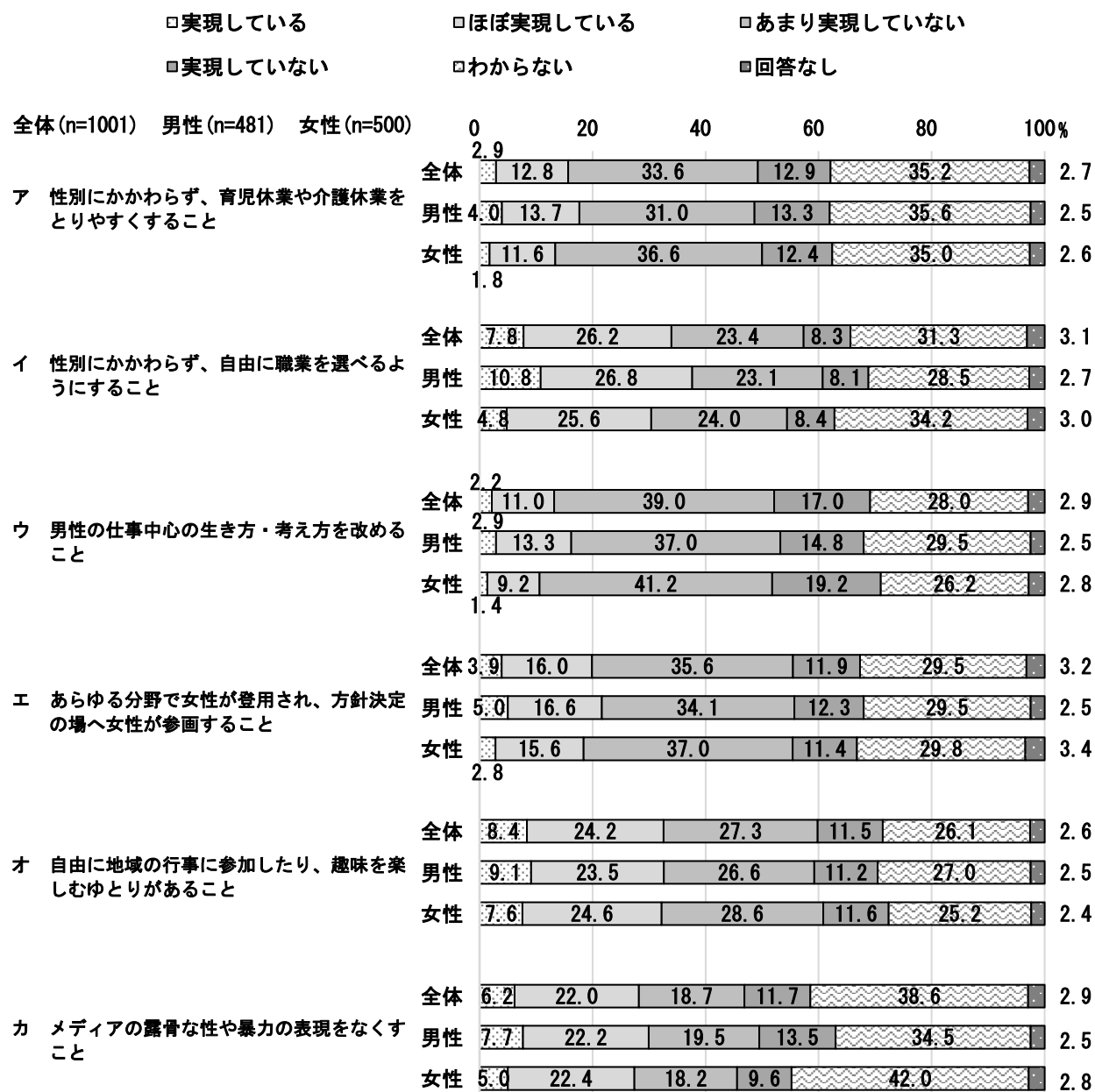
＝ DVのために必要な対策は「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」と「加害者への罰則の強化」、「被害者の身の安全を確保できる場所（シェルター等）の提供」と考えている人が多い ＝

配偶者や恋人からの暴力をなくすためには、全体では「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」が417人、「加害者への罰則の強化」が401人など、対策が必要と答えた人が多い。続いて「被害者の身の安全を確保できる場所（シェルター等）の提供」が400人、「学校での人権教育を通じた暴力等を防止する教育の充実」が263人となっている。また、女性では「被害者の身の安全を確保できる場所（シェルター等）の提供」が224人と最多で、次に「加害者への罰則の強化」が201人、「DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発」が181人となっている。

5 倉敷市の男女共同参画施策（問19、20）

問19 ア～カの項目について、倉敷市の男女共同参画は実現していると思いますか。次の中から1つ選んでください。

項目別【グラフ19-1】



＝ 実現していないと思うのは「男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること」が最多 ＝

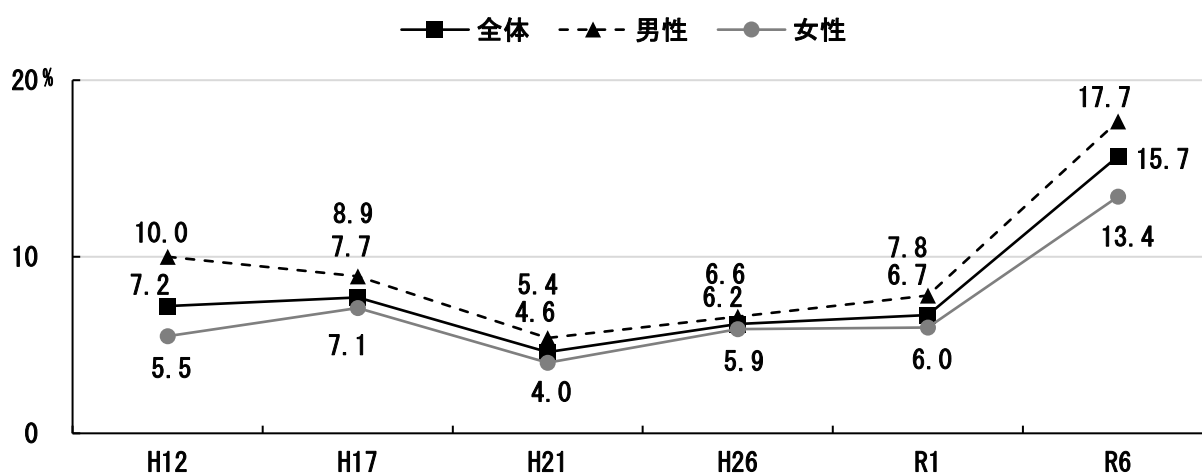
6つの項目で「実現している」と「ほぼ実現している」と答えた人を合わせて最も多いのは『性別にかかわらず、自由に職業を選べるようにすること』で全体34.0%、男性37.6%、女性30.4%となっている。次に『自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがある』で全体32.6%、男性32.6%、女性32.2%となっている。

一方「あまり実現していない」と「実現していない」を合わせて最も多いのは『男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること』で全体56.0%、男性51.8%、女性60.4%となっている。次に『あらゆる分野で女性が登用され、方針決定の場へ女性が参画すること』で全体47.5%、男性46.4%、女性48.4%となっている。

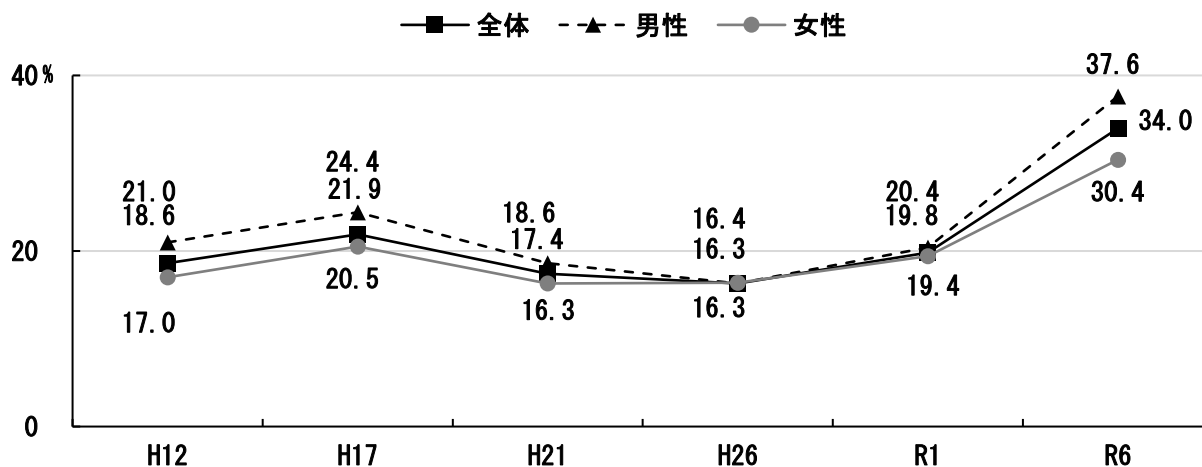
「実現している」「ほぼ実現している」の推移【グラフ19-2】

平成12年度	全体 (n= 566)	男性 (n=219)	女性 (n=347)
平成17年度	〃 (n= 884)	〃 (n=328)	〃 (n=554)
平成21年度	〃 (n=1039)	〃 (n=437)	〃 (n=596)
平成26年度	〃 (n= 923)	〃 (n=393)	〃 (n=519)
令和元年度	〃 (n= 901)	〃 (n=370)	〃 (n=521)
令和6年度	〃 (n=1001)	〃 (n=481)	〃 (n=500)

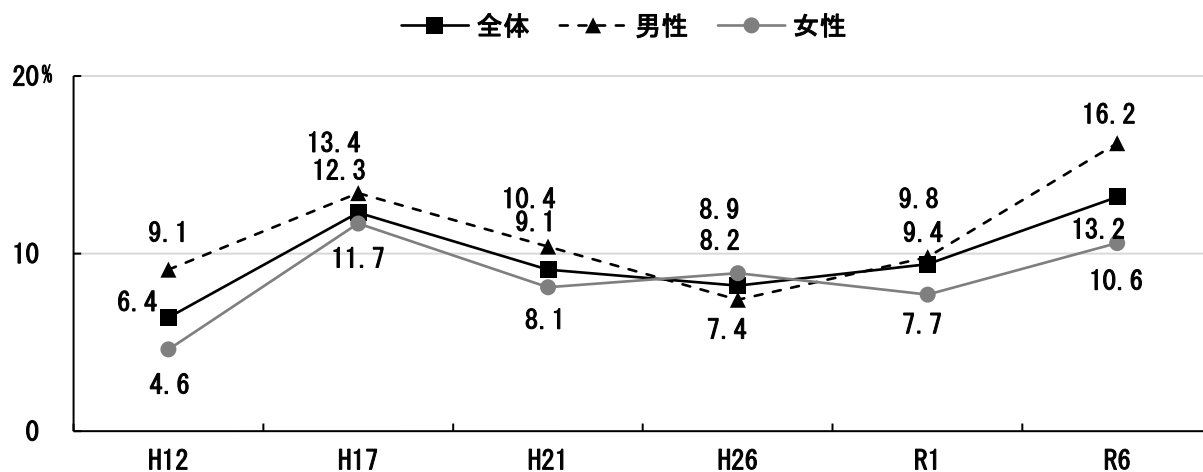
ア 性別にかかわらず、育児休業や介護休業をとりやすくすること



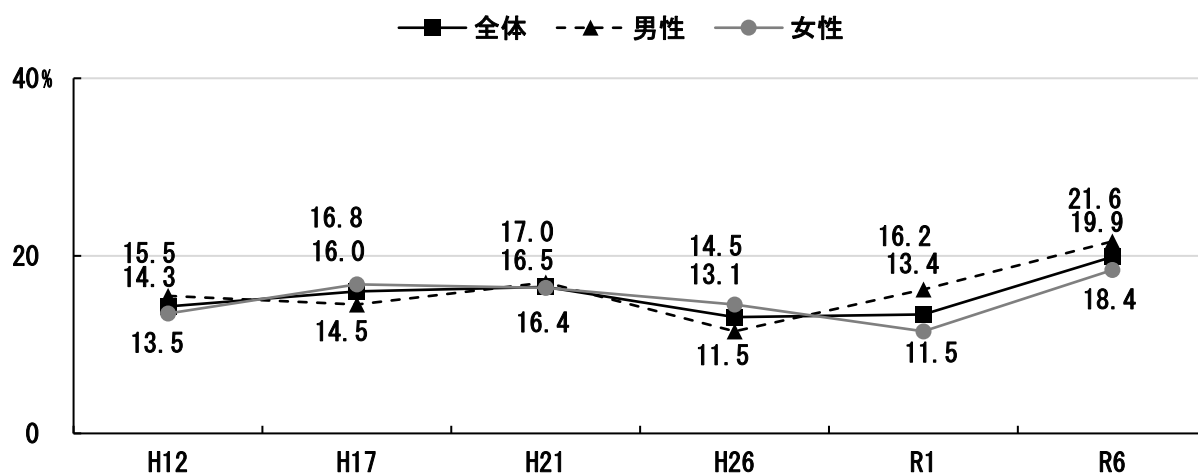
イ 性別にかかわらず、自由に職業を選べるようにすること



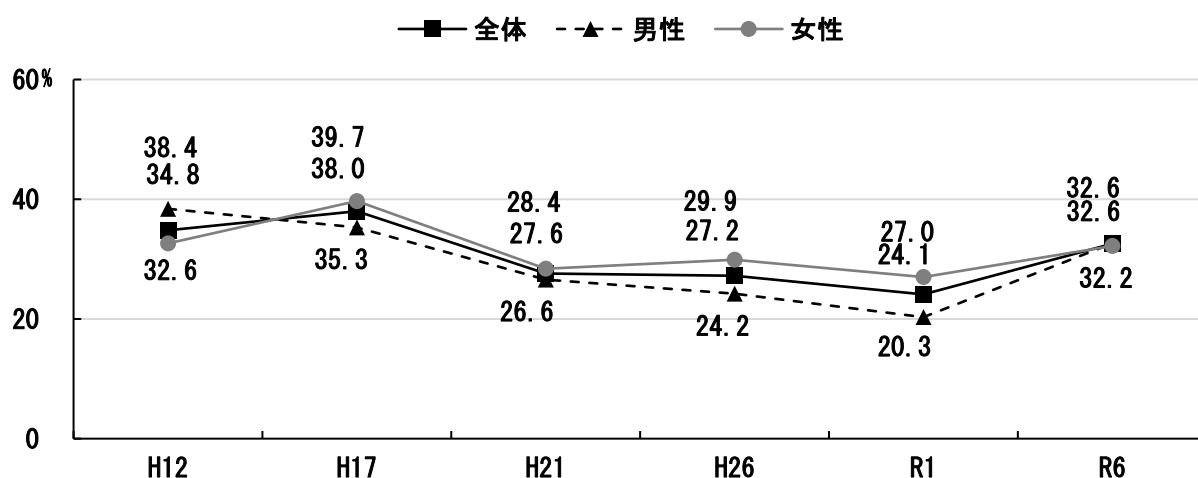
ウ 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること



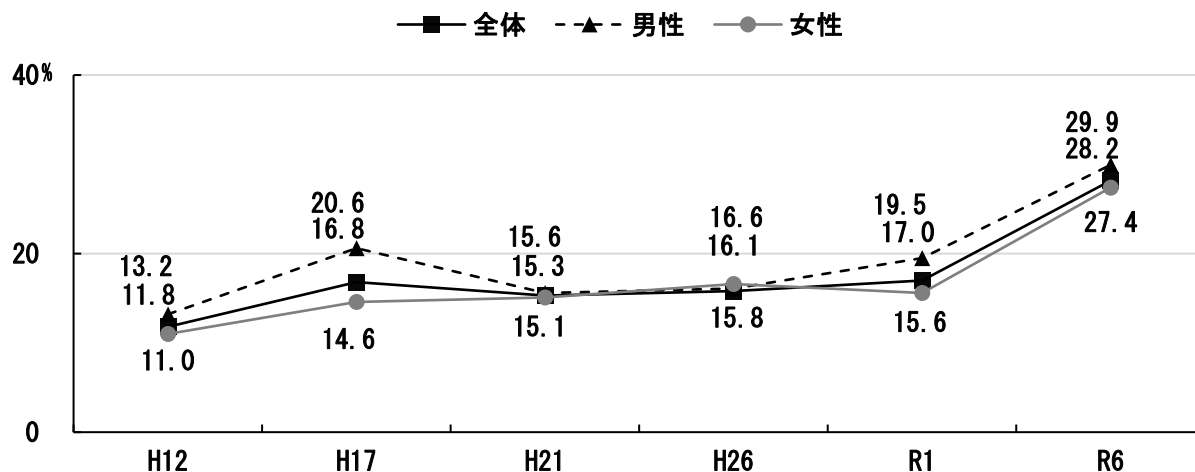
エ あらゆる分野で女性が登用され、方針決定の場へ女性が参画すること



オ 自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること



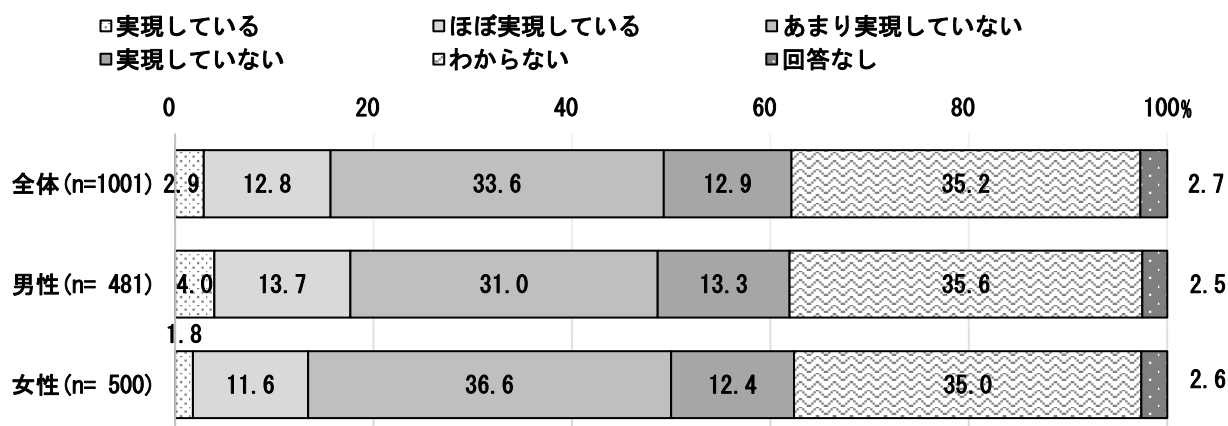
カ メディアの露骨な性や暴力の表現をなくすこと



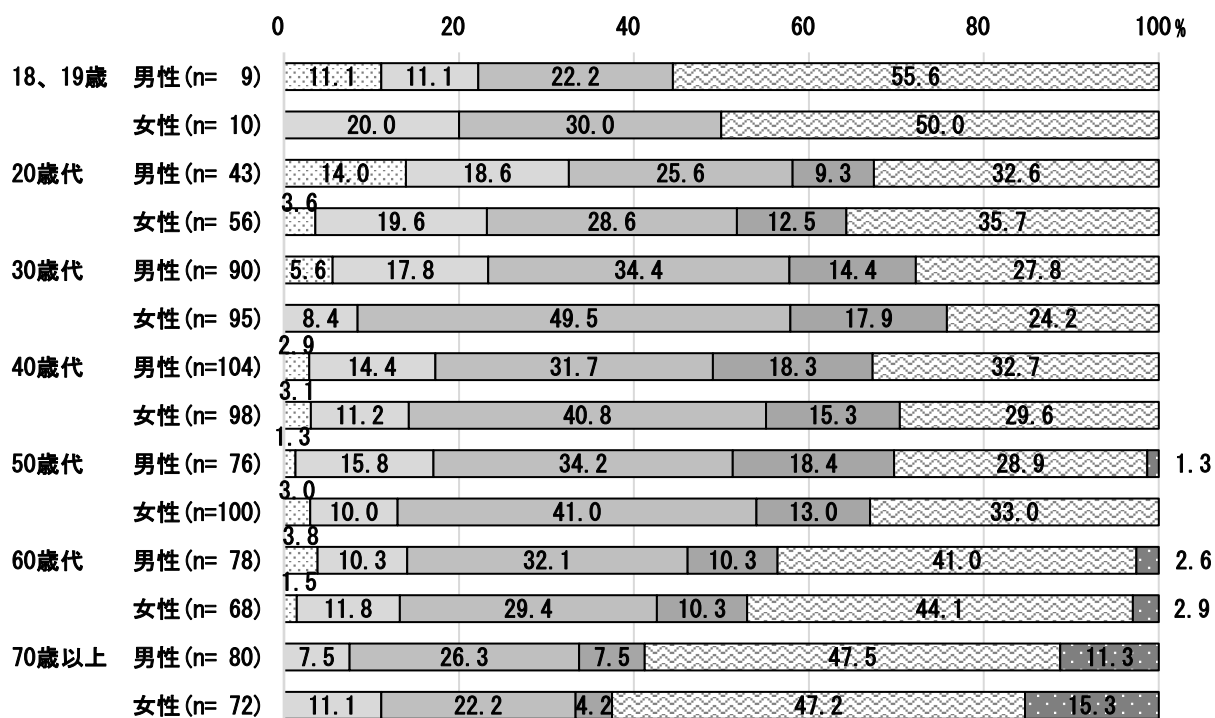
5年ごとのアンケート結果で「実現している」と「ほぼ実現している」を合わせた数値の推移をみると「オ 自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがある」以外は平成26年度以降上昇傾向にある。令和元年度と比較すると「ア 性別にかかわらず、育児休業や介護休業をとりやすくすること」は9.0ポイント、「イ 性別にかかわらず、自由に職業を選べるようにすること」は14.2ポイント、「ウ 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること」は3.8ポイント、「エ あらゆる分野で女性が登用され、方針決定の場へ女性が参画すること」は6.5ポイント、「オ 自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること」は8.5ポイント、「カ メディアの露骨な性や暴力の表現をなくすこと」は11.2ポイントとどの項目も上昇している。

ア 性別にかかわらず、育児休暇や介護休業をとりやすくすること

全体【グラフ19-7-1】



年代別【グラフ19-7-2】



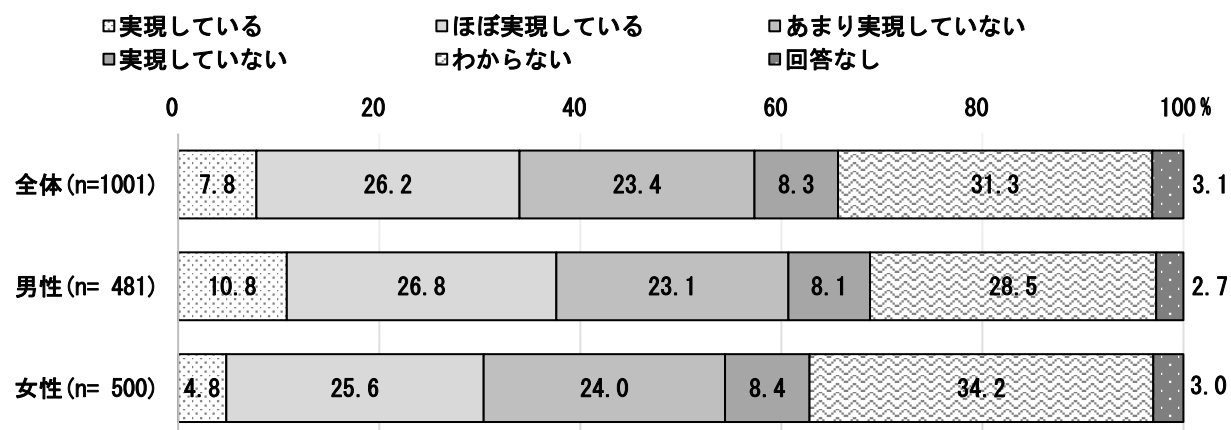
＝ 男性、女性ともに「あまり実現していない」「わからない」が3割以上 ＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 15.7%、男性 17.7%、女性 13.4%と低い数値となっている。一方「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 46.5%、男性 44.3%、女性 49.0%となっており、半数近くとなっている。

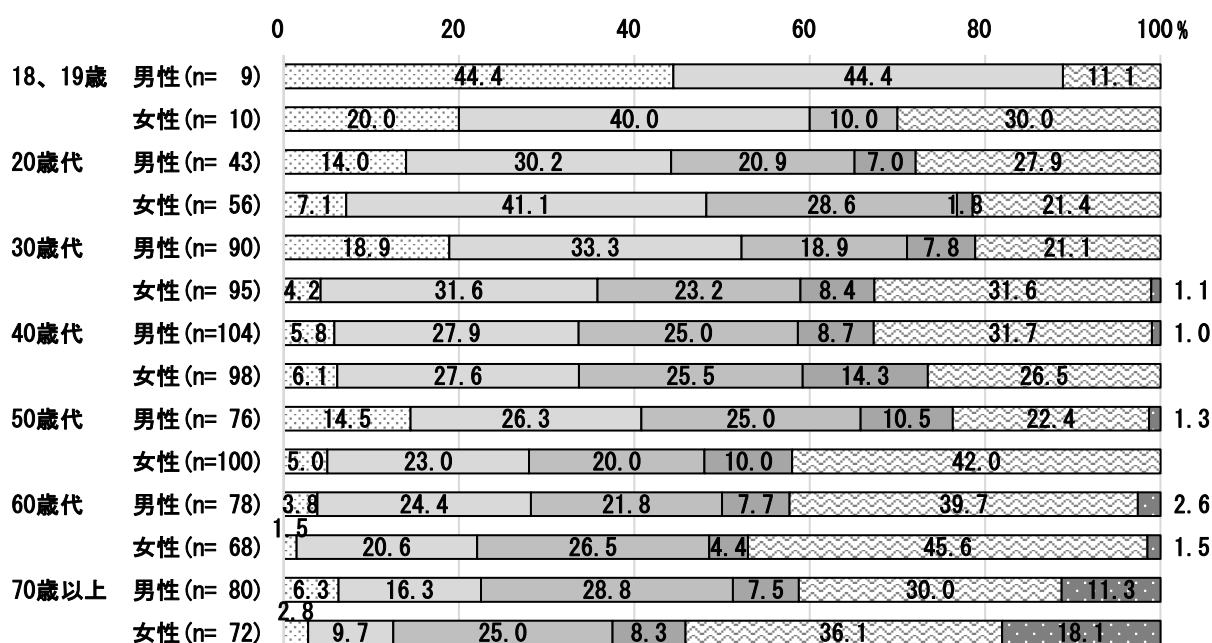
年代別でも、ほとんどの年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」よりも多くなっている。

イ 性別にかかわらず、自由に職業を選べるようにすること

全体【グラフ19-イ-1】



年代別【グラフ19-イ-2】



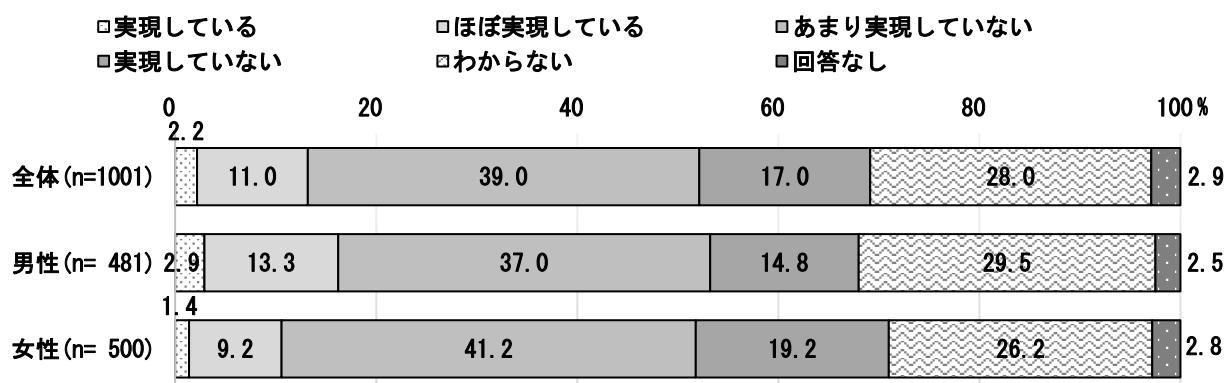
＝ 男性、女性ともに約4分の1が「ほぼ実現している」と回答しているが、約3割が「あまり実現していない」「実現していない」と回答 ＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 34.0%、男性 37.6%、女性 30.4%となっている。一方「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 31.7%、男性 31.2%、女性 32.4%となっている。

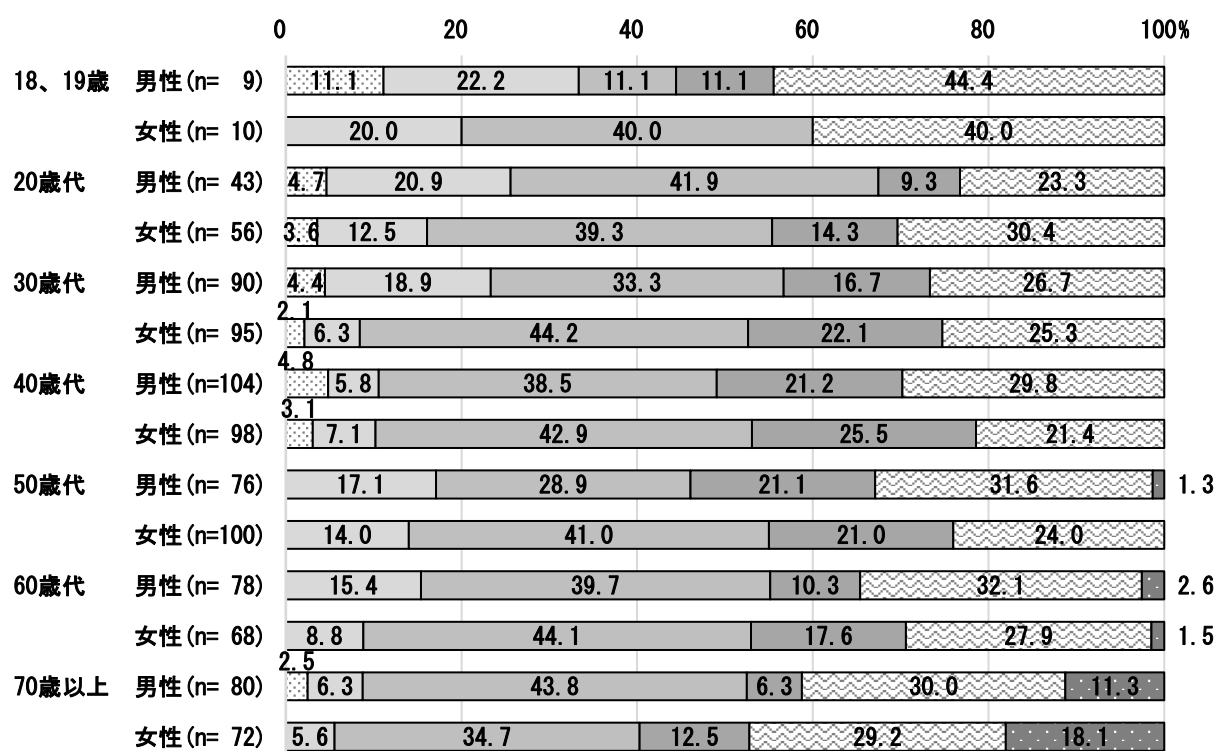
年代別では、60歳代、70歳以上の年代では「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」より多くなっている。

ウ 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること

全体【グラフ19-ウ-1】



年代別【グラフ19-ウ-2】



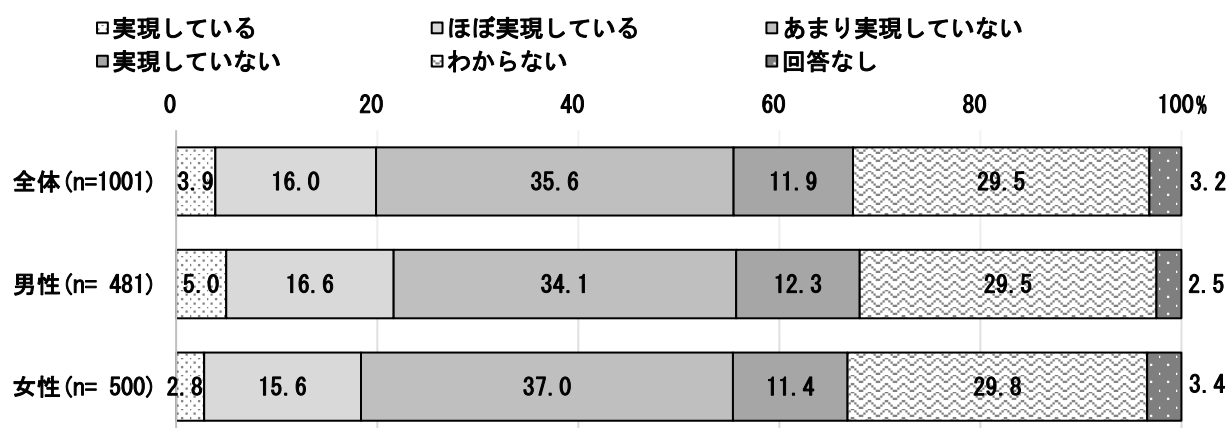
＝ 5割以上が「あまり実現していない」「実現していない」と回答 ＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 13.2%、男性 16.2%、女性 10.6%と低い数値になっている。「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 56.0%、男性 51.8%、女性 60.4%となっている。

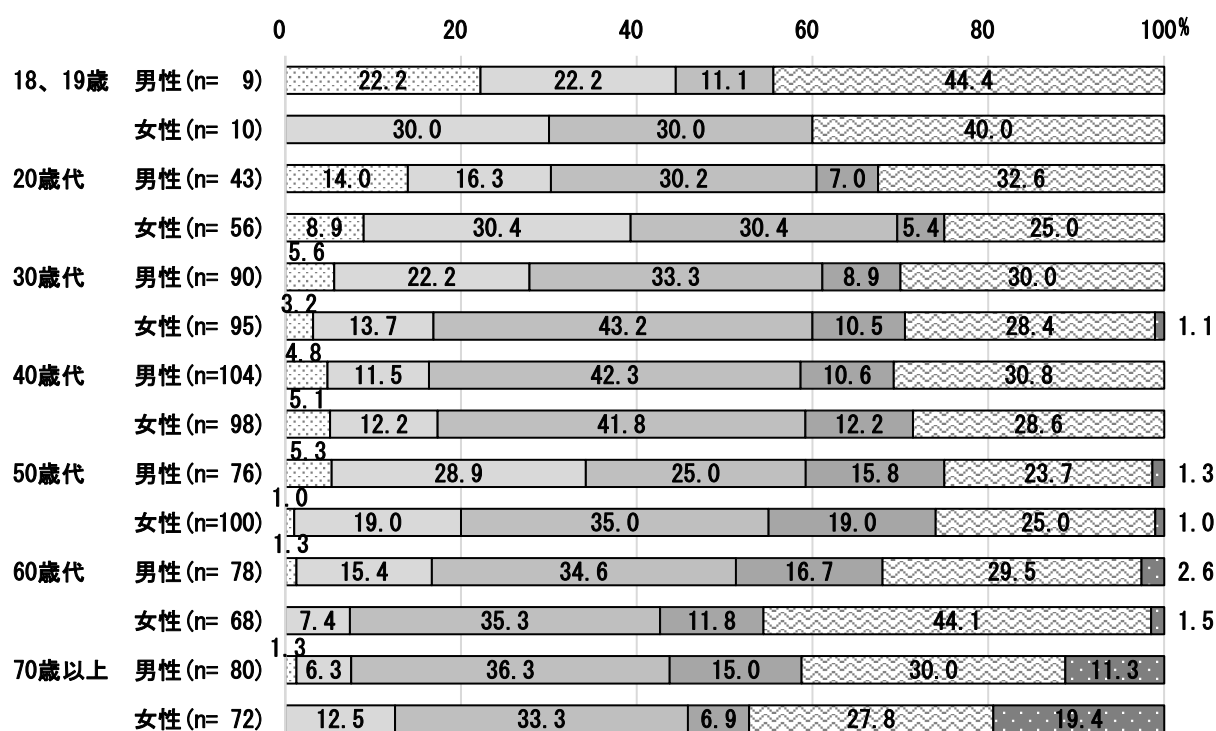
年代別でも、ほとんどの年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」より多くなっている。

エ あらゆる分野で女性が登用され、方針決定の場へ女性が参画すること

全体【グラフ19-エ-1】



年代別【グラフ19-エ-2】



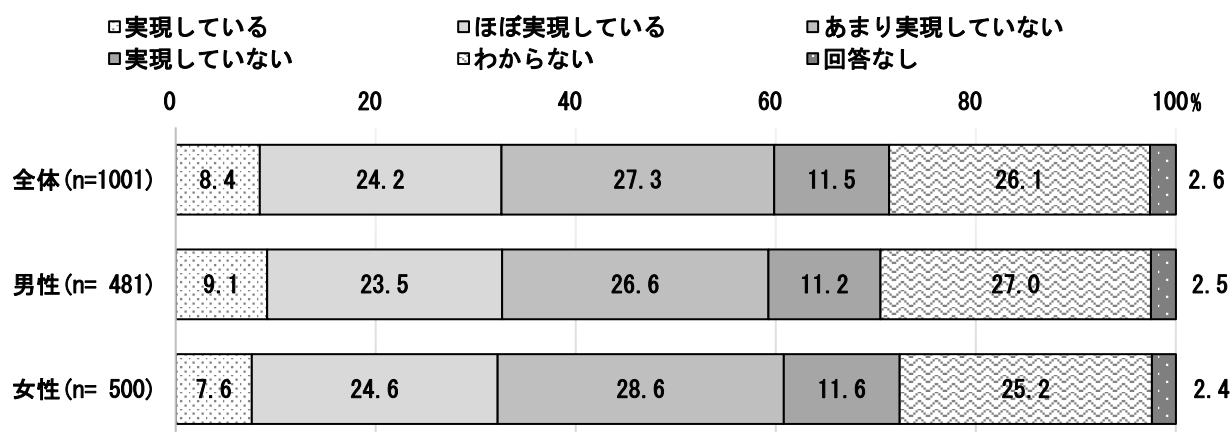
＝ 約5割が「あまり実現していない」「実現していない」と回答 ＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 19.9%、男性 21.6%、女性 18.4%となっている。一方「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 47.5%、男性 46.4%、女性 48.4%となっており、約5割となっている。

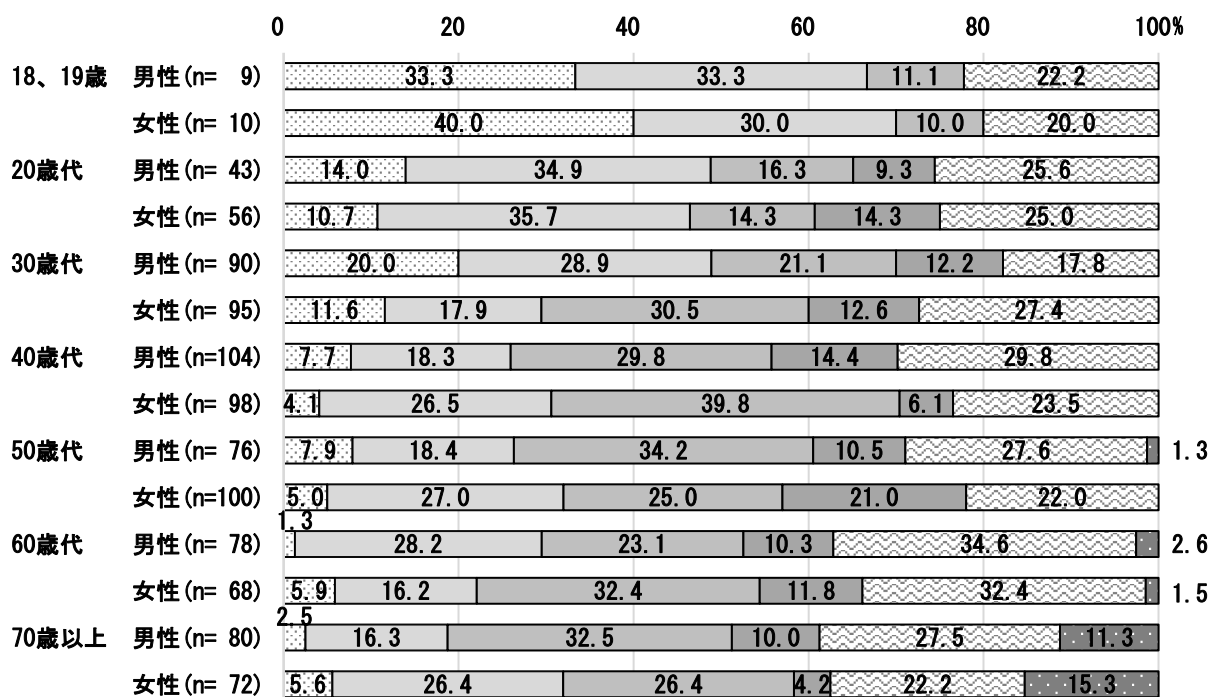
年代別でも、男性、女性ともに30歳以上の年代で「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」より多くなっている。

オ 自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること

全体【グラフ19-オ-1】



年代別【グラフ19-オ-2】



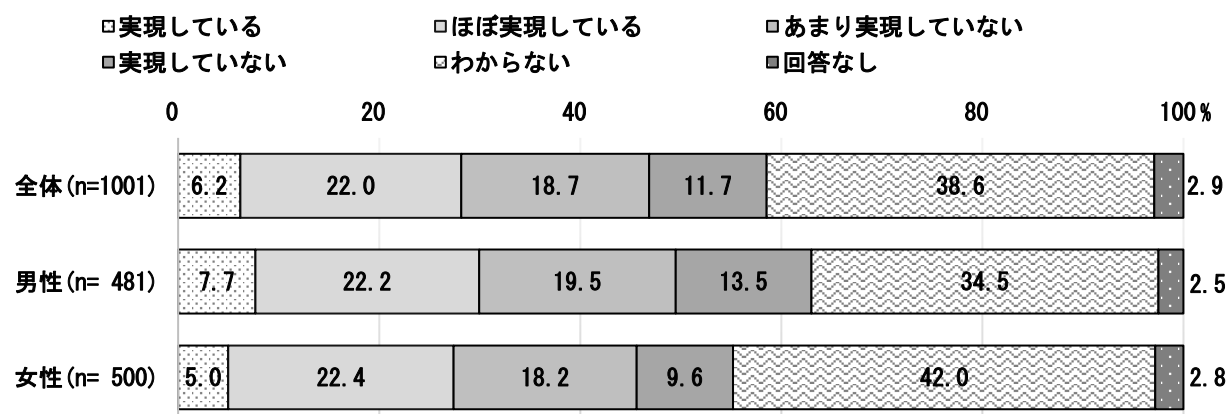
＝ 3人に1人は、行事や趣味を楽しむゆとりがある ＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 32.6%、男性 32.6%、女性 32.2%となっている。一方「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 38.8%、男性 37.8%、女性 40.2%となっている。

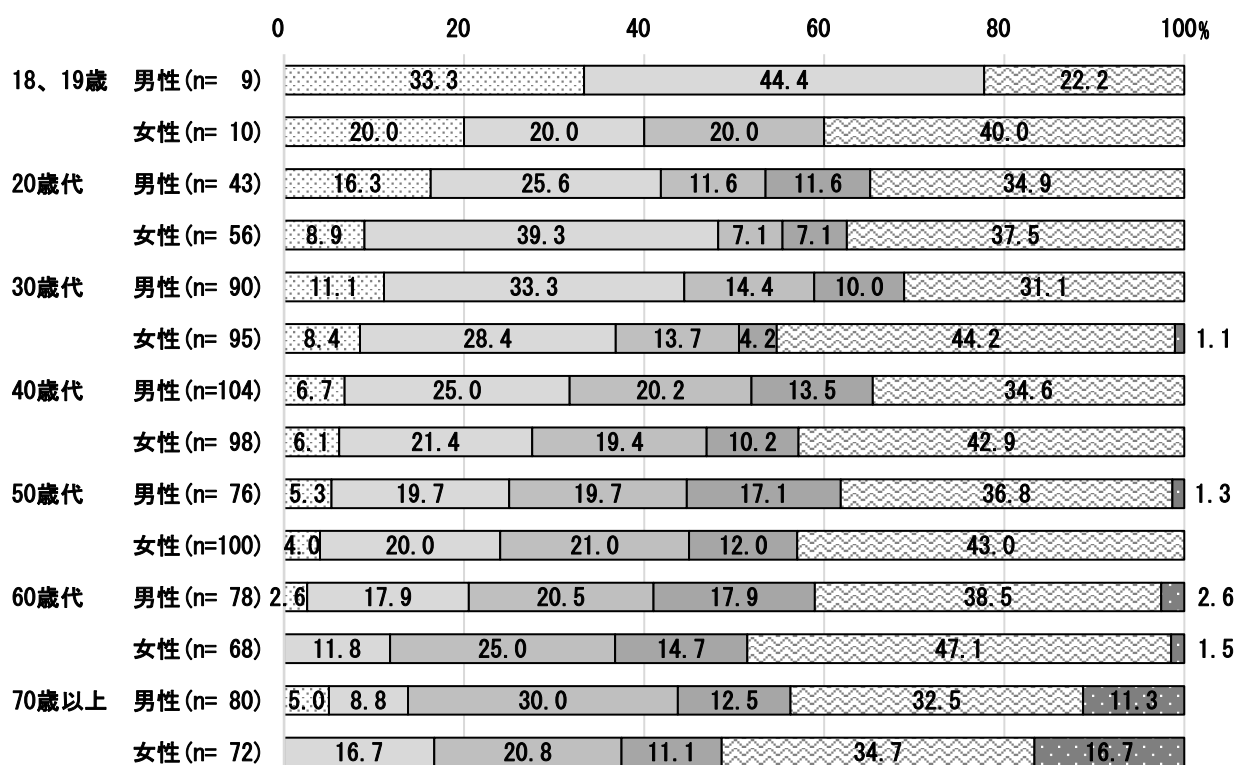
年代別では、40～60 歳代男女が「あまり実現していない」「実現していない」と答えた人が「実現している」「ほぼ実現している」より多くなっている。

カ メディアの露骨な性や暴力の表現をなくすこと

全体【グラフ19-カ-1】



年代別【グラフ19-カ-2】



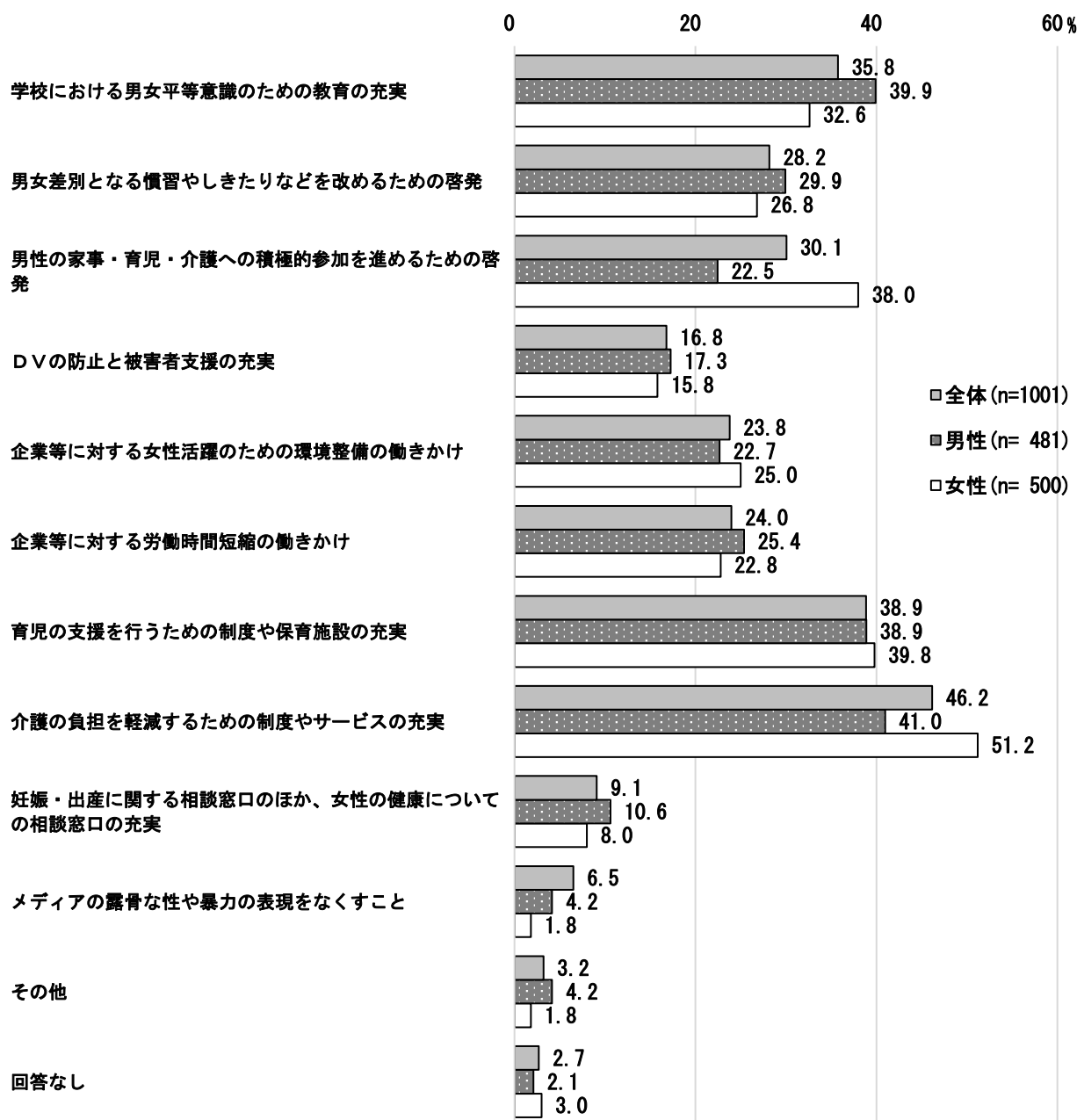
＝ 約3割が「メディアの露骨な性や暴力の場面がなくなっていない」と回答 ＝

「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人を合わせると、全体 28.2%、男性 29.9%、女性 27.4%となっている。一方「あまり実現していない」「実現していない」を合わせると全体 30.4%、男性 33.0%、女性 27.8%となっており、約3割となっている。

年代別でも、30歳代以下は「実現している」「ほぼ実現している」と答えた人が「あまり実現していない」「実現していない」より多くなっており、40歳代以上は逆となっている。

問20 男女共同参画社会の実現のために、倉敷市はどのようなことに取り組めばよいと思いますか。次の中からあなたの考えに近いもの3つまで選んでください。

全体【グラフ20-1】



＝ 男性、女性ともに「介護の負担を軽減するための制度やサービスの充実」に取り組めばよいと考えている人が最多 ＝

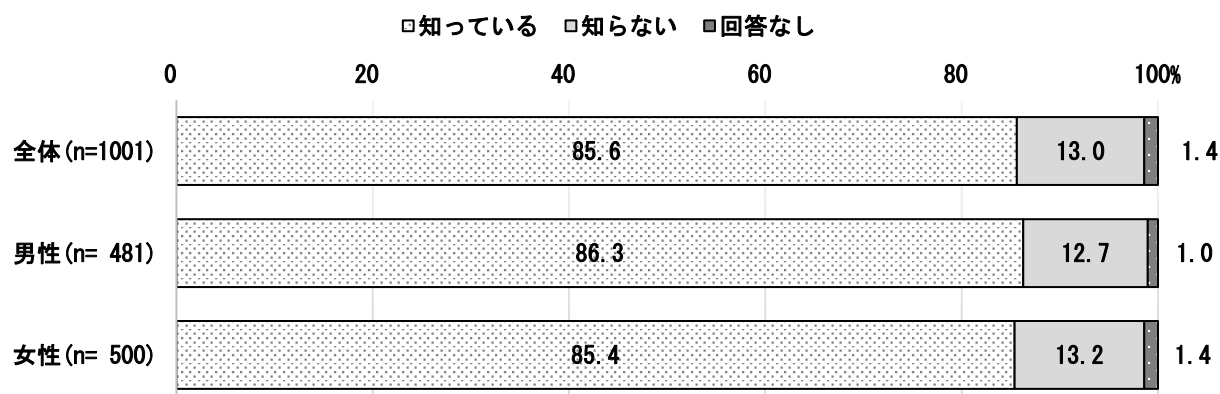
「介護の負担を軽減するための制度やサービスの充実」が最多で、順に「育児の支援を行うための制度や保育施設の充実」、「学校における男女平等意識のための教育の充実」となっている。

全体では、男性、女性ともに最も多い「介護の負担を軽減するための制度やサービスの充実」は全体46.2%、男性41.0%、女性51.2%となっている。また、「育児の支援を行うための制度や保育施設の充実」が全体の2位38.9%、男性3位38.9%、女性2位39.8%となっている。

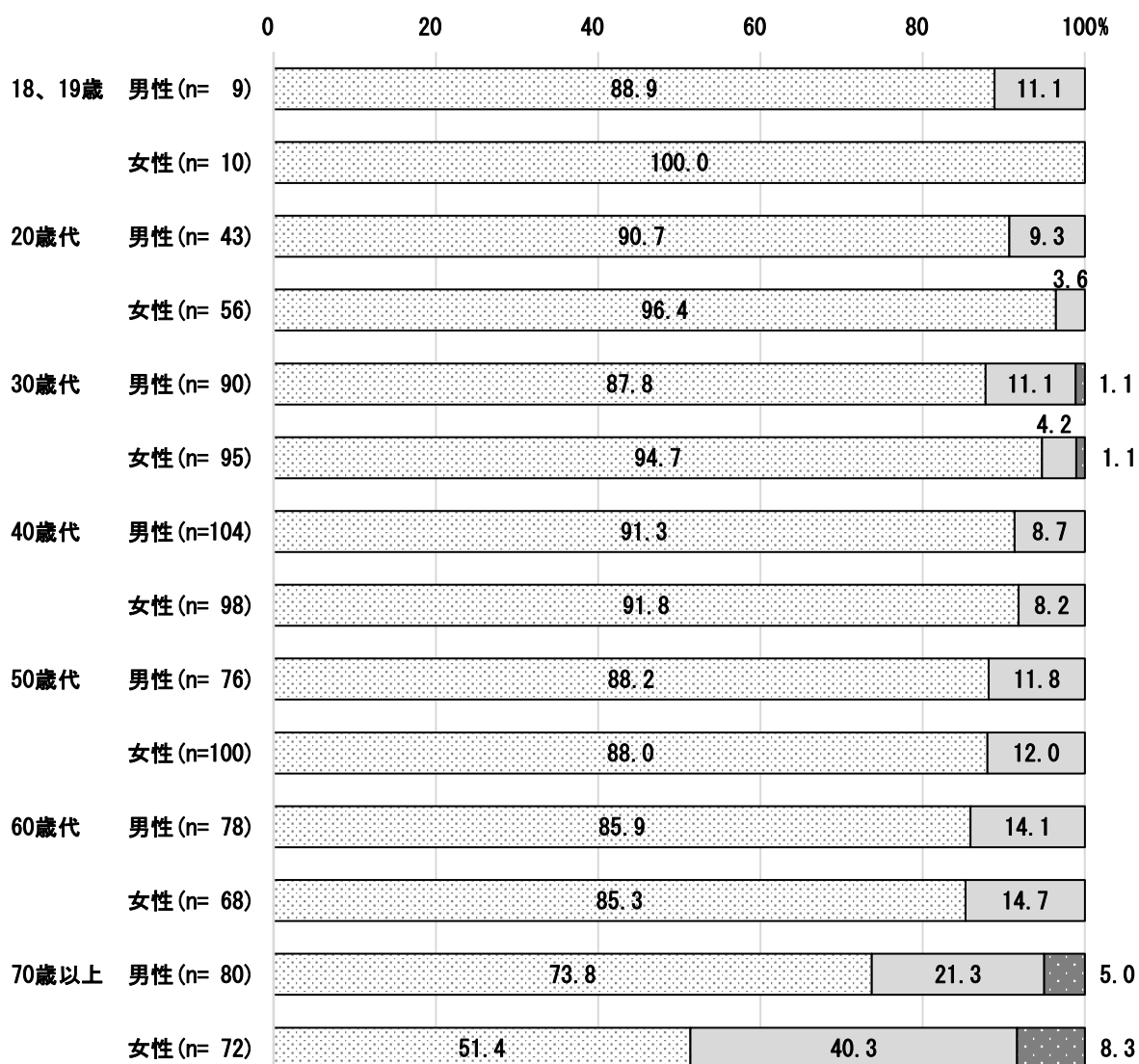
6 性的マイノリティ（LGBT）（問21～23）

問21 あなたは性的マイノリティまたはLGBTという言葉の意味を知っていますか。

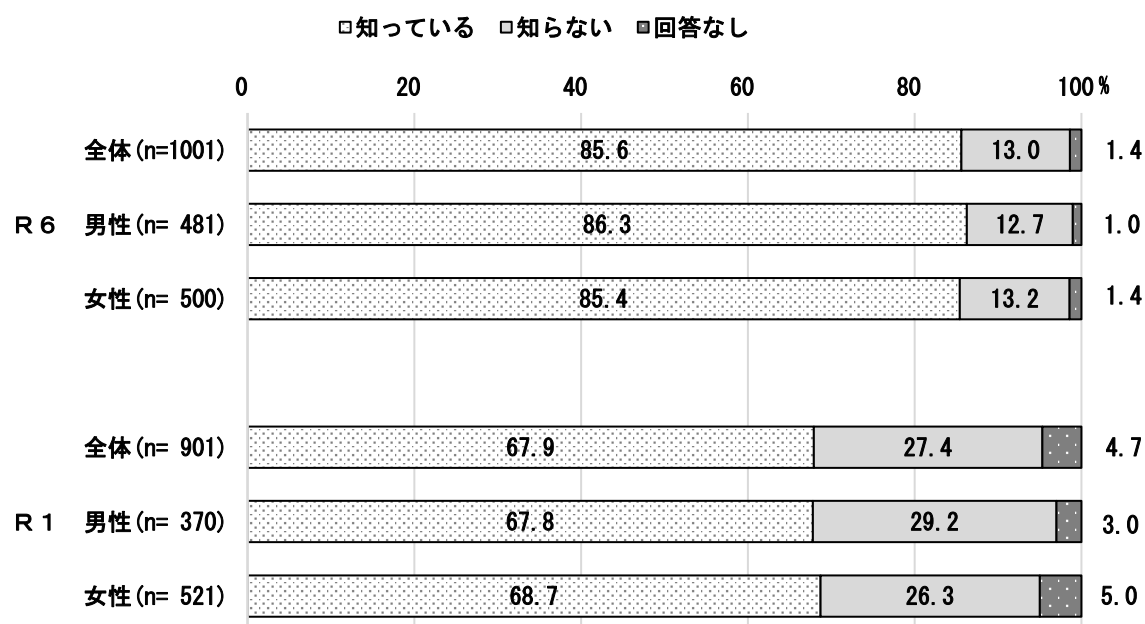
全体【グラフ21-1】



年代別【グラフ21-2】



前回調査との比較【グラフ 21-3】



＝ 8割以上の方が言葉の意味を知っている ＝

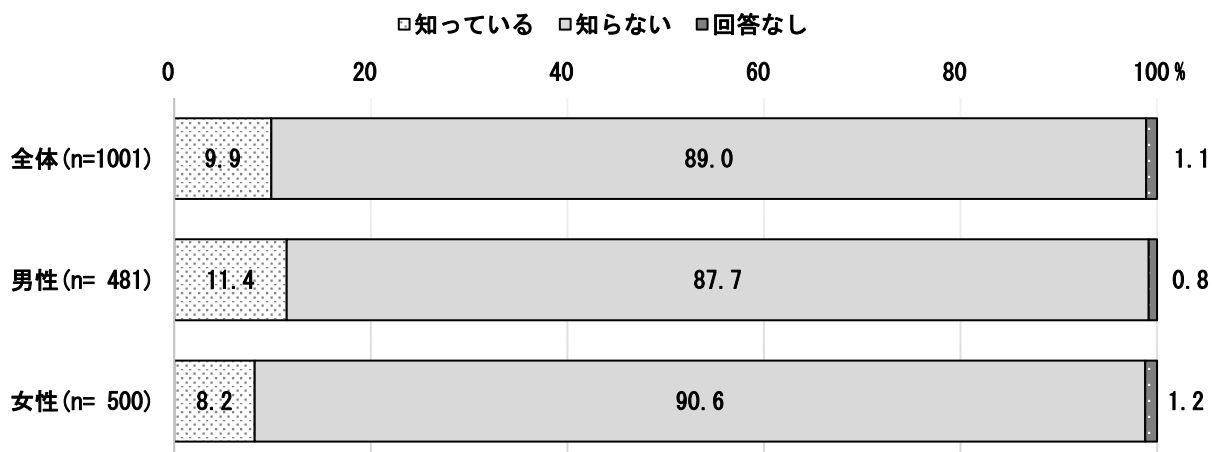
全体では「知っている」が85.6%、「知らない」が13.0%で「回答なし」が1.4%となっている。男性では「知っている」が86.3%、女性では「知っている」が85.4%となっている。

年代別では、70歳以上女性の認知率が51.4%と最も低いですが、その他では7割以上が「知っている」と答えている。

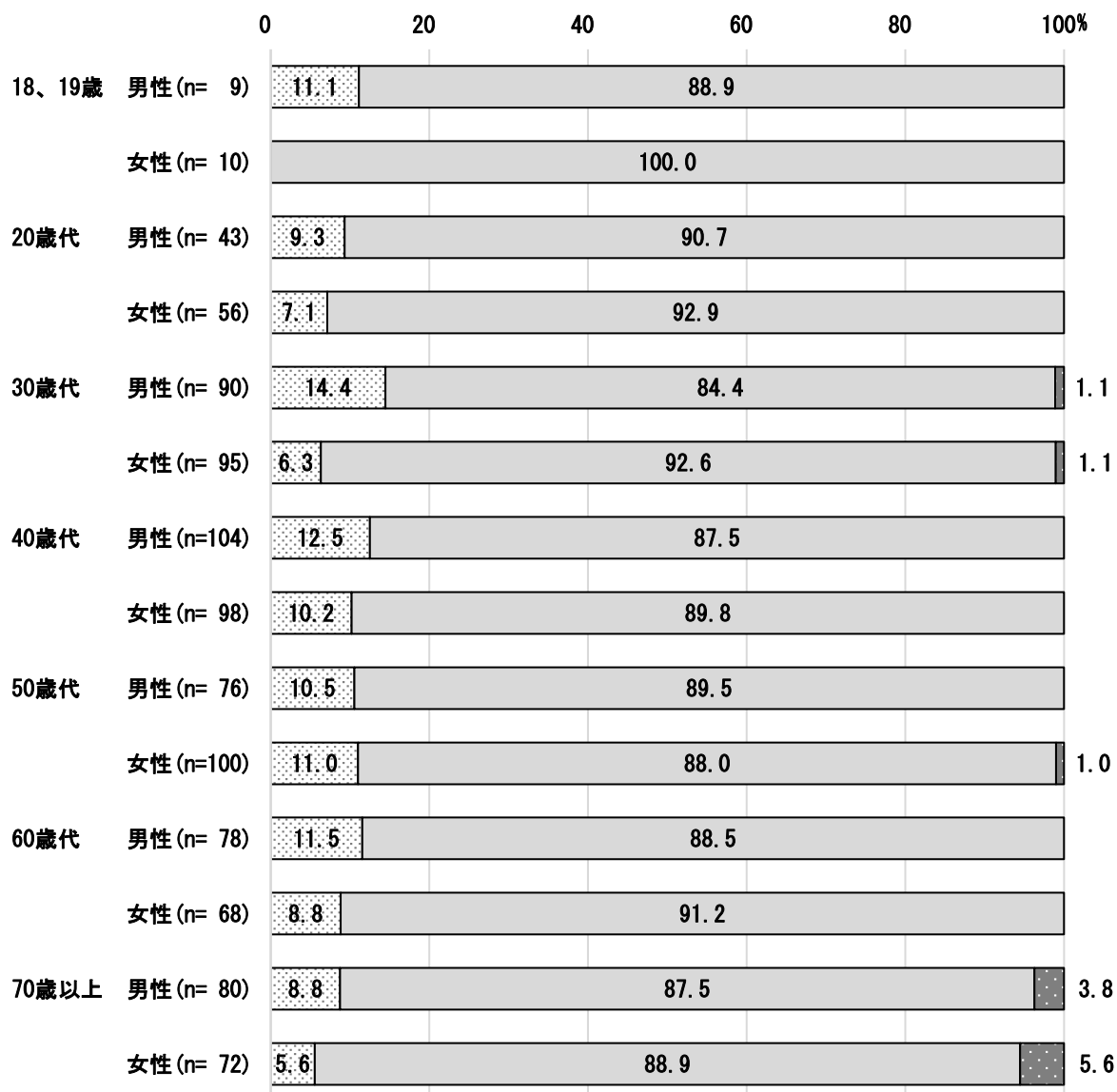
令和元年度と比較して「知っている」は、全体で17.7ポイント、男性が18.5ポイント、女性が16.7ポイントそれぞれ上昇し、性的マイノリティ（LGBT）の認知率は上がっている。

問 2 2 倉敷市が性的マイノリティに対する取り組みを行っていることを知っていますか。

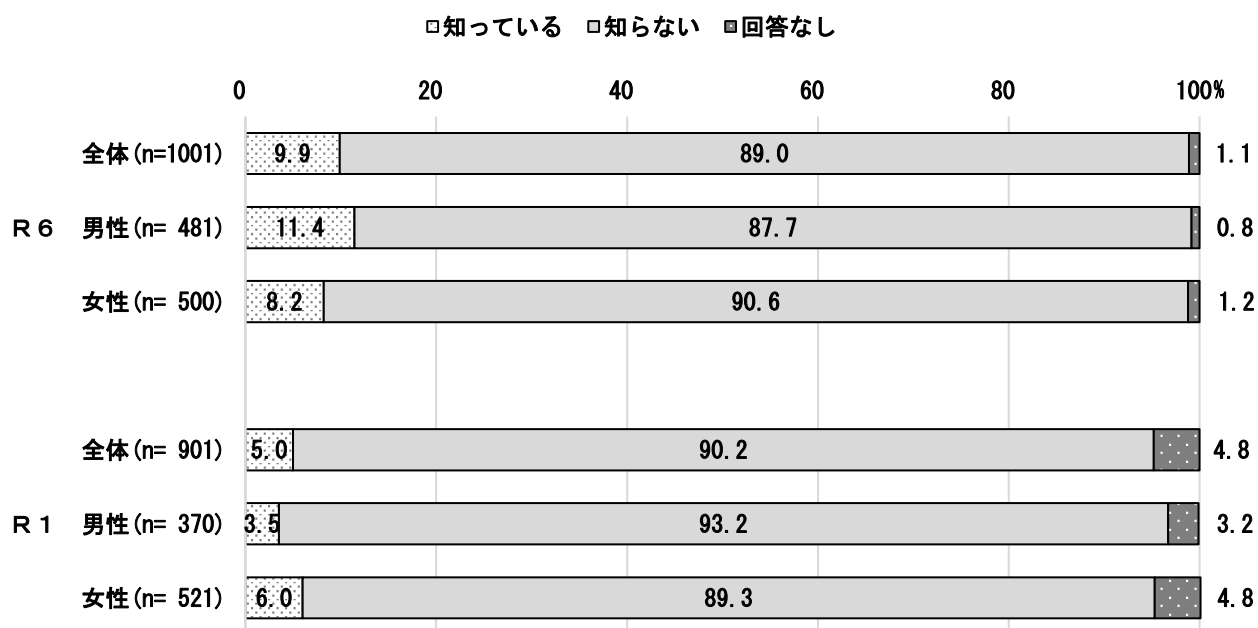
全体【グラフ 22-1】



年代別【グラフ 22-2】



前回調査との比較【グラフ 22-3】



＝ 倉敷市の性的マイノリティに対する取り組みを知っていると回答した人は約5ポイント増加 ＝

全体では「知っている」が9.9%、「知らない」が89.0%であった。

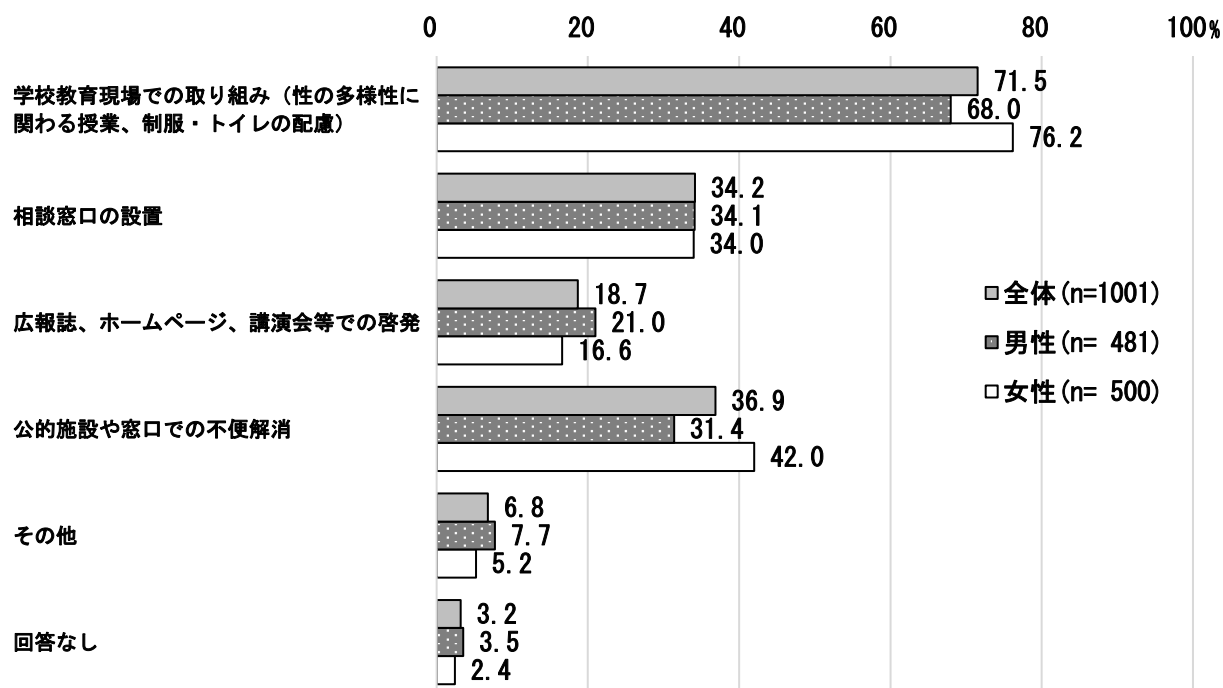
男女別では男性11.4%、女性8.2%と女性の方が認知率が低かった。

年代別ではどの年代の認知も1割前後と低かった。

令和元年度と比較して「知っている」が全体で4.9ポイント、男性が7.9ポイント、女性が2.2ポイントそれぞれ増加している。

問 2 3 性的マイノリティの人権を守るため、どのような取り組みが必要だと思いますか。
次の中からあなたの考えに近いものをすべて選んでください。

全体【グラフ 23-1】

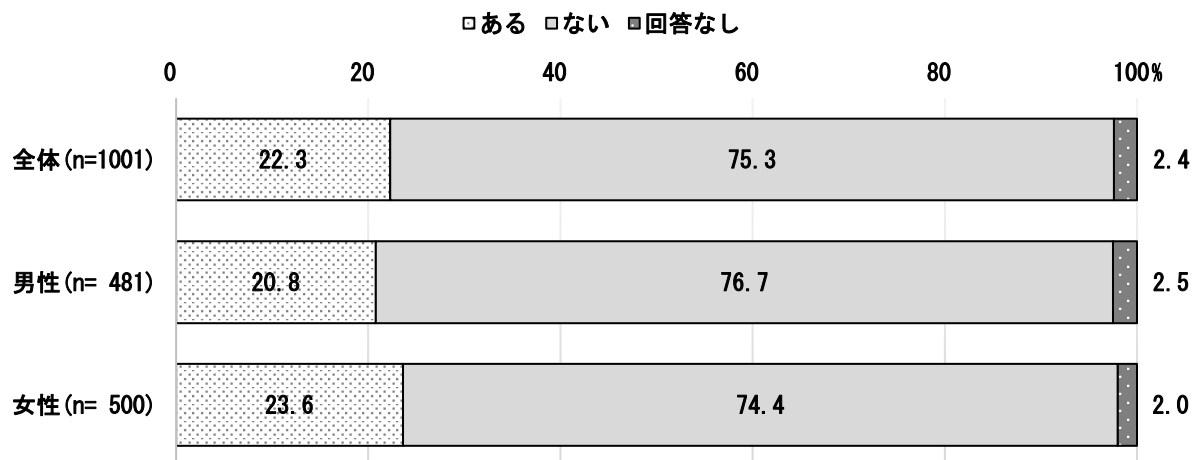


＝ 「学校教育現場での取り組み」「公的施設や窓口での不便解消」への取り組みが必要だと考えている人が多い ＝

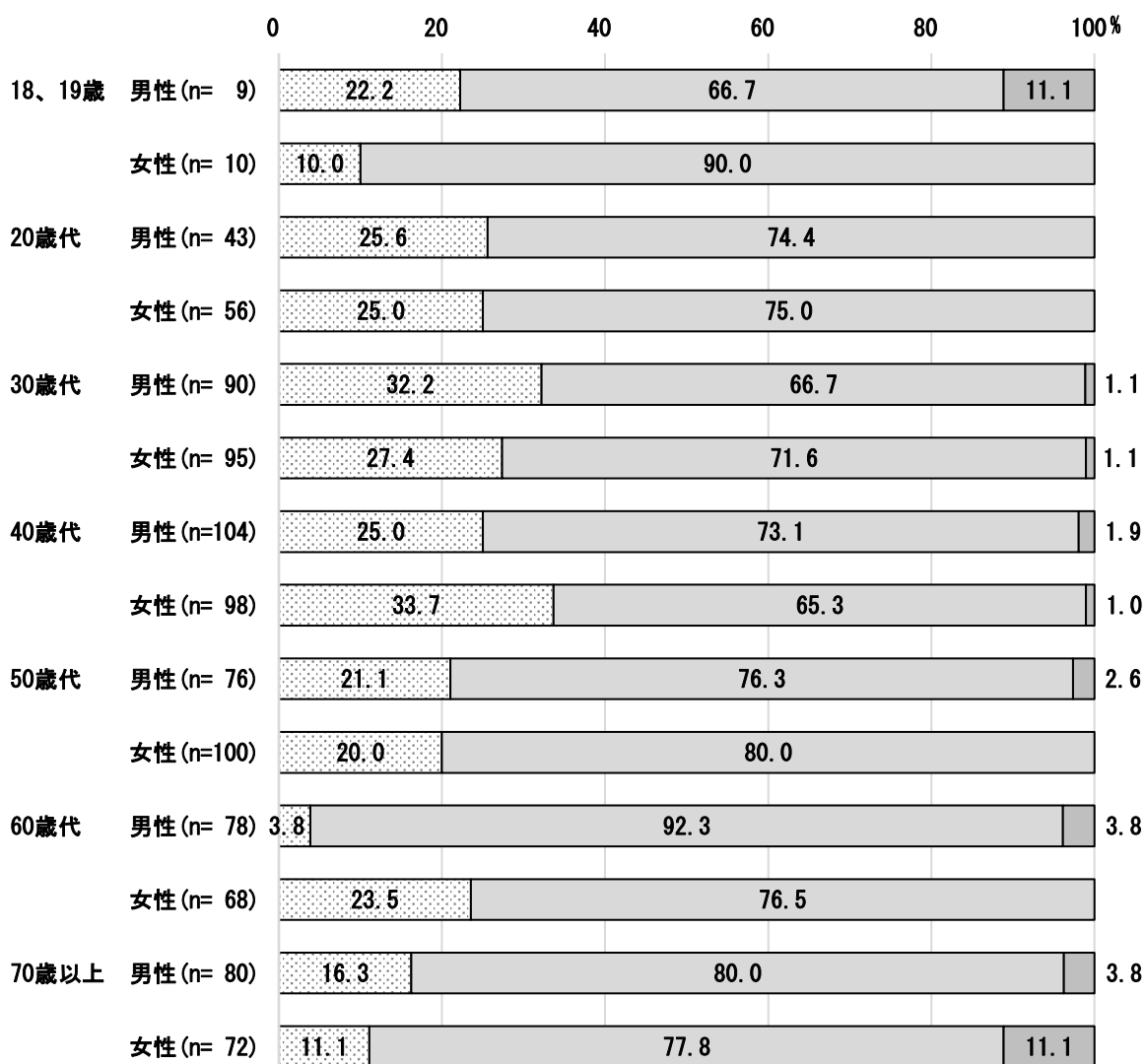
「学校教育現場での取り組み（性の多様性に関わる授業、制服・トイレの配慮）」が最多で71.5%、順に「公的施設や窓口での不便解消」の36.9%、「相談窓口の設置」の34.2%、「広報誌、ホームページ、講演等での啓発」の18.7%と続いている。

問 2 4 自身が男性であることや女性であることに「責任」や「つらさ」を感じることはありますか。

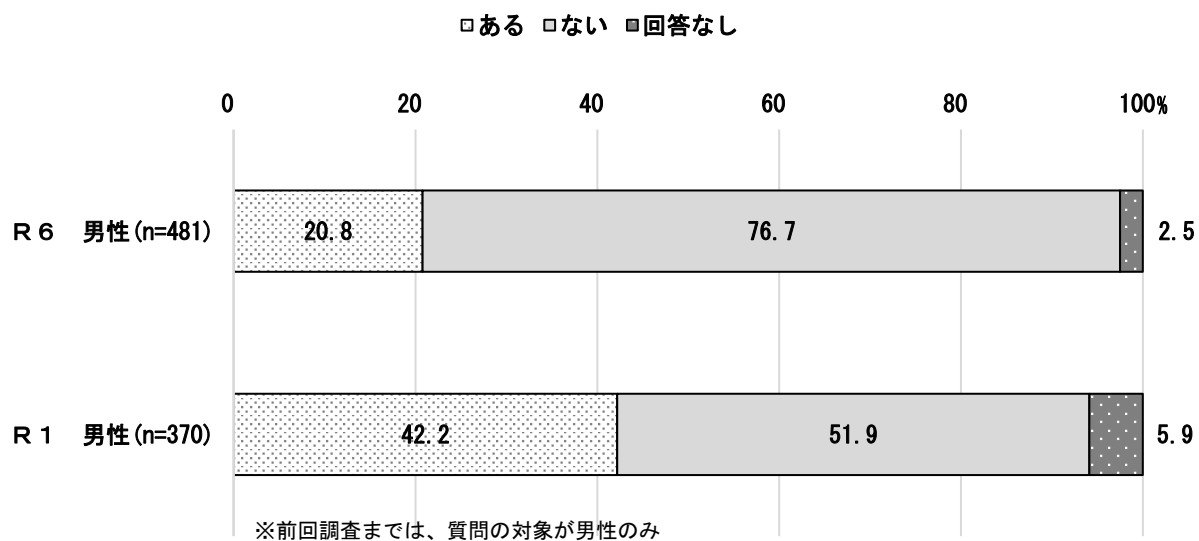
全体【グラフ 24-1】



年代別【グラフ 24-2】



前回調査との比較【グラフ24-3】



＝ 男性、女性ともに約2割が責任やつらさを感じることもある ＝

全体では「ある」が22.3%、「ない」が75.3%となっている。男性の「ある」は20.8%、女性の「ある」は23.6%となっている。

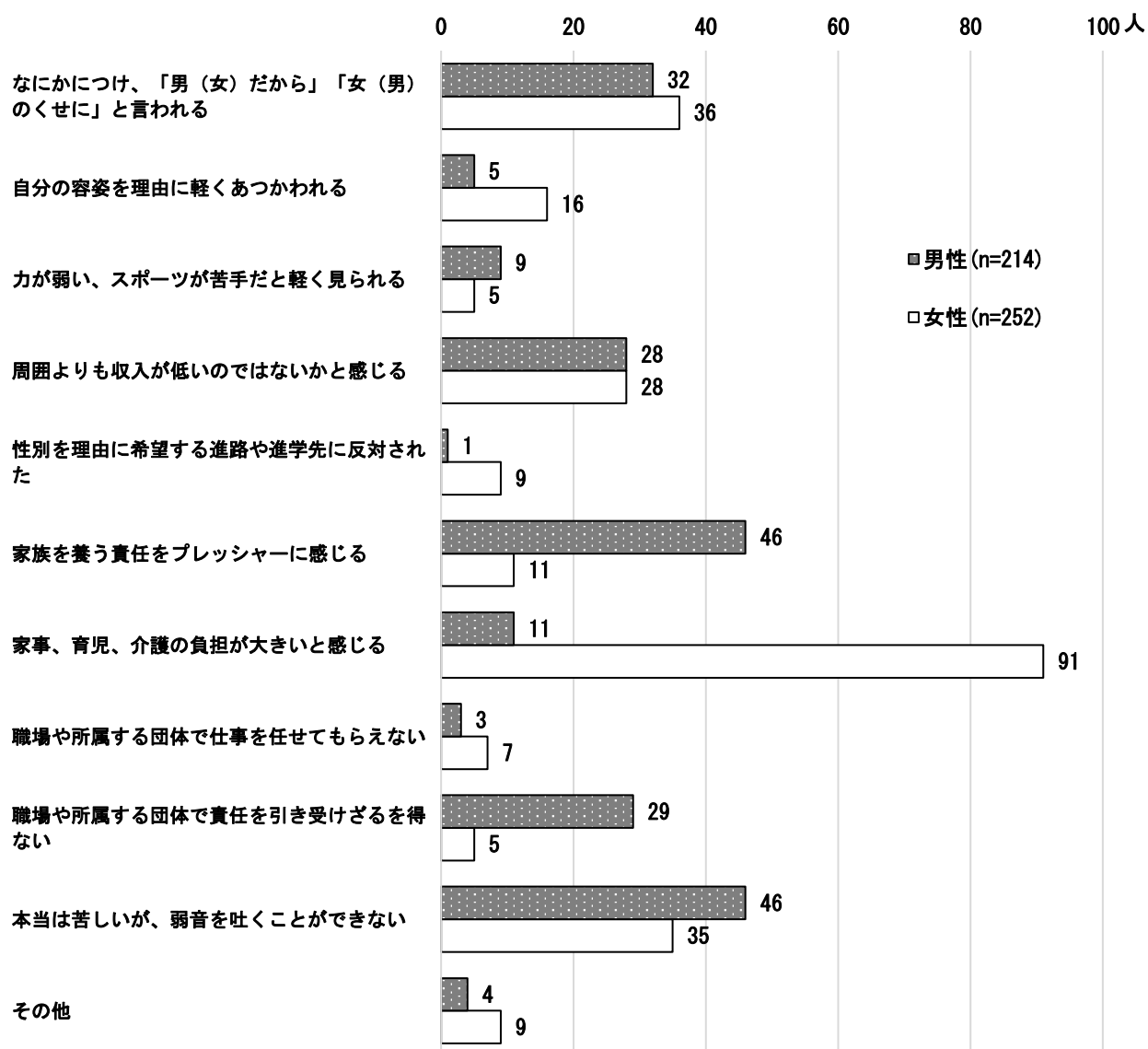
年代別では「ある」が40歳代女性33.7%、30歳代男性32.2%と3割を超えている。どの年代も「ある」より「ない」が高い結果となっている。

令和元年度と比較して、男性は「責任」や「つらさ」を感じることがないと回答した人が24.8ポイント増加し、感じるがあると回答した人が21.4ポイント減っている。

問24で「1ある」を選んだ方におたずねします。

問25 そう感じる理由について、次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

全体【グラフ25-1】



＝ 男性は「家族を養う責任をプレッシャーに感じる」「本当は苦しいが、弱音を吐くことができない」、女性は「家事・育児・介護の負担が大きいと感じる」が最も多い ＝

男性では「家族を養う責任をプレッシャーに感じる」と「本当は苦しいが、弱音を吐くことができない」が46人と最も多く、次に「なにかにつけ、『男（女）だから』『女（男）のくせに』と言われる」が32人となっている。女性では「家事・育児・介護の負担が大きいと感じる」が91人と多く、次に「なにかにつけ、『男（女）だから』『女（男）のくせに』と言われる」が36人、「本当は苦しいが、弱音を吐くことができない」が35人となっている。

自由意見

「自由意見」及び「市民の方にしていただけること」に延べ 309 人の方からご意見をいただきましたので紹介します。(明らかな誤字、脱字を除き、記入された内容をそのまま掲載している。)

男女平等・ジェンダー・性的マイノリティ

- ◇昨今は東工大や京都大など日本最高峰の国公立大学での女子枠が増えています。実力で入れる女子には女子枠は不要ですし、女子枠は実力的に不合格レベルの層でもその大学に合格できることになります。実力の一般枠で入った女子にとっては女子全体を低く見られることになり、女子枠は迷惑です。
- ◇パリオリンピックで発生した性別の問題等ははっきりしないことが多い。誰もがいきいきと暮らせる為には、一般的に上級国民とかいわれる様な人に対する態度、政治家の裏金など、不可思議な事をなくす事。平等な世界を造って欲しい。
- ◇若い人達に、男女平等があたりまえになっていますが、私たち高齢者は、まだまだ女性差別があたりまえ、家事・育児・介護すべて女性の仕事です。息子は嫁にやさしく、家事・育児は二人の仕事と言っています。
- ◇男性にしかできないこともあり、逆に女性にしかできないこともある。互いができることを平等にすることが必要。
- ◇女性は結婚・出産・育児により、仕事の第一線から退かないといけない時期がある（自分もそうだった）。そのため仕事に復帰しても収入は少ない。収入の少なさにより、家庭へのモチベーションも下がる。女性にとって、バランスの良い働き方があればいいのにといつも思っています。
- ◇制度が変わって初めて人々の意識も変わる。選択的夫婦別姓、クォーター制の導入、同性婚（パートナーシップ）等の導入を一日も早く実現してほしい。
- ◇昔は、家事・育児・草取り等全般的なことを女が全部しなければいけないと言う考え方が有りましたが、今の時代は男性も協力、助け合って生活する社会になりつつあると若い夫婦を見ていて感じます。人なみに生活していく為にお金が必要となる時代で、女性の社会進出もあたりまえになりつつあるので男性も家のことをする分担制に賛成します。
- ◇非正規社員をなくし、正規社員として働ければ経済的に安定してくらしていけるのではないかと思います。町内の役員をしてわかりましたが上にいけばいくほど男性がしています。女性をもっと登用して意見がのべれるようにしてほしい。
- ◇それは難しいと思います。この世に「性別」がある時点で。
- ◇年齢が上がるほど性別における固定概念にとらわれがちだが、最近の若い人達の言動を見ると多様性に柔軟に対応していると思うことが多い。とても良いことだと思う。きっと教育の成果だと思うので大事なことで続けて欲しい。
- ◇日本は先進国の中でも、アジアの中でも、男女格差について低レベルである。政治、会社、家庭の中で女性の地位が低く、中枢に参加できていないため、女性の意見が反映されていない。男女が平等な人権を持っており、人々が皆、その人らしさを生かせる社会であって欲しい。社会全体の意識を変える啓発や教育が必要である。

- ◇男女で同じ仕事に就いている場合で、賃金・待遇に差が生じるのは違うと思うが、適性の有無を無視し、差別として騒ぐのは尚違うと考える。ケースバイケースによりバランスを取る事が必要と思う。
- ◇性別は持って生まれたものだと思うので。それが男・女に関わらずその個々を社会が否定あしない（肯定を必ずしも要もしない）特に考え方の古い方への感受性の認識改革かつ若年層も寄り添うべき
- ◇性別による制限をなくす。雇用の増加や賃金の見直し。ワーク・ライフ・バランスを前向きに考えられるような資源を確保する。
- ◇女性とか男性とかを意識することなく、女性ではできない事、男性ではできない事も多数ある。罰則の範囲をゆるめる様な政策も必要と思う。
- ◇男女平等平等と叫んでも日本の歴史を見ても戦後から・・・女性が社会で責任をもつことは否定はしないが少子化につながっているのでは???
- ◇子供の頃からの教育や両親の考え育て方ではないでしょうか？
- ◇学校における男女平等教育の強化
- ◇多様性に対する寛大さが必要
- ◇自分の子どものときと比べても、確実に男女平等の意識は高まってきていると思う。特に今の子どもたちは大人よりも柔軟な考えを持っています。性別に関係なくお互い助け合って仕事や家事・子育て・介護などができる社会になるといいなと思います。
- ◇がんばっていきましょう
- ◇法的処置の強化（特に SNS 等によるもの）、学校等での教育は必須になると思います。
- ◇倉敷市は住み易い市だと思っていますが、どうしても昔からの考え方にとらわれすぎたり、古い慣習に疑問も持たず今にいたる所が多くあるように思います。性別の事も教育現場でどれだけ子供達が理解できるのか？家庭で性別やマイノリティーの方々をきちんと尊重しながら親や祖父母の世代が話し合えているのか？いろんな人がいていろんな生き方があって、それぞれが尊重されなければならないと子供達には伝えて行きたいです。市としては、マイノリティーの方と子供達が触れ合えたりする場を提供していくことや何より大人がきちんと理解していくことが大切だと思います。
- ◇まずは「男女共同参画」というところを何を目的として活動しているかなどアピールしてもよいかもです。知らなかったです。
- ◇男女平等に家事・育児・介護に取り組む意識を持つ様に教育を充実する。積極的に家事等に参加する様に働いかける。セミナー、研修会を充実する。
- ◇男女平等な社会づくりがいきいきと暮らせると思います。
- ◇教育が重要だと思う。
- ◇子供がかよっていた幼稚園の PTA 会長は男性役員から選出となっていたので、これからの時代男女は関係なく選出するほうが良いのではないかと提案したところ、PTA の活動で小中学校や地域の集まりに行くと「女は男の決めたことにしたが、はいと言うだけで良い」という年配の男性が多いため会長を男性にしているということだった。子供への教育も大切だが、時代錯誤も甚だしい年配の男性、女性の意識改革が必要。とくに中心部から外れた田舎はそう感じる。

◇更なる啓発活動の充実

◇女性が出産や育児で働けないというのなら、それを仕事として給料を払うようにすれば、出産や育児は女性の仕事、女性しか出来ない事として、男性からの差別的な意識が改まるのでは？そもそも性差がある時点で平等などありえない。

◇若者よりも年配者の意識を変える為の活動を倉敷市には期待しています。

◇家庭や職場において、まだまだ男性優位と感じます。私は70代ですからもう仕方ないと思いますが若い方は男だから女だからと言う考え方をなくす方向の教育は絶対に必要な事だと思います。

◇トイレに男用と女用を分ける必要なし。特にコンビニに女性用トイレがあるのは理解しがたい。

◇男性は男性しにしかできないこと、女性は女性にしかできないことをお互いが認め合い尊重して生活することが大切だと思う。(一部の人を除いて)

◇男女平等は概ね達成していると思うので、これからもっと差別はなくなっていくと思う。

◇この問題は年齢が高い人の方がなかなかすぐには考えが変えられないような気がする。社会を変えるには小学生からの教育が重要だと思います。

◇以前に比べると理解は深まっているように感じますが年代によっては性別を重視している方も居られるなどと思います。やはり幼い頃からの環境が大切なのではと思います。幼い頃性別にこだわらない環境の中で育っていれば大きくなっていろんな状況をそれぞれ個人の自由、いろんな考え方やいろんな人がいるということをずっと受け入れられるのではと思います。

◇性的マイノリティをお持ちの方とそうでない方、どちらか一方がマイノリティや性別についての理解を持つのではなく、お互いがお互いの特性を理解していけばいきいきと暮らしていけるのではないかと思います。「男だから稼ぐ、女だから家事する」というような固定概念を変えていけるような制度や取り組みが増えていけばより良い社会づくりが行えるのではないかと考えます。

◇LGBT 法案大反対

◇性別役割分担に関する固定概念や偏見がなくなるよう、行政職員や地域住民への啓発強化。性別に基づく差別を禁止する法律の実効性ある運用。女性や性的マイノリティの人たちの就業状況などに関するデータを取得し、それぞれが働きやすい環境を整備すること、またエビデンスに基づいた政策の立案。男女共同参画や性的マイノリティの為の施策が予算不足によって中断されないよう、中長期的な視点に立った計画を策定し、評価・改善のサイクルを確率させ、継続的に取り組んでいくこと等が必要と考えます。

◇男はこうあるべき、女はこうあるべきという決めつけをやめてその人らしさを尊重する柔軟性が必要では？

◇互いに歩み寄る気持ちが必要だと思います。どちらかが「自分のことを分かって」と訴えても相手にも考えや心があるので、それをまず知ることが大切かなと。あとは年代によって考え方がずいぶん違ってくると思います。時代錯誤と思われるかねないしきたり・行事見直すべきかと思っています。

◇これは男性のする仕事、女性のする仕事と決めつけず共に気づいた人が率先して(家庭・職場)でできる社会にあると気持ちが楽になれる

- ◇性別ではなく一個性として自身の能力を発揮できるとして認めてもらえる環境や場所がある事はそれだけでも心強く前に進んでいける気持ちになる。もしその様な環境があるのに周知されていないのなら、少しでも多くの人に情報発信し周知されていけばいつかその環境が常識・定着するのではと思う。
- ◇子ども達への教育も大事ですが、親や高齢の方向けのイベントやCMがあると少しは変わるのかなと思います
- ◇特別に力を入れる事はなし、自然に進んで行けば良い
- ◇制度的な男女の差を無くすべきだと思う。片方の性別にだけある休暇制度があれば無い方を企業は多く雇用したがると思う。また片方にだけ総合職での仕事が可能なものどうかと思う。教育も大事だが制度的な取り扱いの差異から慣習が生まれ、それが意識につながっていると思う。
- ◇男性でも親の介護と仕事を両立させる努力をしている市民に対して公的な住居への緩和措置を取ってほしい
- ◇100%性別にかかわらずというのは難しいと思います。個人個人に適性があるように男女という大きなくくりでも向き不向きがあると思っているため、分けるべきところ、分けるべきではないところと考えた上で皆がいきいきと暮らせる社会へと繋がるのではないのでしょうか
- ◇性別による向き不向きはあるので全てにおいて男女平等が正しいとは思わない。男女、気質の特性を考慮した社会づくりが必要である。
- ◇まず男・女の区別で人権どうのこうのと言うのはやめればいい。一部のフェミニスト（声が大き）の声を聞きすぎ、既に女性の権利が優先されて生きにくい。普通にすればいいのに公がわざわざやる事はない
- ◇男女平等と言いながら企業、政治、公的機関等においては未だ男性が優位な立場であるような気がする。能力のある女性はたくさんいることを社会全体で認識してほしいです。
- ◇学校である程度、男女が平等に学べるのに対して職場・地域での男女差・給料等の対隔差が大きすぎる。それが家庭にも持ち込まれるので、女に生まれて良かったなあと思ったことは今まで生きてきてなかったように思います。
- ◇結婚して共に働くのは、たすけあう事なので良いと思います。子供が出来て男の人が子育てに参加する事も女性が男性なみに働くのも良いと思います。でも子供を抱きしめる母親、お金を稼ぎひっしに家族のために働く姿は子供達の未来を力強くする事だと思います。守る事とはなんなのかもう一度みんなで考えていけたらと思いました。母親のおかえりの言葉、父親の仕事への情熱、一つ一つが良き日本と心と日本をまもる軸をつくるのかもしれませんが。
- ◇LGBTの人がすごしやすくなる為の出会いの場を増やす
- ◇LGBT 法案が十分審議を経ないまま、なぜ今成立したのか、だれがどのような社会を目指しているのか、米国のエマニエル大使が岸田氏に圧力をかけたのか？
- ◇男は男らしく、女は女らしく
- ◇ほぼ達成出来ていると思いますが、人の思想までは変える事は難しいので、現状が最大限かな？ただこのまま連動しつづける事は大切だと思います。

- ◇男尊女卑など差別的な考えを持っている人がまだ多いと思うので考え方を改めるような啓発をもっとやっていった方が良くともいます。(前職場でそういう考えを持った人が中高年で多かった)
- ◇女性の社会参加できれば政治参加、男らしさ女らしさを捨て個人を尊重する、学校教育に積極的に取り入れる。
- ◇学校での性差の教育を進める。介護職の方の給料を見直し、仕事を細分化して若い人も働きやすくする(特に男性の力が必要)
- ◇男性はやはり力が強い、女性は子供を産むことができる等、性別ごとでのちがいは受けとめる必要がある。なんでも性別にかかわらないで生きることはいかなるか、会社の上司や社会において上の立場にある方に理解が必要
- ◇50代の意見です。料理、掃除、洗濯などは女性がするものだと思っている男性が多いと思います。共働きなら稼ぎに関係なく男性も担当すべきだし、家事や子育ての負担は女性の方が圧倒的に大きいと思います。しかし男女平等をはき違えてはなりません。男女では身体の違いがあり、男性がした方が良い仕事、女性がした方が良い仕事等、向き不向きは確実に存在します(力仕事などは男性の方が適しています)。男女の身体的能力を鑑み、できない時はお互いの力を借りる、お互いを尊重しながらの男女平等としなければなりません(ただ、家事が女性向だとは思いません。身体的能力とは関係ありませんので。)
- ◇子どもたちは理解出来ていると思います。親世代(40才以上)の考え方、価値観の変化が大事かと。ドラマでもありましたが、アップデート出来るよう努めないといけないなと思います。
- ◇性別的役割分担をなくす事
- ◇「男は仕事、女は家庭」のような性別で形作られている考え方を根絶させる。
- ◇固定概念を少しずつでも改めていけるような啓発を続けていくしかないのかなと思う。
- ◇理解する人が増えていけば良くなっていくと思います。啓発や勉強会など大事と思われます
- ◇上手く言えませんが、できることを地道にやっていくしかないのではと思います
- ◇皆が理解出来る様どうすれば良いか考えなければならない。講演会もおもしろい、わかりやすい、行ってみたいと思える様な会を開いてほしい
- ◇家庭内における「母」や「妻」が幸せや明るいそれは家族全員にとっても同じ影響を与えることとなる。母が働かねば生活していけない時代となった今、男性と女性が本当の意味で平等というのはどうしても難しいと感じる。
- ◇難しいことは書けないので申し訳ありません。ただ私の経験からです恐縮です。過去に私は街コンに参加したりマッチングアプリをやってみたりしたことがあるのですが、男性は高い利用料金を支払わされ女性は利用料無料だったことがあります。今はどうなのか知りませんが、「これは差別的じゃない？」って思ってしまいました。これでは女性はいきいきしても男性はうつ状態になってしまいます。アンバランスではないでしょうか？
- ◇体のつくりが違うため、差別と区別は曖昧にしてはいけないと思っています。大企業では研修を通し様々なことを学びますが、中小企業においては全くといっていいほど浸透

していません。私自身の経験から「男性女性」の意識は年代によっても大きく違うと思います。私が家を建てた際、隣の今の90代のクソジジイから「女のくせに家を建てやがって」と言われ、相当な嫌がらせをうけました。高齢者の感覚はかわるものではないと思っています。どのタイミングで男女平等を実現するのかというのを見据えることも必要ではないでしょうか？また男女差をなくしていくというのは将来的には個人として考えていかなければいけないと思います。差別と区別を明確にしなければ言ったもん勝ちで收拾がつかなくなるのではないのでしょうか

◇もう少し知識が欲しい。学習するきっかけが増えるといいな。

◇自分がやりたいと思う夢が、性別などに関わらず、叶えられる環境であって欲しい。

◇高齢者がLGBTのことや日本で働く外国人への意識を変革させるような取り組みを行わなければならないと思う。若い世代は多くの人が教育により、理解していると考えます。

◇電車で女性専用車両を作る、コンビニで女性専用トイレをつくるなど、それこそ意味がわからない。男女平等と謳って取り組んでいるが、これは果たして男女平等なのか？そういうのを作るから、皆はより意識するようになるのでないか。平等という意味を考え直した方が良い。

◇とくになし

◇仕事や能力において男女平等政策は賛成だが、一方で身体的な男女による体力差や女子特有の生理期間への配慮は肉体の構造からして男女平等ではないので十分な配慮が必要に思う。また、職場でのパワハラ・ロジハラ等の対策は進んでいるが、感情的な同調圧力（エモハラ）に対する取り組みもぜひ行ってほしい。ここが軽視されていると思う。例として、誰かが残業していると、ほかの社員が帰ろうとすることに対して非難的な態度をとり同情的な共感を強要してくるなど。あと、飲み会参加の暗黙の強要など。（あくまで例です）

◇倉敷市は田舎なので、男性優位の考え方の昭和生まれの方達が生存している間は男女差別は絶対なくならないと思います。その考えが間違っているとは思っていないからです。今後の未来を担う子ども達は柔軟な多様性の考えを持っているので、これからに期待したいですし、そのように子育てしようと思います。

◇性別で悩んだことがなくまわりにもいないので意見は書けません

◇男女平等の言葉が一人歩きして問題の本質が共有できていないように思う。主にメディアの発信が偏向していて「弱者」を作り上げてノイジーマイノリティ化させている印象。果たして本当に全員が望んでいるのか？制度という受け皿は必要であるが、腫れ物扱いしてはいけない。その上で仕事は能力（職種によっては容姿、体型、体格もその一つ）で適材を適所に活かし、スポーツや趣味は他者と競うことを望むなら医学的性別で分けるべきと考える。収入や子育て、介護の負担格差は立場によって関心や考え方、求める解決方法が異なるため、全ての人に平等に問題提起と情報の発信に努めてほしい。

◇若い方は学校で教育を受けているので、フラットな感覚だが、社会に出たら性差があるのでギャップを感じて不満が募るのでは。昭和世代は性差があることが当たり前になっているので疑問にも思わない。企業にペナルティを課すなど強制的にしなければ変わらないと思う。

◇生物学的区分と精神的区分の両面から性別についての取り決め、配慮を行うべきだと思う。

◇表面上は男女平等と謳っているが、心の根底には差別化がまだ根付いている現状もあるので、撲滅は非常に難しい部分がある。これから産まれてくる世代や現代の教育の義務がある世代からしっかり取り組む必要があるのではないと思う。

◇特に思いつかない

◇教育場での学生への正しい教育の実施、多様性の社会に変わりつつあることを職場での学ぶ機会を設ける

◇男性が家事や育児を分担できるような働き方が普及することは大前提だが、その結果時間に余裕ができた男性が家事育児をしているとは限らない。女性がどのような家事をしているかを具体的に提示したり、男性に家事育児参加の意義を啓発する研修会を職場で開くなどの活動を、働き方改革と並行して実施する必要がある。一方、女性は生物学的に出産育児の負担が大きいので、出産前後の数年間はどうしても仕事にブランクが発生する。そのため営利を求める一般的な職場では責任ある仕事ができないこと、それが男女の収入格差に繋がることは女性の私からみても当然である。ただそれが家庭内のパワーバランスに繋げる考え方は出産が女性にとって大きなデメリットとなってしまうため問題だと思う。男女平等を目指すには、子供への家庭内の教育が一番大切であり男性の家事育児参加や生物学的役割はあっても男女平等であることを教える必要があると思う。そのことが少子化対策に繋がることを期待したい。

◇男女の性別があることは事実なので、その特性を活かしながら個人を尊重し、お互いを認め合うことが大切だと考える。幼児期頃からの教育が重要と思うが家庭環境の影響は大きいと思う。

◇女性にしか出産ができないということがある以上、社会的に男女が全く平等となるのは不可能だと思うし、それを女性が完全に望んでいるとは限らない。周りに、仕事よりも家庭で子育て、専業主婦として生きることを望んでいる女性も多くいるように感じる。それぞれが自分の望む生き方ができるように、サポートできるシステムを市には取り組んでもらいたい。特に、企業の労働環境の改善、賃上げが今最も必要な事だと思う。しかしながら、市としてできることにも限界があると思うので、問題を抱える人、困っている人にできるだけ寄り添ったサポートをお願いしたい。

◇互いに相手を尊重すること、そして自分のことも大切にすることを私達大人が実践し、子ども達にも身をもって伝えていくことが責務だと思っている。

◇無理だと思います

◇女性平等を掲げるのはいいが、女性は家庭の妥協はしない。仕事まで男女平等に扱われると、単に負担増。ストレスは家庭に降りかかり離婚率の増加となる。人によってはそれまでだが、責任感はより自分に近いほど、感じるものと思う。平等と言いながら、男女の配慮は必ず必要。これは周りや自分を見ての現状。仕事の内容で大きく変わると思う。

◇法律、公的な制度において、男性、もしくは女性の片方の性に明らかな優遇が認められるものはすぐに改正すべき。改正しないということは、国家として性的分業制を暗黙のうちに認めていることになる。慣習やしきたりを優先してこれらの法律や制度を変えないということは、国として本気で取り組む気がないと受け止められる。一方で、男性と女性の違いを認めることも重要。何でもかんでも全て男女平等が良いわけではない。それぞれの性に合った生活をできる、暮らしを実現できるようにすることが重要。

◇アンケートを通じて啓発という言葉が大変多かったように思います。生活をしている限

り啓発活動による効果は限定的に感じます。倉敷市としての取り組みには限界があり県や国単位で取り組んでいくべき問題だと思いますが、賃金の向上や休暇の取得促進などを実現して真のワークライフバランスが整った国になることを願います。

◇男女平等といいながら、女性も男性にたよっている面があると思う。女性が、はっきりと自分の意見を言えるような社会になってほしい。

◇会社、学校、地域それぞれのトップの意識によって時代錯誤なやり方は昔のまま。女性は男女共同のいいところ取りをされ理不尽な扱いをされていると感じる。徐々に改善はされているけれど、少しずつである。

◇それぞれの個性を尊重し、良さを認め会える風土を醸成していくことが出来れば良いのだと思う。そういった考え方を育む土壌を地域や家庭で作っていける環境を整えることが重要なのだと思う。その為には生活に余裕のできるような労働量、労働時間、給与所得が必要なのだと思う。在宅勤務もコロナ禍で普及したが、出勤回帰も進んでいるが、手軽にシェアスペースを利用することで、通勤時間は短縮出来るのではないかと思う。出来ればそういった施設を無料で利用できると良いと思う。空きテナント等利用してなんとかするのはとも思う

◇LGBTQ について固定概念や理解が難しいこともまだあるが、少しでも理解してもらうために最初に LGBTQ について知ることが大切であると思う。

◇LGBTQ を理解出来ていない人が多い。昭和世代の祖父母にあたる方々は LGBTQ に関していいイメージを持っていない人が多いので偏見を無くすためにまだまだ啓発していく必要がある。

◇相手を否定しない、性別を気にしない、過剰に対応する事に違和感を覚える、ありのまま、性別で区別する事に違和感を感じる。性別は必要？いち個人として考えれば性別なんて関係無いと思う

◇無理だと思う。昔の考えが根強いし、良い事だけ言って結局何も変わらない、変えようとしな。男女平等って言い始めて何年も経つのにこの状況…。今後も変わるとは思いません。

◇現状として相手との親密さで性別に対する概念が変わり、関係が希薄であるほど、性別は気にしないし、関係が深いほど、「あなたは男性（女性）」であることに安心感を抱くのだと思う。固定概念を崩すには、相当の発信をして理解してもらわないといけないが、おそらく理解してもらわないといけない年代がこれまでの固定概念にこだわるため難しいと思う。若い世代が管理職の年代になった時代から、今より平等性が広がると思う。

◇性的マイノリティの方の人権を守るのも大事かも知れないが、温泉など裸になる機会のある公共施設などでは、体の性別で分けるなどして犯罪行為の抑止が必須となると思う。性的マイノリティの方ばかりを気にかけて、男性或いは女性を蔑ろにしたのでは本末転倒。

◇様々な地位、役職、責務に、女性が多く属することで、女性でも出来る可能性を、世間にみせる。幼少期から、男女関係なく、接することを当たり前にしていく。性教育も必要だが、出産・育児教育もあっていいのでは。オリンピックでも最近あらゆる種目にできてきたが、【混合】的なものが増えていくと、男女のペアでの作業・評価をしていく。男・女単独だと、力的なものは肉体的なものに差がでてしましますが、混合になると、公平になる。

◇性別に関わらず、個々の個性や考え方を示すことを、受け入れることができる社会の実現ができればと思います。性的マイノリティーを受け入れることができない人もいるはずで、そういった人をも否定せず、いろいろな考え方を持った人々が、ストレスなく共存できるのが、理想です。受け入れることができないことが、正しくないとは言えないと思うので。また、LGBTを尊重するあまり、それを悪用して、例えば悪意を持って男性が女性トイレを利用するなどの犯罪に繋がらないような取り組みも必要です。男性だからできる、女性だからできる役割もあるはずです。何でもかんでも平等にというのは、違和感があることを申し添えます。

◇人は各人の価値観で生きている。L B G Tだからではなくて生きている人達の各人の価値観を認めてあげることが必要だと思う。その価値観と自分の価値観が合えばいいし合わなければダメだと思う。お互いが尊重出来る考え方になればとても良いと思う。

◇リハビリ専門職として働いています。普段男女での働き方の違いを感じることはありませんが、特に重たい患者さんは男性スタッフ、男性が怖い患者さんには女性スタッフなど場面によって性別を考慮することはあります。昨今は男女平等が当然であり、少しでも違いがあると間違っていると指摘されることは多いですが、仕事においては適材適所も必要なのだと思います。また男女を平等にというのは、身長や容姿、身体能力など生まれ持ったものへの差別はいいのだろうかと考えてしまいます。マスメディアでもそれを笑いにしてしまうことも多いです。実際に全てを平等にするのは無理があると思います。その中で差別と区別の線引きをしてバランスを取る必要があるのだと思います。

◇特にない

◇人は人。個々を尊重し合うことができる世の中になれば、男女平等とか、DVとか、LGBTとかは不毛な話となる。そうした情操教育が必要であって、過度なそれぞれに特化した話までは必要ない。法的に性転換を認めてもらった人が、やはり違っていたから元の性に戻したいと苦しんでいる人に会ったことがある。マスコミや行政が騒ぎ立てて、こうした勘違いを起こさせないことが大切である。

◇性差別を無くす為って名目で縛りを増やしまくって息苦しくならない程度に規約を作っ
て欲しい。平等にすることに重きを置きすぎて区別すべきラインを超えて問題が起こるのは見たくない。全ての人間の要望を満たすなんて出来ないのだからほどほどに、少数を蔑ろにしない程度を目標に、目指すべき到達点を周知して貰いたい。

◇子どもがどのような環境にいたか（養育や学校環境、学習機会）は、その子の考えに影響すると思う。色々な不平等、差別、偏見があるから、男女平等、性的マイノリティーなどが提唱されるのでしょう。小さい頃から「皆違って皆いい」とかフラットな見方ができる環境にあると、自然とそういう考え方になるのではないだろうか。そのための環境づくりを、地道にしていくことに尽きると思う。

◇誰もがいきいきと暮らしてにはお互いに男性は男性、女性は女性ということを理解するのは大事だと思います。なぜならそこには男性の感じ方、女性の感じ方はそれぞれ違う傾向があると思われるからです。そこを男女平等という言葉に載せてしまうとそれこそ男女という枠組みがわからなくなる人が増えると思います。なので例えば女性が求める男性らしさとは何か。男性が求める女性らしさとは何か。この理解があるかないかでも多少は違うと思いますし。男性とはどういう生き物なのか女性はもう生き物なのか。その上でLGBTの方々はどのような考えなのかを理解するのは大切だと思います。これは生物上、男性と女性しかいないからです。その上で精神的なものが付け加わってくるからだ

と思います。上記のことを理解すると平等な社会になりやすいと考えています。そうしないと、皆が自分の意見を通そうとする。そうするとマイノリティは窮屈な思いをするのは目に見えてしまいます。先ほども書いたのですが、LGBTの方々はそうでない方のことをどう思っているのかはすごく興味があります。LGBTに対する理解は必要です。LGBTの方々がそうでない人に対する理解はどこまであるのでしょうか？お互いがお互いのことを理解して初めて話し合いのもとに平等に近づけると思いました。LGBTでない人が多数な社会ゆえにその人々だけに理解を求めて社会が平等になるのであればここまで問題視されてないはずです。互いが互いを理解して互いに配慮することにより事実上、平等が来るのかなと思っています。配慮すると言ってるので抑えろ、ということではないです。したがっていきいきとできる社会にはまだまだ両者とも理解が足りないのだと思いました。

◇多様性を理解し、お互いに相手を尊重すること。多様性や平等を履違えないこと。

◇私の周りには昔からLGBTの方が居る環境で育って来た為、その方達がイヤとか不快とかそんな感情は無く、一人の人間として対応してきた為、逆にイヤとか不快に感じる方や露骨に嫌な顔をされる方が居ますが、何がイヤなのか？何が不快なのか？聞きたいです。十人十色気持ちに素直に生きて行くのが一番イキイキでき、充実した生活が送れると思います。

◇子どもの小学校については、男女格差やLGBTについて教育が充実していると感じます。逆に大人については、企業などはまだまだ慣習として男性は働き家庭を支えるものとして、家庭を持つと仕事を増やされる、などの慣習が残っている部分もある。その影響で妻に家庭や育児の負担が大きくなっている部分もあるので、企業への取組をお願いしたい。

家庭・子育て・教育・介護

◇教育の力は大きいと考える。そのためにどのようなことをいつ頃から教えていくのか学校だけではなく地域でもできることをしっかり考え、実践していくようになればよい

◇教育の充実が必要、社会的な弱い人への福祉の充実も必要と思います。

◇人間関係の大切さを友人と作る大切さ。学校で勉強以外に人間としてのコミュニケーション。運動会、学芸会、スポーツ大会行事をコロナ前にもどし今の子供に経験させる事が大切だと思う。子供の時間を大切にしたい。「めんどくさい」「大変」と言っている大人達が直さないと。今昭和時代の良さがTVでもしているし、レトロブームになってきているのは良い事です。

◇学校教育において早期から性別に関係なく生きていくための考え等をしっかり学ばせ、自分自身の個性をのばせる様な方向へ持っていけるような多様性を認める指導を行ってほしい。家族、家庭においてもそうなる様啓発をすすめてほしい。

◇学校で学べる機会はあるが、親の世代からするとまだ受け容れないことだと思うからたくさん人の目にとまるSNSでの呼びかけが大事だと思う。(絶対参加でない限り講習は人数が限られてしまう)公園でボール遊び禁止は謎すぎる。

◇子供を母親が連れていくのは当たり前だと思われているけれど父親が連れて行くと「いいお父さんね」や「子ぼん悩」と言われることに違和感を感じる。また子供を病院に連れて行く時間も遠い場所だと兄弟の下の子も連れていかないと行けなし見てもらう子供にとっても両親がいることで安心できる場所もあるので夫の会社にもわかっていただ

きたい。(有給がすぐ無くなってしまう)療育に行っている子の親、グレーゾーンの子をもつ親は大変です。

◇子供がいる立場で、もっと遊具がたくさんある公園がほしい。「危ない」といわれて遊具をなくすから子供たちは遊びから危険を学ぶことができない。

◇経済的に育児・介護の支援があればいいと思う。介護施設入居の料金が高すぎます。

◇子育て支援が不十分だと思います。他県でおこなっているさまざまな取り組みを知り、良いものを積極的に取り入れてほしいです。倉敷市が全国で一番子育て支援が充実している場所になる事を期待し続けています。

◇個人的には幼い頃からの指導者とともに学び教育機関での態勢だと思います。それには指導者、大人たちの研修が必要かと。差別はダメいじめはダメ暴力はダメ嘘・吹聴はダメされたらどんなに悲しいかを考えられる人間づくり思いやりを育てることが次世代につながっていくと思います。

◇子育て支援ばかりにかたよっている感じがします。介護の方にももう少し力をかけていただけると助かる方々がたくさんいます。

◇育児や介護中の休暇中の諸手当の充実と再雇用の充実。企業に保育施設があれば働きやすいと思う。介護や保育の場も必要ですが児童センターのような場所で高齢者と子供の施設で交流をもって自由にできる場所があればいいと思う。シングルマザーの方の応援など集まる場所、相談を気軽に出来て同じ立場にある人が集まって悩みを少しでも軽減できる場所があればいいと思う。

◇大変難しいことだと思います。親の介護のために退職。1年ほど介護したが親が他界。家族の病気の介護も同じです。多くは女性が退職される場合が多いように思います。

◇子育ての時から家庭で男女の役割でなく協働する事を学べる環境作りが大切だと思う。そこから社会へ広がると思う。家庭内で「家の手伝い」という概念をなくしてほしい。

◇家庭が明るく楽しくて毎日が充実する様に大人が見本となる事が大事で、何事も人まかせにしない。子供は大人を見ている。

◇幼児期あるいは小学生くらいの年から人と比べたり優劣などつけず個人、個性を尊重する教育を常に行うことが必要だと思います。大人になってから考えや意見など変えることは、なかなか難しいと思います。

◇仕事を辞めて専業主婦をしていると子供が幼稚園に入るまでの育児が大変で辛いことが多くあった。仕事をしていなくても保育園に預けられるようになれば心が救われる方も多いと思います。主人が仕事で帰りが遅く一人で家事、育児をしていてもっと夫婦で育児ができるといいと思う。

◇子育て、介護の一層の充実を望みます

◇学校教育が大切

◇共働きで未就学児を子育てしています。夫婦で家事分担をするように心掛けていますが、実現できていません(妻に負担ばかりかかります)。子供が体調不良になったら妻が仕事を休む、妻は職場で頭を下げる。「子持ちさま」なんて言われて生きづらそうです。一方で夫も休む時もありますが、その時は「お父さんが休んで子供を看病するなんてすごいね」って同じ理由で休むのに、この違いが社会で活躍しようとする女性のモチベーションを下げると思います。性別で判断することがなくなる社会を望みます。

- ◇LGBT のイベントや学校、地域などで女性の PMS、産後の精神的乱れなど、どうしてそうになってしまうのか、どう対処・対応すべきなのか男女ともに教育して欲しい。性教育も小学校から必要。
- ◇性別で苦しんでいる人のため、中学生でも制服がブレザーとかに変わりスラックスやスカートに選べるようになったと聞いている。女性はスカートという概念をなくした制服改革は良いことだと思います。
- ◇子育てが終わると介護がやってくる。子育てには終わりがあって先が見えるが介護は先が見えない分、心労、負担が大きい。自分が自分であり続けるために、介護を金銭負担なく利用できれば嬉しい。
- ◇育児・介護などを行う際、一緒に手伝うことはむずかしくても、主に行う人の話を聞いてあげる時間をつくるとか、一緒に手段を考えるとか、ねぎらいの言葉をかけるとか、そういう配慮がお互いに出来る関係が夫婦できずけると仕事mががんばれるし、家のこともつらさが減る気がします。それがつながると社会全体の変化になるのかなと。
- ◇保育園に1年入れず困りました。待機児童の解消に向けての取り組みを強化すべきと考えます。
- ◇待機児童問題の解決、女性労働環境の改善（子供の急な体調不良等の呼び出しの理解）
- ◇地域で子育てができる環境
- ◇産休・育休をとる人に向けては手厚いサービス制度があるが、それをカバーする人に対するフォローが全くない。カバーして仕事量、残業（賃金が発生しない時間帯）が増えているのに給料も上がらず、プライベートの時間がなくなるのは嫌だ。どちらにもフォローすることでお互い休みやすい環境になるのでは？
- ◇女性なんだから家事はしっかりできてないといけないとか、母親なんだから父親より子育てをするのは当たり前という考えがまだまだ根強く、息苦しさをを感じるし、不平等だと思います。男性が積極的に当たり前のように家事、育児ができるようになれば未婚率も減ると思いますし出生率も増えていくと思います。
- ◇子宮頸がん予防摂取は進んでいるのになぜピルやその他の薬についての授業や説明をしないのか。ピル＝避妊薬という考えがいつまでもあるのが目に見えている。女性の立場を守るならば、お金をばらまくのではなく、まずは意識の相違や誤解から解くべきである。女の子だけが月の半分は苦しんでいることをもっと世の中の男の子たちに知らせるべきだと思う。子宮頸がんワクチンだって男の子にも関係しているものなのに、外国は男の子も打たすところがあるというのに、なぜ女の子だけにパンフレットを配るのか。なぜ男の子の分は作らないのか。コストや時間の問題かもしれないが、女の子だけに配られたパンフレット自体おかしいと感じた。
- ◇義務教育や、幼稚園保育園からの性役割をなくす教育が大切だと思う。今は減っているが、男の子は青色、女の子はピンクなど、園でスモックの色を決めているところもあると聞く。祖父母も、いまだに女の子が生まれたらお人形、男の子が生まれたら車や恐竜などをプレゼントしたりする。身近なところからジェンダー意識を変えていくことが必要。
- ◇共働きの為、子供を学童に入れているが利用料が高くて多子世帯では利用料を稼ぐために休日出勤などを行っているがその休日にも利用料の別料金がかかってきて子供との休日を犠牲にしてまで何をしているのか悩まされる！共働きでも他で手助けしてもらえる家庭

はいいがそうでない家庭は時短勤務などで対応するしかないその分の補助もあるみたいだが子供が2歳までだったと思う。それ以上の子供で手助けのない家庭でもフルタイム勤務やっていけると言うことなのかと思う。そう言う家庭は休日に平日の洗濯や子供の習い事とかで時間がなくなる。子供達にかかる学費なども不安で仕方ないいきいきと暮らせる社会など全くもって期待できない！

仕事・職場

- ◇行政が音頭をとって、労働環境の調整や現場でのガイドラインなど策定し普及をする必要があると思います。特に男性の育休、介護休暇への理解は低いと思います。業務の圧迫を理由に自由に休みが取れないことは非常につらいです。
- ◇自分の好きな仕事や職業につけるように偏見や差別をなくす。男だから保育士になりにくい。や、女だから工場や工業系の仕事につきにくい。などの考えをなくす。
- ◇男女の雇用賃金を2倍以上に増やせるようにする。出産後の仕事復帰をしやすいとする(保育施設の充実、保育園預けて1か月以内の復帰ではなく、岡山市のように2か月、またはそれ以上の期間猶予を設ける等)。セクハラ、小児の性的虐待、DVの加害者への罰則厳重化、むしろ無期懲役でよい。
- ◇育休がとれやすい会社づくり、法律の改正
- ◇仕事を続けていく上で、病気・不慮の事故・結婚・離婚後シングルマザー、ファザーになった・不妊不育治療・妊娠・出産・育児・更年期・家族の介護(子供がなんらかのケアが生涯あるいは一時的に必要な場合を含む)など仕事を続けることが難しくなる事態に直面することがあると思う。そんな時、当日急に仕事を休んだり、休職や産休育休をとるスタッフがいても仕事がまわり、休むことに負い目を感じない仕組みを作ることが大切だと思う。また、そのカバーに入るスタッフに対して「独身だからどうせひまでしょ」「子供がいらないから残業や休日出勤できるよね」「産休育休は女性ならお互い様、いつか通る道だから女性がカバーしないと」など誰かの善意や犠牲の上で成り立たせるのではなく、仕事をカバーしてくれた人に対してもケア(代わりの休みを好きなタイミングで優先的に取得できる。目に見える形で評価したり手当を支給するなど)することも必要なのではないか。
- ◇現在「生理による休暇」が設けられていない職場で働いており、ややしんどい思いをしています。「生理休暇」がある職場もありますがどの職場にもあるというわけではない現状を変えて頂けると助かります。(男女の休暇の数に差が出るかもしれませんが)
- ◇公務員や大企業においては、男性の育休の取得も可能かもしれませんが中小企業や人員不足の職場においては、ほぼ無理だと感じています。また産休を一度に何人もとられると仕事が回らないのが現実です。
- ◇給料アップ、実質賃金アップ。いきいきと暮らせるに対してかつかつじゃあ、ムリ。
- ◇所得アップ
- ◇どの職種もぎりぎりの人数の中、働いていて残業もあたり前のようにあり、1人1人の負担が大きく、心に余裕がない中暮らしているので、もっと仕事のスピードを落としてゆっくり暮らせる世の中になればいいなと思います。
- ◇働き方改革の推進(労働時間短縮、休日数増加、育児・介護制度の充実)、学校でのLGBTに関する授業

- ◇同一労働、同一賃金、収入格差の是正（大企業と中小企業の格差ありすぎる）、税の改革
- ◇育休を男性が取得しても本当に女性の為になっているのか？経験者の声をいかして取得実績ではなく内容に注視する
- ◇労働条件での男女賃金格差の是正、正社員と非正社員との格差是正
- ◇家庭では家事、育児は全てで協力なく乳児の頃から育てていました。家事、育児は嫌いではなかったのですが、やはり仕事との両立をする事は出来ず、保育士をしていた私はその仕事量の多さと家庭とを上手くやっていく事はどう考えても難しく家庭優先で仕事はパートとなりました。子育てしている間に時代は変わりパソコン導入。少しずつ育児も手が離れましたが時代にもついていけず結局パートのまま。資格有りでも時給も他職種との差もなく、女性が多々働く保育パートの時給も見直しをお願いします。どんどん保育現場から他職種へ変わっていっています。どこも人手不足です。
- ◇男女の給料の差が大きすぎると思います。社長が平気で男女の平均給料の額を言っていた。その差の大きさに女性は全員がく然としていたが、男性は何も感じていないようだった。今の50代以上の男性は女性を見下している人がとても多い。これらの年代の人が早く去ってほしいと思います。
- ◇職場で女性が管理側につける率を向上し、決定する場に参加できるようにしていく
- ◇男性育休を義務化する。公立幼稚園の登園時間を長くする。預かってくれる時間が短かすぎる。仕事を持っていなければ保育園に入れず保育園がみつからなければ仕事を始められない現状を何とかするべきです。経済時に自立できなければ共同参加は実現しない。
- ◇賃金を上げる（性別にかかわらず）
- ◇企業の賃金を上げるようにする
- ◇ハラスメントを行う人を社会全体が許さない体制を確立すること
- ◇子供を作りたい増やしたいと思えるだけの収入や所得がないと感じる。働くという選択肢しかないし、男はフルタイムで働くのが当たり前な風潮がまだまだある。男でも子育てできるだけの金銭的、職場での待遇などを変えて欲しい
- ◇男性の育休取得推進はされているかもしれないが、男性の多い職場では取得しづらい雰囲気があるのが現状。育休期間休みが減る等の陰口。育休で休む人のサポートは勿論であるが、その人のサポートに回る同僚や上司、部下へのサポートも必要であると考えて（給与、手当、ボーナス加算など）
- ◇まだまだ男は仕事 女は家庭の思い込みが中年世代でも抜けない。理由は男女の賃金格差にあると思う。勤務時間は夫婦で同じなのに賃金が近 低いため家事の時間的配分を女性が多く取らざるを得ないと思っている。男女の賃金格差を無くさない限りついて回る問題だと思う
- ◇どんどん女性が活躍しやすい社会になってほしいです
- ◇男性の育休取得について。見せかけで3ヶ月間育休を取る事よりも、当たり前の様に男性でも2年間育休を取得できる世の中になって欲しいです。
- ◇高齢者の立場からすると気軽に働く事ができる場所が余り無いように思うので高齢者の雇用口を充実させて欲しい。
- ◇産休、育休、介護特休を支える人の制度が整うことで、それらの制度を使う人も、使わ

ない人も平等と感じられる社会の実現。今は、程遠いと感じることが多い。

◇職場が環境を整えやすいように国や県の職員もダイバーシティになるべき。実際にそう言った環境の方や弱者を話し合いに一定数入れないと多数が健常者では結局多数決などで意見が変わらないまま。実際に変わるまでに時間がかかったり、実行するが結局畑違いな結果になるのはそのせいだと思う。

社会・暮らし

◇人には得意、不得意があるのどんな事にも助け合いながら楽しく生活ができる社会づくりが大切だと思います

◇ルール作りが大事だと思う。差別と区別は別ものなので。

◇今より生きやすくなるのであれば、協力したいし、期待したい。

◇高齢化が進んでいる中で、若い世代の負担を軽減するためにも、高齢化が買い物に行ったり病院に1人で行けるような移動システムを整備して欲しい。

◇平等と言うが、政治が全くかわっていない。まずは国が見方をみせて欲しい。国会ができないなら、一般社会で実現するわけがない。

◇50代の医療に行きやすく医療費の負担もすくなくしてほしい

◇相手の立場になって考える優しさが失われてきていると思う。自分がされたくないことはしない。「思いやりの心」があれば全て解決すると思う。「失敗や挑戦を許容する文化」が求められている。

◇誰もが好きな事に熱中できるよう国や地方公務団体が率先して基礎を作って欲しい。

◇携帯電話やインターネットやテレワークなど人と接してない機会が多いと思います。やはり人と人が直接出会って会話することが大切だと思います。

◇学校教育の1つとして、とらえていったら良い方向にいくと思う。固定観念をもっている年代には難しい方もいるかもしれないので。今、行っている行政を市民に広く周知して、市民の意見を聞いて問題の解決をしてほしいと思う。

◇買物先で高齢者の方が、豆腐1丁だけとか少量の買い物しかできずに帰宅されるのによく出会います。高齢者の方、社会的弱者の方に、日々の生活に少しでもゆとりができるよう願っております。季節に必要な食べ物、飲み物、雑貨など寄付、募金が出来るところを設置してくださるとありがたいです。

◇相手を思い、いつでも誰でもスマイルで話してます

◇各家庭が毎日（普段通りに）おくれる（暮らせる）事が1番大切だと思います。そうなれる様に祈ります。

◇お世話になります。いつも倉敷市向上への取り組みには心温まり生きる支えとなっています。私は程よい田舎住まい道ですれ違い様に挨拶が出来るところのこう言った環境が性別差別を回避、又義務教育でも取り上げられる様になってますので、その子達が成長と共に社会をすこしずつ変えてくれるでしょう。

◇職場・社会活動等で立場の弱い人をたすけてあげられる倉敷市にしてもらいたい

◇ルールを作るべき

- ◇犯罪の扱い、安全安心な町作りを倉敷市つくりよる事を望みます。
- ◇保育現場で働いていますが、発達障害児が増えた気がします。現場や家庭での負担は大きい。そういう子供たちが自立してくらせるようにしてあげたいと思う。介護現場も大変だろうと推測できる。誰もがいきいきと暮らせる社会実現のためには、保育（障害児）や介護は無視できない問題だと思う。従事する人の待遇や報酬を見直して人材を増やす（集める）のも大事だと思う。肉体労働です。大変と思うし年取るとできない。
- ◇その社会づくりをするためには、まず市民の方が積極的に選挙の投票をすることで社会づくりに正しく積極的な人を選ぶ。市の職員の方、市民の方でもまだ多くの偏見があるので啓発活動をさらに強化する。
- ◇もっと家庭1つ1つに注目してほしい。一生懸命朝から夜まで同じように働いても、貧困で。たくさん働いて課税対象になってしまったから支援なくなって、結局マイナス。みんな同じ家庭じゃない。そういう声をあげる場所をください。
- ◇サービスの充実、賃金の増加、交流会の設定、イベントをつくる。
- ◇家事育児のため、仕事を制限しています。将来が不安なので貯蓄するために仕事をしていますが毎日仕事、家事、育児でつぶれそうです。共働きでなくとも将来の不安がないよう所得拡大や社会保障の先行き不透明さをなくして、夫婦のいずれか一方の稼ぎだけでゆとりが持てたら良いと思います。
- ◇何か社会が息苦しい
- ◇一人一人が尊重されること、また相手へ配慮があることでよりよい社会になっていけたらと思います。
- ◇自分のしたいように生きていけばいい
- ◇今の時代1人1人がギスギスとしている。もっと心を広く何事もダメ、ダメでなくしていくようにしていくこと
- ◇なんでもかんでの規制すると反動が大きいので個人に任せておけばいいと思う。性差別よりも税金を払っている人が損をして働けるのに働かない人が得をしている事の方が私達には問題です。しっかりしらべてほしい。
- ◇障害者と退常者のインクルージョンを進めることにより、男女の隔たりが相対的に狭ばらないでしょうか。歩道、自転車道、公園の安全性を高めることにより、移動・活動を活性化できないでしょうか
- ◇お金があれば今の不自由さの多くは解消されると思います。生きていくだけの最低限の生活をしてもお金がかかる。（食費、光熱費等）賃上げでも物価を下げるでも何でもいからもう少し生活をラクにしてください。お願いします。
- ◇人の目をきにする県民性をなおしたい（自分も含め）。目立たないように平凡以下を維持して生活している感じがしんどい。東京では前を向いて歩けるが岡山の人は常に目を見張っている感じが下を向いて歩くのがクセになっている。
- ◇いきいきと生活できる資金がある地域
- ◇互いの思いやり
- ◇平等というものは人それぞれからがちがうので生きづらい人がでてくると思います。

◇相手の願いを 100%受け入れると別の歪みが違う所で生じると思う。お互い思いやりをもった落とし所を見つける必要があると感じている。

◇祭りの充実

◇少子高齢化社会となり、何となく感じる将来に対する不安からか社会が不寛容となっている。ひとり一人が心に余裕をもって他者に対する思いやりを持てる社会にしなければならない。政治の責任は大きい。

◇税金軽減

◇インフレ下における減税、デフレ下における可処分所得の増加

◇若い子が家に居る事はダメ、農業・林業・乳業でも何か人手の必要な所に応援に出掛けてドンドン働いて頂く。疲れて帰って良く眠る週間を作る。

◇倉敷市の高校生の医療費の無償化を早急をお願い致します

◇夫は妻のために、妻は夫のために生きること、親は子供のために、子供は親のためにお互いを思いやって生活すること。住んでいる所でもために生きる生活ができればより良いですね。理想かな？

◇人に対して見守りは必要だが人に干渉しすぎるのは生活しにくい

◇倉敷市では、まだまだ自由な生き方をしている人を理解できない方が多く感じる。女装や男装をした人、レズやゲイを白い目で見める人がまだまだいること、悲しくはないがモヤモヤとする。そんな人達が減ってくれるといいなと思う。観光地やショッピングモールでユニセックスな商品をあつかう店が増えるといいのではないかなと思う。

◇まず、男・女とか性的マイノリティとかをなくすことが一番だと思う。子供は大事だがだから手当を多くするのはその結果若いのに働かない人がふえた。虐待もあとをたたない。人間は最終的には老人になります。子供も老人になるし老人も昔は子供だった。ひきこもりもあるし、老人は 80 すぎても働いている人もいたりするけどほんのひとにぎり（政治）みんなが 80 まで働けないしボケないわけではない。介護もう限界まできています。男女共同も大事ですが男と女である限りみぞはうまらない、ならば相手を知ることからはじめる、老人、若い人、中年などそれぞれ考え方の違いがあります。

◇人は千差万別である。現代は多様な生き方を求めている人々が多い。しかし政治がそれに対応し答えられるには限界がある。

◇一人一人の協力。人の身になって考える。他人の子供も自分の子供と思える。

◇公は周知・啓発に努めるだけ、後は個人に問題

◇自分自身が自分はこれが良いと自分を受け入れる。他者へ依存しない。自分を大切にすること。そんな強い人が社会を作ればうまくいくと存じます。

◇誰もが生き生きと暮らせるためには、一人一人が大切にされていると感じられることが大切。そのためにはコミュニケーションがとれること、独りにしないこと、個性・特性・能力が生かせる・発揮できることが大切ではないかと考えている。また身近なコミュニティがあればなあとと思う。公民館などが活動場所として気楽に活用できれば良いのだが（町内の盆踊りやお祭りの復活）

◇ネットの中のかくれたいじめ、差別をととても恐ろしく思っています。男であれ女であれ未婚であれ個人の価値、信心を大切に生きられるといいと思っています。

- ◇子供の頃からの教育が大切。我々世代のすりこみ教育はなかなかぬぐえない。
- ◇災害への対策がしっかりしていればいきいきと暮らしていけると思います。倉敷市は大雨や地震はあまり大きな災害は出にくいですが、それでも真備のダム決壊があったので。
- ◇行きたい所、したい事、食べたいものなど全てにおいてお金がないとできない。収入がふえるといきいきくらせる。余裕ができていきいきくらせそう・・・
- ◇挨拶、コミュニケーション
- ◇だれとも話をする
- ◇皆が何の心配もせずに生きていけるようにしてほしい
- ◇己を律して他人に寛容な社会作り、メディアのあり方
- ◇一人二人の家庭が増加しているので、ふれあえる機会、場所の予算を地域に提示してほしい
- ◇年金の増額
- ◇年代間の取り合いになっていて若い世代が老齢世代に搾取されすぎ、バランスが悪すぎる。これでは子供を作ろうと思わない。ベーシックインカムを導入検討が必要
- ◇職場や地域や学校でのパワハラ、セクハラが今だにあります。そんな環境を少しでも無くすように倉敷市が一人一人に声かけして、社会づくりをしてほしい。
- ◇①SNS などの投稿にいちいち反応しない②地域行事にどの世代も参加できるものを増やす③市がリードして講習会など行う。集まりやすい会場で参加しやすい雰囲気づくりに心くばりをする④かたくなな社会でギスギスしている⑤コミュニティの復活（となりはだれ？）などが多い地域あるのでは・・・
- ◇性別ではなく個性、適性、能力をいかせる社会になればいいですね
- ◇税金が高いため豊かにくらせている市民が少ない
- ◇誰かに相談しやすい環境をつくる
- ◇人まかせにせずと同じ立場になって考え、行動することができるようになればいいなと思います。他人に共感できる心の豊さが大切だと思います。
- ◇声をあげる人に洗脳されがち、現在は町内の事での活動が多く声をあげた人に先導されている事が多い。市や町での方針が根づいていれば役員の方も活動がしやすいと思います。
- ◇自分の周りで年齢が上の人（60 以上）は昔ながらの考え方が多い印象です。今は多様性の時代なので考え方や価値観は人それぞれだと思います。何がマイノリティで何がマジョリティかは受け手によって違うと思うので、それぞれがそれを寛容になれば誰もがいきいきと暮らしていけるのではと思います。
- ◇ゆとりある生活ができるにはどうすれば？物価高、収入減、いろいろな不安があり、不安を少しでも和らげる倉敷市であるにはどうすればよいか？
- ◇生活の中で相手の立場になり考えて行くかを育てる環境が必要だと思います。今の世の中、自分本位に考える人が多い。
- ◇個人の生活に対して寛容と思いやりを持つ人が増えてほしい

- ◇年配者に今から意識を変えろというのは難しいと思うので、若い世代から正しい価値感を持って世の中を変えていってくれることに期待している
- ◇啓発活動によって社会づくりの基礎づくりを実施し、細かな事でも対応する社会組織づくりが必要だと思います。
- ◇自身が男性か女性か男でも女でもないなど個人の性にこだわらず、それぞれが一人の人間であり、上も下もない存在だと認識して否定せず尊重し合えるようになったらいいのだと思います。
- ◇人生 100 年時代、かつてでもなく、これからでもなくひと呼吸ひと呼吸の今の日々の積み重ねです。日々精進し進化できる心・技・体・意識や環境・社会が大切です。人権が尊重され個性と能力が発揮されるまちづくり、みんなが住みよい過ごしやすい社会になるといいですね
- ◇性別に対して固執する必要はなく、男女問わず 1 人の人間としての社会作りが必要
- ◇他人に干渉しすぎ、1 人 1 人が自分の人生をしっかりと生きていけばいいと思います（楽しく）
- ◇皆さん色々と悩みはある方もいると思いますが、皆さん 1 人 1 人が幸せにすごせる社会になるといいですね。差別、暴力がない社会に変えていく努力を私達も出来る事をしていきます。
- ◇労働時間の大幅な削減、既得権を手放す、公的サービスのオンライン化（情報共有）
- ◇自分の状況や反応について、自由に話せる環境づくりをすること、ひとり親だからや収入が低いからできないという壁をなくすことが、誰もがいきいきと暮らせる社会づくりに大切なことだと思う。
- ◇個人も大切にしつつ、地域の方と助け合いながら生活できる環境づくりが大切だと思います
- ◇倉敷市も取組が大事だが国として政治家の古い常識をかえ若者の考え方も取り入れるべき。
- ◇個人の性選択における服装に関しては個人の自由で良いと思う。その反面、戸籍上は男だが、中身が女だからという理由で女風呂に入れるかと言われればそれは違うと考える。なぜなら、純粋な女性が嫌な視線を感じることもあるし、入った当人は男女とも恋愛対象である可能性もあり、これは性犯罪の加担になると言っても過言でない。なので、女子トイレや女風呂には入れるのではなく、新たにそういった、中性的な人用の個人で入れる温泉施設やトイレの設備管理が必要になってくると考える。予算は多少かかるが、犯罪や他の人に迷惑がかかることを考えると如何に必要であるか分かるはず。どちらかで選択を迫るのではなく、間を作ったらいいいのでは？となる。
- ◇ファミリートイレの拡充
- ◇みんなが個性を認め合い、世の中には色々な人がいることを知らなければいけない。お互いに尊重しあわなければいけないが、それが難しい人たちがいるのも事実。
- ◇個人ひとりひとりの経済面の余裕を確保して精神面を安定させることが大事だと思う
- ◇性別や結婚しているしていない、子供がいるいないにかかわらず、みんなが暮らしやすい社会になるよう全体の意識が変わっていけばいいなと思います。

◇性別問題ではありませんが、日本は先進国の中でもかなり福祉が遅れているように思います。若い頃から皆が老後の心配をしながら生活しなければならないのです。公共交通機関や老人ホームなどの充実をはかり、晩年を迎えることを恐れず暮らしていけるような社会を望みます。

◇本人のやりたいことを否定しない。企業の上層部、人事部の意識改革。性別で家庭内の負担が偏らないように保育、介護サービスの充実

◇個人の考え方が多様なのでむずかしいと思う。自分自身の生き方を慣いて生きてほしい。

◇私は1日々が健康で、高望みしないで暮らして行けば幸せだと思って生活している

◇ひとり親支援にもっと力を入れて欲しい

◇家計に余裕がないと心のゆとりができにくい

◇物価が下がって税金がへること

◇確かに、少子化を緩やかにする又は止めるためには、女性が結婚して妊娠・出産・育児をする必要があるのは痛いほど分かるのだが、それが難しい女性（レズビアンや障害者など）も一定数存在するものであり、それを考えずに女性に結婚・妊娠・出産・育児を強要するような風潮はなんとかならないのだろうかと思います。そもそも出逢いがなくて結婚したくても出来ない人だっているのに、その人達をいらないものとして少子化対策と言う政策が行われているように思うことがあります。単に出逢いがなければ「婚活パーティー」と言うものでもないけれど（笑）男性の潜在意識の中に、ある程度の年齢の独身女性に対して「女（女性）なのに、この歳で独身って人間的に難アリなのか？！？」って思われているんだろうなあと言う想像が出来る場面があつて心底嫌だと思っています。世の中の中年男性から高齢男性に対して意識改革が難しいのは重々分かりますが、独身女性が肩身の狭い思いをするのは変だと思っています。未成年の妊娠・中絶が物凄く多く、中絶せずにこの世に子どもとして誕生していたなら合計特殊出生率は人口維持レベルを維持出来ると言う話を耳にしたことがあります。本来、望まない妊娠をしてしまった未成年の女性にこそ手厚く教育を受けさせ、若くして新しい命を授かることで本人（当該女性）の選択肢が中絶か、中絶しないにしても物凄く苦勞するばかりの子育てのみで終わってしまうことのないようにしていかないといけないのではないかと思います。若い世代への性教育も現時点では充分に行われているような印象を受けません。まあ、諸々上げればキリがないくらい課題は山積みですが、妊娠の可能性のあるのは、生物学的に女性器（子宮・卵巣など）を体内に持っている方のみなので、少子化をなんとかしたいのなら全ての女性に優しい社会構造、男性器（睾丸・精囊など）を持つ方にも（俗に言われる）無責任な性交渉が許される世の中では駄目だと言う意識改革も必要です。まあ、強いては全ての人間に優しい社会構想・駄目なものは駄目（正しくフィクションとノンフィクションの区別がある）と皆が共通認識をしている社会構造を作っていかななくては行けないのだろうなあと思っています。

◇価値観の多様化が進み個人の意見を尊重する現代では、共通の価値観を持つことが難しくなっていると思います。例えば町内会などの活動において参加者の減少、活動の意義に対する意見の相違などにより共同作業が難しくなり、また定年延長などで主に退職後の方が従事する地域活動の担い手が少なくかつ高齢化になっていることなどでますます地域社会の活動が停滞している状況があります。また企業内でも世代間による価値観の相違があり、類似した問題となっていて感じています。この問題を正しく把握し危機感を持っている地域（＝企業、以降同意）とそうでない地域の差は大きいと思いますし、このような地域での活動がうまくいくような、住民（＝社員、以降同意）主体の自主的

な活動のある組織は男女共同参画や LGBT についても相互理解が進むと思われます。まれに昔の価値観のまま継続している地域もあるかと思いますが、世代が変わると緩やかに現代の価値観が共有されていくものだと思います。そのような地域社会において、行政に期待することは適切な情報提供とマイノリティに対する支援が重要だとは思いますが、一方で地域社会において男女共同参画に関する関係者やそれを取り巻く周りの人々が問題点や改善点などを自分たちで考えて解決したり実行したりすることを支援することがより重要だと思っています。自分に関係のないことは関心がなく、また責任も負いたくないため行政に頼りきりになる住民が多いと思うのですが、職場や地域社会、学校などにおいてそれが身近な問題であること、それが自分自身にもかかわってくる問題であることを認識していただき、個人ではなく様々な地域、団体、グループなどのチャンネルを通じて関わり合いができるような環境づくりを進めることが大事ではないかと思っています。そのために、労働時間にゆとりを持たせ現役世代でも社会活動に参加しやすい環境整備、活動にかかる費用の助成、会議室などの活動場所の提供などを行政に期待したいです。

◇現状、それなりに生きやすい世の中になっていると私は思います。しかし昨今の精神疾患の増加に伴い、善悪二元論の思考が国民に浸透されてるのでは無いかと危惧しています。国民の意志や思考が社会全体の思想となるのだから、眼の前の問題（今回で言えば男女平等感）を点として捉えるのでは無く、線で見た方が良くと思います。様々な背景があって、この世界が作られてゆくのですから、枝先の問題から解決するのでは無く、根っこである木に意識を向けるべきかと。周りの大人が社会を想い、どれだけの行動や言動をしたとしても、所詮枝先を整える程度の活動が限界です。ですから何よりも必要なのは、社会の枝先である本人の意志です。此处が全てと言っても過言ではありません。枝先である国民が自らの意志で動いた行動や言動には、とても価値があり、また同時にその意志には価値以上に大切な各々の人生に取って意味のあるモノになると私は思います。ですので枝先を整える活動をしたいのであれば、子供より大人の思考に意識を向けた方が良くと思います。具体的には仕事の休日等に大人達が通いたくなる様な、しっかりとした人間になる。こうした学びの場を政府が一丸となり作る。其処で学んだ考え方が身に付けば、自然と子供は大人を見て育つので、生きやすく素晴らしい社会に近づくのではないかと思います。こうした活動を一個人の思想が団体へ影響を及ぼす仕組みは、大変危険な行為だと私は思いますので、政府が明確な意志を持ち、安全活つ安全に、着実な一步を歩み進んで行く必要があると 생각합니다。こうした学びの場に、国家が先導してお金を投資するのであれば、それは国民も納得のゆくお金の使い道となるのでは無いでしょうか？一国民として、この世界の人間が生きやすく、また誰もが素晴らしい世界だと呼びたくなる。そんな社会になる為の活動の言葉になれば嬉しいなと想い書きました。長文失礼致しました。一人の倉敷市民として、この場をお借りして、お礼を申し上げます。

◇生活を充実させるには結局の所お金が必要。税金や公共料金を低くできればある程度の幸福感は感じられると思う。ただ、その場合も男女間の収入格差を是正する事が必要であり、ここが解消され無ければ平等に恩恵を受けたとは言えないと思う。

◇特定健診や人間ドックなどの年齢をもう少し引き下げて欲しいです。たとえなにも無くても詳しく調べることで健康に気を使うようにはなると思うので将来的に病気になる確率を下げれるのではと思います。あと会社によっては生理休暇があると思いますが私の会社では無給となっています。人によるのですが休まないといけないほどしんどい方もいるとも聞きます。男の私から見てもそのことで有給を消費しないといけないのは不公平に感じます。おそらく生理だけでは無く妊娠出産などで同じようなことがあると

か思います。

◇とにかく仕事ばかりでプライベートが楽しめない！休みの時も仕事の事を考えてしまう！でも働かないと家族を養っていけない！

◇他県から来ましたが、岡山県は何かとマナーが悪い、高圧的な人が多い、見知らぬ他人に対して冷たい、思いやりがない、特に運転マナーは最悪で1日1回は必ず運転に対してストレスが溜まる時がある。多いと感じるだけで必ずしも皆がそうではありません運転マナーに関しては、取り締まりが少ないと感じる、よって無法地帯になっていると日々感じる

◇様々な分野で新しいことへの取り組みは大切なことだと思います。男女平等も子育ての親さんは男女共に短時間で働ける所が増えたり、理解のある職場や、お子さんを安心して預けれる場所が増えたりすると良いですね。男性が働く、女性が働く。はそれぞれの家庭での相談で良いと思いますし、段々そうなっていると感じます。DVはもっと行政で家庭の中に入っていけるようにしないと救いけない人がまだまだたくさんいるなではと思います。人温故知新といいますか、先輩や年配の方の今まで大切にしてきた良い所は尊重し、その中に新しい考えをしっかりと理解して頂けるよう推進して行くことが大切だと思います。

その他

◇特に何もする必要なし

◇市長をはじめ市職員の態度がわるすぎる。給料をへらして政策に予算を回せ

◇気持ちを口に出す、素直にそれをきちんと聞く、聞くだけアンケートをとるだけでなく実行することが大切

◇ボランティア活動

◇市役所の方々の対応が悪いので改善をお願いします。(窓口)

◇男女と分けて考える時点で対して変化を期待できない。議員に払われるムダな税金を必要方に還元してほしい。目標に対しての結果が説明されていない（できなかった理由と対策、それに対する費用も含めて市民に了承をもらった上で行動したは）こんなアンケートすることにお金をつかうぐらいならアンケートやめて議員を1人でも減らせば年間2000万円以上のメリットがある。

◇公民連携

◇バスケットボールコートの公園があると良い

◇市の人がユーチューブ出したり代表などSNS(Xとか)で発信する、楽しく

◇そっとしてあげたいです

◇過剰な意見の押し付けの場にしないで下さい

市民の方にしていただけること

- ◇途中で回答出来なくなる様なアンケートを配り時間のムダ、職員全員が市長さんの大学で勉強して来なさい。私が支払った税金の一部を無駄にしないで下さい。アンケートは不特定多数の人が対象なのでよく考えて下さい。
- ◇アリオなどのショッピングで、子供と一緒に勉強しながらあそべる企画などがあれば楽しいと思いました。
- ◇SNS の普及により、間違った情報や、片寄った情報に影響される人が多い。特に教育されていない（情報のとり方を勉強してきていない）若者に多いように感じる。正しい情報の発信が必要。
- ◇新しく意識すべき情報が手に入りやすいとありがたい。
- ◇町内会ごとに話し合う。例えば「婦人部」って何？女性だけが負担を強いられるの？シングルの女性はしなければいけないのにシングルの男性は免除されるっておかしくない？とか。
- ◇自分達の意識を変えていくため、このようなアンケートのような考えていく機会をいろいろな場面で作っていききたい
- ◇くり返すが制度が変わって初めて意識も変わる。啓発よりもまずはとっとと制度を変革して欲しい。選択的夫婦別姓、クォーター制の導入はマストと考える。制度が変わらなければ結果何も変わりはない。
- ◇何をしているのかわからないので見せてほしい。見にいけるのであればいきたいです。
- ◇今の高齢者や成人が考えをかえるのは難しいので、子供の教育に何かを入れるべき。そうしたら数十年後に結果がでることでしょう。人権教育等を地域で行ったりしているが、高齢者ばかりきており、効果が低いとしか思えない。まわりを見てもボーっと聞いているだけ。
- ◇私自身、経営者として「女性の活用」は常に考えている。出来れば行政と力を合わせて女性のキャリアアップを目指しより良いステキ倉敷を作っていこうと思う。
- ◇「男だから」「女だから」というこり固まった考えを押しつけるのではなく、その人その人がどう幸せになれるのか皆違うということを理解してあげることが大事なかなあとと思う。そのことを周りの人とも話をして他人事としないように気をつけたい。
- ◇人間個人差があり実現は難しい。
- ◇もっと理解を得るために、会社や学校でセミナーを多く開き、倉敷市民の方が参加する努力が必要だと思います。
- ◇他者を尊重する意志を持つこと
- ◇市民の不安・不満や経験など率直な思いを伝えてもらう事だと思う。
- ◇今は、仕事と家庭の事で時間を作る余裕がないですが、仕事が一段落したら、地域で誰もが安心して繰られるようなボランティアに参加したいです。
- ◇性別にかかわらず、個が輝くといった社会が実現されるのを望みます。倉敷が全国にさがけて進む自治体であれば市民として誇らしく思います。
- ◇男女共同参画の言葉は初めて聞いて、活動や取り組みがどの様にされているのかも未知

なので情報収集に努めたいと思います。

◇地域住民の意識をもたせるための、研修や話し合いへの参加

◇年金生活なのですべて解答できませんでしたが若い人の意見を尊重し見守るしか！

◇家庭内でのコミュニケーションを増やす

◇市役所のその方向のプロの方におまかせします。市の広報誌にもはきりした記事を・・・

◇70 才以上は定年にして議員もやめてもらいたい。寝てる議員、利権まみれはいらない。特に組織票、すぐなくして。

◇各地域別の年代性別を問わずのスポーツ大会を増やしたらどうか。

◇していただくためには、まずは何をしてもらえるのかメリットを先にわかりやすい言葉で示すことが大事だと思う。人をお願いごとをする時はそういうものだと思う。

◇今現在では何もできることが考えられない

◇有罪となった市議会議員を辞職させるべき

◇イベントなどの参加（観客だけでなく臨時スタッフなどとして）SNSのアンケートで回答したら使える公共の場のクーポン発行

◇子育てが落ち着いて働く年齢は 35 才をすぎて人が多いのもっと男女が年齢をかんけいなく働ける（正社員）ように

◇市民が出来ることは制度が決まっていなくてそもそもできないのでは？倉敷市に求めること①看護休暇は遊んでいるわけではないので給料を減らすのはおかしいです。②夏休みなどに一時預りが出来る場所（うちは7才と3才）が気軽にあればありがたい、2人一緒に預かってもらえると特に助かります。③療育のた（中も）にももうすこしお金を使っても良いと思う。④上の子は場面かんもくで不安が強いので近くの（玉島）歯科では治療が出来ず岡大を紹介され毎週夫は有給を使い一緒に行っています。私も一緒にいてもらえると精神的にも負担が軽いです（有給がすぐ無くなってしまう）

◇実践的な政策で女性をもっと支援しましょう

◇女性の PMDD, PMS など性別について理解とフォロー出来る職場作りのさらなる構築を期待する

◇若いこれからの人には、仕事を優先して身体を壊すことのないよう。責任感はきちんと持った上で人生を楽しんで生きていくよう伝えたいです。

◇無理に男女共同参画をさせない方が良く、本当に参画したいと本人が思ったら受け入れる考えで良い。あまり男女とアピールしなくてよい。レディースデーがあるのにメンズデーがない！男女が働くことがあたり前といい、それならなぜレディースデーだけ残っている？

◇子どもに無用な性別意識をうえつけないようにする

◇男女共同参画の実現の意識を持つことは大切だが、人それぞれ考え方が異なってもいいと思います。市民のみなさんもいろいろな考えをお持ちだと思うので正そうとしなくて例えば世代によっても差があると思うので。でも男女のことで傷つく人がいるのならそれはやめていただきたいです。

◇このようなアンケート。職場などでも個人の秘密が漏れたりしないようなアンケートを市や県が調査するなど。

◇地区・公民館単位での研修会・セミナーを実施し、地区民のボランティアで開ける様にプログラムを公開すると自由に参加出来る。

◇今回のようなアンケートがあることを初めて知りました。一市民の意識や思いを確認してもらえることを嬉しく思いました。また倉敷市の取り組みをもっと知ろうと思う良い機会になりました。

◇よろしくお願いします。

◇市民が感じていることを気軽に伝える事のできる方法や場所があったら良いなと思います。新しい事を積極的に取り入れ行動していかないと何も変化はおこらないと思います。失敗しても挑戦をする事が重要だと思います。

◇もっと簡単に休みをとれるようにしてほしい。パワハラが陰で行われているかをもっと調査するべき。

◇ない

◇本気でやってほしい。同和でも同じ言うだけでそれを利用して有益、利益になる人のみが言っている。言ってはいけないことが多すぎる。

◇そもそも論として倉敷市の男女共同参画施策が周知されていないのではないですか？施策の具体策等について全く知りません。

◇大切な事だと思います。目的を決めてその話し合いをまとめ、それなりの上層機関への提訴が必要かと。又はそれについて検討会議も必要かと。

◇教育を充実する所から始めるべきだと思います。

◇このアンケートは仕事をしている方や若い方にするアンケートだと思いました。年金生活者にするアンケートだとは思えない部分が多くありました。

◇市民の側から何か行動をおこすのはむずかしいように思うので、市のイベントとかを利用してボランティアを集めれば良いのではないかと思います。

◇このアンケートにお答えするに当たり、退職して現在仕事をしていないのでお答えしたくてもなかなかできませんでした。無作為抽出でも年齢的に回答が異なるはず。年齢別での無作為抽出でより活かせる回答になるのではないのでしょうか？失礼いたしました。

◇がんばって下さい。

◇男女ミックススポーツの機会を増やし、性差意識をなくしてゆく

◇フラットな目で物事を見ます。

◇時間さえあればなんなりと協力する

◇やはり男だから女だから目線がまだまだあります。もっと個々の個性を見てほしいと思います。

◇草刈、空き缶拾い、どぶ掃除、剪定

◇女性の働き方改革で、とりあえず女性の管理職を増やしていこうとしているが、結局女性の意見はなかなか聞いてもらえないし、男性優位な企業がほとんどだ。会社のパラハ

ラも減ってきてないしパワハラに対して聞いてもらえる窓口があっても、会社に通告してくれないのもっと真剣にとり組んで欲しい。

◇男女混同でのスポーツ大会

◇男性も女性も家事、仕事をします。助け合っていていけばいい。

◇男女では特性が違うのだから一律に平等を押しつけるのではなく、それぞれの能力を尊重しながら役割を果たす事が大事だと思う。

◇まずは性別やマイノリティに囚われることなく、一人一人の人権や意見が尊重されることがとても重要だと考えます。様々な場面で1人の「人間」として意見や人権などが対等に扱われるようにまずは自分や周りの人々たちの意識を高めていくことが大切なのではないかと考えます。

◇身の丈以上は苦しい

◇様々な多様性の理解

◇我が子のしつけは親が責任をもってする。

◇有識者を含まない市民同士の話し合い。今回のようなアンケート調査。

◇性別役割分担の固定概念や偏見を見直し、男女が平等に活躍できる社会をイメージする。男女共同参画のために情報を収集し理解を深める。家族や知人・職場の人たちに男女共同参画の大切さを伝える。性別役割に基づいた商品やサービスを利用しない、偏見を拒否する。男女共同参画や性的マイノリティに配慮、対策を推進する候補者を支持、投票行動に反映させる、また政策については行政に意見を伝えていくことが大切だと考えます。

◇もう男だ女だということがいつまで続くの？としらけるばかり、男女共同参画と声をあげないといけないのも変な話

◇女性の市長が活躍される世の中で男女共同参画は十分実現されているのではないかと思います。東京都でも都知事は女性かと思います。市税の割り当てでポイントなところはどこか、倉敷市民で考える必要があると思います。老後は女性が比較的長生きしますが生活苦に陥っていないか、本来あるべき男女共同参画を問うべきです。

◇海外のライフスタイルと違って我が国の一歩さがって女性が立ち振るまう事が美しい事のようにされてますが、時と場合による

◇男性でも女性でもお互いに助け合いお互いに話し合い相手の幸せ（喜び）が自分の幸せですけど「手伝ってもらいたい事など」の話がいつでもできる関係性がいいですね。

◇まず社会の基礎単位であて家庭、家族の内での夫婦間、家族間の互いの尊重、心の支えあい、協力など心の通じ合いを努力することが大切

◇個人一人一人が社会に目を向けて考えていく

◇「ミス～」 「ミスター～」等性別を冠する募集やコンテストタイトルやそれに準ずる対象の限定はできるだけなくし、「観光・PR大使」等その人の能力を評価する名称・言葉を少しずつでも使用し広めれば性別を「個性」と評価し男性・女性という事を「限定・束縛」ととらえる事がなくなっていくのではと思う。

◇他人の考えを理解できなかったとしても、受け入れていくことができるような教育や思

いを身近な人に伝えていけたらと思う。

◇現実を知る、会社で働いている人達に男女アンケートをとる。介護の現場と役所のちがいか市民にしてもらうのではなく市民がしたくなるような市にしてください。お願いします。

◇税金のムダ使いなので課を閉鎖すればいい。こんなくだらない事の為に税金を払っているつもりはない。やりたい人がボランティアですればいい。このムダなアンケートにいくらかかっていますか？

◇今の時代は子供が学校教育成績一番で子供が挨拶の出来ない人がほとんど。人間らしく育てほしい。

◇自分に何ができると考えてみると特に思いつかない。そこで市として市民にしてもらいたいと考えていることを提案してもらいたい。その中で自分にもできそうな内容があれば手を挙げてみたい。自分からはなかなか動けないができそうなことがあり、依頼されたりすると意外に多くの人協力するのではないかな

◇個々の企画に対して男女の人数枠を設定、極力その枠設定に向け皆が努力するだけ

◇男・女を意識した政策は必要ない

◇こういったアンケートは協力します。

◇アンケートに答えることがない。できるなら協力します。

◇きれいにしたい

◇男女何の垣根もない、みな協力できる催し物ができたらいいなと思います

◇男女平等の考え方や意味を理解し行動する。

◇難しい答えられない

◇可能であれば対象の事案に対しての講座など、どんどん行い閉鎖的にならないように、コミュニケーションの場を多く設けることが必要だと思います。

◇社会復帰を考えているけど、保育園の送り迎え、急なお迎え、子供が熱を出して休む時など全て母親の役目になっていて働きにくいのと、仕事を探すのにも苦労する。もっと父親にも家庭に協力することが広がり会社の理解も増えてほしい。

◇個人事業のアイディアは女性の方が多い印象、会社員優遇の社会保障制度を自営業優遇（平等）の方向に持っていく

◇一人ひとりの意識改革のみ

◇市単位ではなく、小学校区単位でのイベントを行い啓発する。人が集まりやすいお祭りのようなイベントを行うといいのでは。有名な芸能人や著名人を呼んで講演やコンサート形式を行う。

◇これからの未来を担う子供達が性別に関係なく平等に社会で活躍できるように小学校教育から男女共同参画について学ぶ機械等をもうけ専門家などから講演や教育を受けれる環境を整えていただきたい。

◇LGBT への理解を深めること

◇陰口、後ろ指をさす等誹謗中傷はしない事を徹底する

- ◇外見や性別に対する偏見をもたずに個性に対する特性やスキルをみて人事などの評価に生かしてほしいです
- ◇女性議員を増やすことも大事かと思う。市民の中から女性が立候補し自分の主張を皆に伝える人がもっと現れてくれると嬉しい。伊東市長は女性で頑張っているの
で支持していきたいと思います。
- ◇男女が同じように・・・は私は基本的に無理な面があると思う。女性には妊娠、出産と
いった身体的変化がある。それを望みながら男性と同じように・・・は難しい。望まな
ければ可能だとは思いますが。
- ◇「男性のみ、女性のみ参加」などという行事があるなら、改善するように（ただ、神事に
関しては。伝統もあるので何とも言えません）。会社でもPTA活動でも男性だけ女性だ
けより、同数程度いた方が建設的な話し合いができた気がします。性差だとはいいませ
んが視点が違っていました。男性、女性の対立を煽るではなく、お互いの性差を認め合
い、一人の人間として尊重する様な働きかけをするのが、行政の役割だと思います。国
や県がどうであろうと関係ありません。より良き倉敷市を作る為に尽力して下さい。※
ここでは関係ありませんが、移民についても市民の意見を聞くべきです。国の方針とか、
時代とかに流されず、倉敷市民にとってより良い選択をして下さい。
- ◇相談窓口の広報
- ◇現在の介護施設で働いているが、女性同僚が妊娠し休職している。つわりでニオイがあ
る排泄介助や食事介助ができず利用者も抱える事ができないから。男性職員や上司が理
解なく難を示しているのをみて自分自身の妊娠は難しいとあきらめざるをえない。男女
平等にできる部分と出来ない部分があることを残念に思っている。
- ◇小さい頃からの教育で身につけることが必要だと思います。
- ◇子育て、介護を男女関係なく関わることで、フラットに物事を見れるようになれるのか
なと思います。まずは家庭内で様々なことをしっかり共有していくことで、視野をひろ
げていけたらいいと思います。
- ◇よく解りませんが育った環境が大きく影響しているのではないのでしょうか？小さい頃か
ら家事、農業を手伝い、帰宅の遅い両親に代わり食事の準備や今ではすくなくなりました
が祖父母と暮らし逃げ場があったり等、家族で思いやりや協力が当たり前だったかな
？と思います。
- ◇言い方かたい、色々かたいとさけるので楽しく広げる（イラストなど）
- ◇倉敷市の計画がわかりにくい、もう少し市の計画が市民にわかりやすい方法で広報して
ほしい
- ◇私は精神障害の２級でグループホームで生活し、作業所に通ってます。作業所も今は A
型ですが来年４月から B 型になり給料もうんと少なくなります。どうして A から B に変
更になるのでしょうか？グループホームの生活では、毎日お風呂に入れなかったりして
気持ち悪いです。水道代、でんき代の節約の事ばかり言われます。生きづらさを感じま
す。
- ◇市民の意識改革は進んでいると感じます。
- ◇男女共に一歩で前進できるように努力する
- ◇男だから給与が良い・女だから少ない、職場の賃金見直しが必要

- ◇男尊女卑の考え方は古いということを知り、男女に差はないという考え方を持つようにする
- ◇「男が料理をする日」「奥さんが自由に時間を使える日」とか倉敷市の取り組みを行い、習慣化していく
- ◇男女共同参画について、まわりの人達と話すこと
- ◇意識を変えなければと思うが長年しみついた考えはなかなか変えられない
- ◇あれやって、これやってとかどんどん言っていた方が我々にはわかりやすいです。
- ◇多様化している事を本気で考えみとめ合えれば良いのではないか
- ◇仕事をまともにしているとは思えない、市議の人数を減らしてその分を市民のために使ってください。こちらに求めるのではなく、自分たちがまず変化してください。
- ◇市内で意識向上を計るのも大事ですが、インターネットで広い世界の情報が得られる今は、次の世代の若者の為にインターネットの情報の取捨選択を教えて、自然に男女共同参画社会になるよう地盤固めとして身近な若い人に教えていこうと思っています。
- ◇男女共同参画企画等の金銭的援助
- ◇選挙活動時に積極的に PR する
- ◇広報活動だけでなく、あらゆる機会体験型の広報を実施し市民参加型の事業を多く実施すれば、市民一人一人の認識が変化すると思う。又何が出来るか何をすべきか体験を通して市民参画による事業が出来ると思います。
- ◇1999 年ノストラダムスの大予言の年に施行されたのが男女共同参画社会基本法です。しかし市民としてそれが機能していると感じられたことは一度もありません。JR の女性専用車両も法によってではなく一部男性による痴漢行為によってできた産物です。しかるに痴漢冤罪で男性被害者が多く出ても男性専用車両というものは決して作られませんでした。これが自体アンバランスの好例であるということに誰も気づきません。ストーカー問題についても女性は被害者として丁重に対処されても男性被害者は対処されにくいそうです。これはアンフェアです。これからだって何も変わりません。※男性専用車両については都電では運行されたことがあります。しかしそれが一般実用化されることはついにありませんでした。おそらくこれからも提案しても否決・不採択と思われます。女災社会は続きます。
- ◇先月、ご近所の方から嫌がることを言われました。男性の方です。60 才以上の方です。他人に対して「オマエ」といわれ、私はとても嫌でした。「オマエ」呼ばわれはないと思います。
- ◇病児保育の拡充、親の自分時間確保のための保育時間（月 1 程度）、年配者の意識改革（子育ては女性がするものと考えている）
- ◇市に相談したことを番号をつけて下さい。担当者がメモで相談した事を次に行った時、そんなメモなんか無いと言われた。
- ◇ゴミの処理を？
- ◇男女共同参画の内容を周知し、より良い暮らしができるよう意識すること。
- ◇男女の平等と特性の違いは、考えるべきところだと思います

◇共学の学校でも男の子が多かったり女の子が多かったりする場所があるためできるだけ同じ比率になるようにその学校特有のものやその学校ならではの事を発信する。

◇家族が倉敷市の教育現場に勤めておりますが、長時間労働、時間外労働が常態化しており、疲弊しております。にも関わらず、残業代は出ないという、容認しがたい労働環境がまかり通っております。男女共同社会を実現する上で幼児期の教育環境は非常に重要なことだと思いますが、現在の倉敷市の教育現場では、そのようなことが実現できるとは到底思えません。また、保育現場はいまだに女性社会で、とても閉鎖的な空間です。まずは、教育現場の改善から始めるのは如何でしょうか。

◇ひとまず、男性の育児への参加が必須になってくる。すると、子育てを女性1人でしないといけないという固定観念が取れてくることにより、子供を作ろうと考える人が増える。子供が増えると人口が増え、人口が増えると経済が発展する。そういった未来を見据えて、女性1人の育児への負担を少しでも減らせるよう、努力したいものだ。

◇まだ働いたことがないので分からない。

◇まずは個人が「普通」と思うこと・言うことを一旦思い留まることからだと思います。世間的に考えたら「普通」だからしなきゃいけないとか、皆が持っている（逆に持っていない）のが「普通」だから自分も欲しい（欲しくない）とか・・・その「普通」ってなんだろうと考えて見ることから始めてみたらいいのではないかと思います。個人の世界って思いの外、個人が思うよりも狭いものであり個人の使う「普通」と言う世界は極々身内の話だったと言うことも多々あります（笑）個人的な会話の「普通」は多くの場合「普通ではない」こともあるし、日本・岡山県倉敷市では「普通」でも他県・世界に目を向ければ「普通ではない」こともあるでしょう（笑）「普通」は極々小さな個人の世界のことであって、世界的なものではない場合があると意識するだけで個人の使われる言葉のチョイスが変わると思うのです。

◇そもそも問題意識がないのでわかりません。

◇情報を受け取ってどのように考え対応するかはコミュニティ次第であり、強制はできない。

◇とくになし

◇地域行事の活性化を目指した取り組みなど。

◇男性看護師や女性消防士などの活躍している動画を作成し教育現場やYouTubeなどで放映する

◇知る事、考える事、行動する事。不当な扱いを受けている人を見かけたら、相談（通報）出来る窓口を整備して、市民全体で救っていける社会が理想ですが、現実的には厳しいと思う。

◇まずは若者から選挙投票を棄権せず考え方の近い候補者に投票するよう促す

◇このようなアンケートに定期的に答えること

◇シングルマザーに対する補助が様々あるらしいのですが、自らの意志で離婚した挙げ句、低所得者になり児童扶養や住宅などの各種手当をもらったりするのはズルいと思います（死別は除く）シングルマザーで人並みに稼いでいる人はそれらの手当をもらえないのに離別の低所得シングルマザーを甘やかし過ぎです。夫婦が安心して子供を育てられる社会になってほしいと思います。男性の育休はもっと普及してほしいですし、女性の時

短労働も子供が3歳までと言わず12歳までは認めてほしいです。育休手当の支給は現行では1歳までですが、もっともっと延長を望みます。

◇私の職場では、女性は私一人です。気を遣ってもらえる場面も多いですが、男性と同じことをしようとすると、女性なのにすごいね、とか、女性なのに、と、必ずあたまに女性なのにの言葉がきます。まだまだ男女共同参画には程遠く感じています。少しずつでもみんなの意識が変わっていくよう、女性でも男性と変わりなく同じことができると私が証明していかなくてはいけないと思っています。

◇世間の現状を変えることは厳しいと思うが、家庭内であれば、教育していくことは可能である。

◇まず、共通の価値観を持つことで問題の共有や協力の必要性などが理解されると思うので、市民や地域住民の交流が活発に行われるようなイベントの創生が必要なのではないか、と思っております。古来から続く秋祭りなどがある地域はそれに向けての準備などで交流がありますが、そうでない地域はやはり交流が少ないので賑わい創出のような地域イベントが必要かな、と思っています。また真備船穂総おどりのような倉敷市レベルで大規模に実施することも1つの方法ですし、小学校区などの地域でのイベントも重要かと思っております。そのようなイベントでのブース出展などで男女共同参画についての広報をするなどのお手伝いはできるのではないかと思います。また、私を含め市民が男女共同参画についての理解が十分ではないと思うので、講演会、研修会などの開催があれば参加したいと思います。また、「男女共同参画」という堅い言葉ではなく、「家事育児問題」「職場での差別問題」など、具体的な言葉でのアプローチが分かりやすいので、それぞれについて考えていきたいと思っています。

◇よい企画や取り組みがあれば周りに周知する

◇倉敷市の活動を知らないのでコメントできない。まずはもう少し広報活動をしてはどうでしょうか？

◇ボランティア活動をしていきたい。海をきれいにする。山の手入れをする。道路のわきの草取りをする。など。

◇イベントを開催してみて、やる気のある人を募って動いてみたら良いと思う。好きな人は継続的に活動していくと思う。

◇全てを受け入れる。考え方の問題

◇女性への配慮や男性が育児に参加していくことが大切だと考える。

◇性差関係なく、仕事も家事もプライベートもフラットに考え、実践すること。

◇自由記述1でも述べましたが、【男女混合のグループ】単位で、作業・会合など、男女の会話が活発になる仕組みがあるとよい。どうしても、男同士・女同士でかたまってしまいがち。強制的に混合にしておく。まずは、意識改革。超初歩的だが、会話から。会話がないと始まらない。

◇地域の役を、男性ばかりでなく女性にも割り振るべき。町内会長など。また、倉敷市は市長は女性だが副市長や市政の重役は男性が多いので、もう少し女性の役員を増やしていく意識を持った方がいいと思う。(なりたい人がいないという別の問題はあるかもしれないが)

◇どのような活動をしているのかも知らないなので、何も語れない。

- ◇女性を登用することに主眼をおきすぎて、実力がないのに数合わせのために女性を登用するようなことは、あってはいけません。男性でも、女性でも、実力がないのに、評価され高位のポストを与えられているケースもあります。男女の比率を合わせる必要はないと思います。能力のある人が、正しくその能力を評価されることが大切です。女性活躍は推進いただきたい一方で、男女関係なく、適切な評価であらゆる分野での活躍ができる社会を作っていけたらと思います。市議会議員のみなさんが、閉じられた世界で討議しているだけでは発展しません。陪審員制度のように、一般からの声がうまく反映できるような形態を実現できれば、そういった取り組みには積極的に参加していきたいと思います。
- ◇今、行っている会社でもそうだが、男女共同参画になり、女性だから出世が早いなんてこともある。最終的に男性がそのポジションに収まる事が多い。推進する必要があるのだけれど、少し無理矢理な感じも受ける。少しずつで良いので、うまく世間が回っていけばよい。女性はどうしても出産という一大イベントがある可能性があるのも、出産込みで、社会全体が回っていくのがよい。
- ◇私個人に出来る事なんてたかが知れているけど家事手伝いとか子供の世話とかを進んで実施する。女性の負担を軽減することは出来ても女性が様々な分野に参画するという行動を起こす原動力は他の方にお任せします。
- ◇ダイバーシティを目指し、女性の社会進出を促進したいのであれば民間企業もそうなれるようにもっと助成金などで具体的な支援をしてください。国や県、市の役所で働く人たちは少しずつ拡充しているが、民間企業には全然変化無し。
- ◇実現に向けてネックになっている問題点を見極めて、市民に問う
- ◇凝り固まった固定概念を取っ払い、皆で生活しやすい社会にしましょう。

調査票

男女共同参画に関する市民アンケートのお願い

市民の皆さまには、日頃から市政についてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、倉敷市では、「第四次くらしきハーモニープラン」に基づいて、性別にかかわらず、人権が尊重され、個性と能力が発揮できるまちづくりに取り組んでいます。

このアンケートでは、市民の皆様の男女共同参画に関するお考えや実情などをお伺いし、今後の計画策定の基礎資料とさせていただくことを目的に実施するものです。アンケート調査の結果は、ホームページなどを通じて一般に公開するとともに、計画目標の達成状況把握などに活用し、今後の市政運営に役立ててまいります。

アンケートをお願いする方は、倉敷市にお住まいの18歳以上の方から3,500人を無作為に抽出させていただきました。（令和6年7月31日現在）

このアンケートは無記名で回答していただくもので、個人の秘密がもれたり、他の用途に使われたりなどのご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ誠にお手数ですが、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年8月

倉敷市長 伊 東 香 織

ご記入にあたってのお願い

☆回答は封筒の宛名ご本人にお願いします。お名前は記入しないでください。

☆無作為抽出による任意のアンケート調査です。諸事情により回答できない場合などは、ご負担を強いるものではありません。

☆質問は25問、回答にかかる時間は15～20分程度です。

☆記入後は、同封の返信用封筒（切手不要）を使って、**令和6年9月17日（火）**までに郵便ポストに入れてください。

☆**パソコンやスマートフォン**からインターネットを利用した電子申請システムでも回答できます。

URL <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/danjyo/anke/>

2次元バーコードからもアクセスできます。通信料はご回答者様のご負担となります。



【お問合せ先】

倉敷市人権政策部男女共同参画課

〒710-8565

倉敷市西中新田640番地

電話 086-426-3105

FAX 086-426-0990

男女共同参画に関する市民アンケート

回答にあたっては、当てはまる項目を○で囲んでください。

あなたについておたずねします。回答時の状況をお答えください。

F 1 性別	1 男性	2 女性	3 答えたくない	4 ()
F 2 年齢	1 18、19歳 2 20歳代 3 30歳代	4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代	7 70歳以上	
F 3 職業	1 勤め人（常勤） 2 農業・自営業 3 パート・内職	4 専業主婦・専業主夫 5 学生 6 無職	7 その他 ()	
F 4 結婚の経験	1 未婚 2 既婚（事実婚含む）		3 離別・死別	
「2 既婚」と答えた方におたずねします。 F 5 共働きですか	1 共働き		2 共働きでない	
F 6 世帯構成	1 本人だけ 2 夫妻だけ	3 親・子（2世代） 4 親・子・孫（3世代）	5 その他 ()	
子どもがいる方におたずねします。 F 7 小学校入学前の子どもはいますか	1 いる		2 いない	
F 8 介護を必要とする人はいますか	1 いる		2 いない	

男女平等意識についておたずねします。

問 1 ア～カの項目について、男女は平等になっていると思いますか。それぞれ 1～4 の中から 1 つ選んでください。

	平等になっている	男性が優位	女性が優位	わからない
ア 家庭の中で	1	2	3	4
イ 職場の中で	1	2	3	4
ウ 学校の中で	1	2	3	4
エ 地域社会の中で	1	2	3	4
オ 政治の中で	1	2	3	4
カ 慣習・しきたり	1	2	3	4

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

1 同感する	2 どちらとも言えない	3 同感しない
--------	-------------	---------

問3 【問2で「1 同感する」を選んだ方におたずねします。】

同感する理由として、次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1 男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いている
2 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任である
3 妻が働きに出ると、家事・育児・介護に差し支える
4 女性は仕事を持っても、不利な状況におかれる
5 夫と妻の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいく
6 その他 ()

問4 これからは、どのような考え方のもとで子どもを育てるのが望ましいと思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1 「男は仕事、女は家庭」という役割分担を守るよう育てる
2 女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるよう育てる
3 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
4 男女のわけへだてなく、その子の個性を大事に育てる
5 その他 ()

ワーク・ライフ・バランス(※)についておたずねします。

※ワーク・ライフ・バランス

働き方の見直しなどにより、個人の価値観に基づく多様な選択(仕事、家庭生活、地域活動、個人活動などさまざまな活動を自らの希望するバランスで行うことができる)が可能な社会をつくり、意欲をもって働きながら豊かさを実感して暮らせるようになること

問5 あなたの一日平均の労働時間はどれくらいですか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

1 仕事をしていない	5 8時間～10時間未満
2 3時間未満	6 10時間～12時間未満
3 3時間～6時間未満	7 12時間以上
4 6時間～8時間未満	

問6 あなたが一日(仕事をしている日)に家事・育児・介護に関わる時間はどれくらいですか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

1 家事・育児・介護はしていない	4 1時間～3時間未満
2 30分未満	5 3時間～6時間未満
3 30分～1時間未満	6 6時間以上

問 7 仕事、家庭、プライベート（趣味・ボランティアなどの自分の自由な時間）において、次の中からあなたが望ましいと思う生活を 1 つ選んでください。

1 仕事を優先	5 仕事とプライベートを優先
2 家庭を優先	6 家庭とプライベートを優先
3 プライベートを優先	7 仕事と家庭とプライベートの調和
4 仕事と家庭を優先	

問 8 では、あなたの現在の生活はどうでしょうか。次の中から、最も近いものを 1 つ選んでください。

1 仕事を優先	5 仕事とプライベートを優先
2 家庭を優先	6 家庭とプライベートを優先
3 プライベートを優先	7 仕事と家庭とプライベートの調和
4 仕事と家庭を優先	

問 9 仕事、家庭、プライベートの調和を進めるためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを 2 つまで選んでください。

1 労働時間短縮や休日増加の推進	6 育児や介護のための休暇制度や休暇中の諸手当の充実
2 働き方、仕事の進め方の見直し	7 結婚・出産・介護などの理由で退職した社員の再雇用制度の充実
3 賃金・仕事内容など、労働条件での男女格差の是正	8 仕事と家庭の両立などについて相談できる窓口の設置
4 男性の家事・育児・介護への参加促進	9 その他（ ）
5 保育施設、介護のための施設・サービスの拡充	

セクシュアル・ハラスメント(※) についておたずねします。

※セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反した性的な言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なうわさの流布などさまざまなものがある。一般に「セクハラ」と略して使われる。職場以外でも問題になっている。

問 10 過去 5 年間であなたの身近なところ（職場・地域・学校）に、セクハラがありましたか。次の中から 1 つ選んでください。

1 自分自身が受けたことがある	3 見たり聞いたりしたことがある
2 自分自身がしたことがある	4 ない

問 11 【問 10 で「1 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。】

どこでそのようなことがありましたか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

1 職場	4 地域活動
2 学校	5 その他（ ）
3 部活動、サークル活動	

ドメスティック・バイオレンス(※) (DV) についておたずねします。

※ドメスティック・バイオレンス

夫婦（恋人）間暴力のことで、パートナーからの暴力をいう。殴る、蹴るなどの身体的暴力だけでなく、言葉による精神的暴力、性的暴力などいろいろな形がある。一般に「DV」と略して使われる。

問 12 DVに関する相談窓口を知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 13 過去 5 年間であなたの身近なところに DV がありましたか。次の中から 1 つ選んでください。

1 自分自身が受けたことがある	3 見たり聞いたりしたことがある
2 自分自身がしたことがある	4 ない

問 14 【問 13 で「1 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。】

それはどのようなものでしたか。当てはまるものをすべて選んでください。

1 殴る、蹴る、髪を引っ張る、物を投げつけるなど、直接身体に危害を加える行為
2 無視する、怒鳴る、大切なものを壊したり捨てたりするなどの行為
3 行動や他人とのやり取りを監視する、外出を妨げる、家族や友人との付き合いを制限する、就業や社会参加を制限するなどの行為
4 生活費を渡さない、働かせない、お金の使途を細かくチェックするなどの行為
5 意思に反した性的行為の強要、避妊に協力しないなどの行為
6 子どもの前で暴力をふるう、子どもの前でばかにするなどの行為
7 その他（ ）

問 15 【問 13 で「1 自分自身が受けたことがある」を選んだ方におたずねします。】

だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

1 相談した	2 相談しなかった
--------	-----------

問 16 【問 15 で「1 相談した」を選んだ方におたずねします。】

あなたが相談した先について、次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

1 親族、友人・知人	6 人権擁護委員
2 医師・カウンセラー	7 行政の相談窓口（ウイズアップくらしき、女性相談支援センター等）
3 弁護士	8 民間の相談窓口
4 警察	9 その他（ ）
5 民生委員	

問 17 【問 15 で「2 相談しなかった」を選んだ方におたずねします。】

相談しなかった理由は何ですか。次の中から当てはまるものを 2 つまで選んでください。

1 相談するところがわからなかった	5 世間体が気になったり家庭内のことを人に知られたくなかった
2 自分さえ我慢すれば家庭はこわれなかった	6 相手の行為が DV だと思わなかった
3 自分にも悪いところがあると思った	7 その他 ()
4 相談することで、よりひどい暴力や仕返しをされるのが怖かった	

問 18 DV の問題について、どのような支援や対策が必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを 3 つまで選んでください。

1 DV は犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であることの周知・啓発	5 被害者への相談窓口を増やしたり、相談窓口の情報の提供
2 学校での人権教育を通じた暴力等を防止する教育の充実	6 被害者への専門家などによる法的援助
3 地域や職場で行う暴力等を防止するためのセミナー、研修会などの充実	7 被害者への医師などによる医療・心理的援助
4 被害者の身の安全を確保できる場所（シェルター等）の提供	8 被害者への経済的な自立に向けた支援
	9 加害者への指導やカウンセリング
	10 加害者への罰則の強化
	11 その他 ()

倉敷市の男女共同参画施策についておたずねします。

問 19 ア～カの項目について、倉敷市の男女共同参画は実現していると思いますか。それぞれ 1 ～ 5 の中から 1 つ選んでください。

	実現している	ほぼ実現している	あまり実現していない	実現していない	わからない
ア 性別にかかわらず、育児休業や介護休業をとりやすくすること	1	2	3	4	5
イ 性別にかかわらず、自由に職業を選べるようにすること	1	2	3	4	5
ウ 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること	1	2	3	4	5
エ あらゆる分野で女性が登用され、方針決定の場へ女性が参画すること	1	2	3	4	5
オ 自由に地域の行事に参加したり、趣味を楽しむゆとりがあること	1	2	3	4	5
カ メディアの露骨な性や暴力の表現をなくすこと	1	2	3	4	5

問 20 男女共同参画社会の実現のために、倉敷市はどのようなことに取り組めばよいと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

1 学校における男女平等意識のための教育の充実	6 企業等に対する労働時間短縮の働きかけ
2 男女差別となる慣習やしきたりなどを改めるための啓発	7 育児の支援を行うための制度や保育施設の充実
3 男性の家事・育児・介護への積極的参加を進めるための啓発	8 介護の負担を軽減するための制度やサービスの充実
4 DVの防止と被害者支援の充実	9 妊娠・出産に関する相談窓口のほか、女性の健康についての相談窓口の充実
5 企業等に対する女性活躍のための環境整備の働きかけ	10 メディアの露骨な性や暴力の表現をなくすこと
	11 その他（ ）

性的マイノリティ（LGBT）（※）についておたずねします。

※性的マイノリティ・LGBT

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性別不適合など心と体の性が一致しない人）などの総称

問 21 あなたは性的マイノリティまたはLGBTという言葉の意味を知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 22 倉敷市が、性的マイノリティに対する取り組みを行っていることを知っていますか。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 23 性的マイノリティの人権を守るため、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものをすべて選んでください。

1 学校教育現場での取り組み（性の多様性に関わる授業、制服・トイレの配慮）	3 広報誌、ホームページ、講演会等での啓発
2 相談窓口の設置	4 公的施設や窓口での不便解消
	5 その他（ ）

性別による「責任」や「つらさ」についておたずねします。

問 24 自身が男性であることや女性であることに「責任」や「つらさ」を感じることはありますか。

1 ある	2 ない
------	------

問 25 【問 24 で「1 ある」を選んだ方におたずねします。】

そう感じる理由について、次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

1 なにかにつけ、「男（女）だから」「女（男）のくせに」と言われる	7 家事、育児、介護の負担が大きいと感じる
2 自分の容姿を理由に軽くあつかわれる	8 職場や所属する団体で仕事を任せてもらえない
3 力が弱い、スポーツが苦手だと軽く見られる	9 職場や所属する団体で責任を引き受けざるを得ない
4 周囲よりも収入が低いのではないかと感じる	10 本当は苦しいが、弱音を吐くことができない
5 性別を理由に希望する進路や進学先に反対された	11 その他（ ）
6 家族を養う責任をプレッシャーに感じる	

性別にかかわらず誰もがいきいきと暮らせる社会づくりに向けて、ご自由にご意見をお書きください。

--

倉敷市の男女共同参画の実現に向けて、市民の方にしていただけることについて、ご自由にご意見をお書きください。

--

**ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手不要）を使って、
9月17日（火）までにポストに入れてください。**

男女共同参画に関するアンケート結果／市民

作成：倉敷市市民局人権政策部男女共同参画課

〒710-8565 岡山県倉敷市西中新田 640 番地

T E L 086-426-3105

F A X 086-426-0990

E メール gndeql@city.kurashiki.okayama.jp